

「防災教育」学校・地域連携事業 実施事例集

(平成 29 年度指定校)

平成 30 年 2 月

新潟市教育委員会

目 次

1. 本事業の概要	1
2. 平成 29 年度指定校における防災教育	
1) 新潟市立光晴中学校区（北区） 光晴中学校，葛塚小学校，豊栄南小学校	4
2) 新潟市立東新潟中学校区（東区） 東新潟中学校，木戸小学校，沼垂小学校，笹口小学校	18
3) 新潟市立木戸中学校区（東区） 木戸中学校，牡丹山小学校，竹尾小学校	36
4) 新潟市立東特別支援学校（東区）	50
5) 新潟市立上山中学校区（中央区） 上山中学校，鳥屋野小学校，上山小学校	56
6) 新潟市立横越中学校区（江南区） 横越中学校，横越小学校	70
7) 新潟市立新津第二中学校区（秋葉区） 新津第二中学校，結小学校，荻川小学校	80
8) 新潟市立白根北中学校区（南区） 白根北中学校，大鷲小学校，根岸小学校，大通小学校	94
9) 新潟市立赤塚中学校区（西区） 赤塚中学校，木山小学校，赤塚小学校	112
10) 新潟市立五十嵐中学校区（西区） 五十嵐中学校，真砂小学校，五十嵐小学校	126
11) 新潟市立中之口中中学校区（西蒲区） 中之口中中学校，中之口東小学校，中之口西小学校	140
12) 新潟市立西特別支援学校（西蒲区）	154

1. 本事業の概要

(1) 本事業の目的と実施方針

本事業の目的は、教育ビジョンで新潟市が目指す子どもの姿・市民の姿の実現に向け、市内各校が行う防災教育の内容が、家庭や地域と連携した実践的な取組となり、学校に定着し継続したものとなるよう支援することです。

実施方針としては、新潟市教育委員会が新潟県「ふるさと新潟防災教育推進事業(学校実践)」に申請し、その補助金を活用して事業を進めていきます。平成27年度から平成31年度の5年間で、市内全小・中・中等教育・特別支援学校を支援し、各校の「新潟県防災教育プログラム」必須項目を含む各学校の地域の特色に応じた防災教育の自校化にむけた、防災教育実践の専門的な支援、コミュニティ協議会等との地域連携のサポートを行います。

(2) 平成29年度の取組の概要

① 「防災教育」学校・地域連携事業説明会・防災教育プログラム研修会

期 日 平成29年5月11日(木) 時 間 14:00～16:30

会 場 白山浦庁舎 7号棟 405会議室

参加者 平成29年度指定校担当者、地域教育コーディネーター

内 容 事業概要の説明、平成28年度先行実践校の発表、中学校区ごとのグループワーク(地域と連携した防災教育を推進する上での課題等)

② 各中学校区での防災教育ミーティング

期 日 平成29年6月～平成30年1月(3回程度)

時 間 15:00～16:30頃

会 場 各中学校区小・中学校

参加者 各中学校区担当、中学校区支援担当者(コンソーシアム)

内 容 地域連携の意義とその方法についての検討、学校ごとの取組についての情報共有
自校化プラン、年間指導計画、実践事例作成サポート

③ 「防災教育」学校・地域連携事業指定校報告会兼研修会

期 日 平成30年2月22日（木） 時 間 14:00～16:30

会 場 新潟市立総合教育センター 会議室

参加者 平成29年度指定校担当者・平成30年度指定校担当者

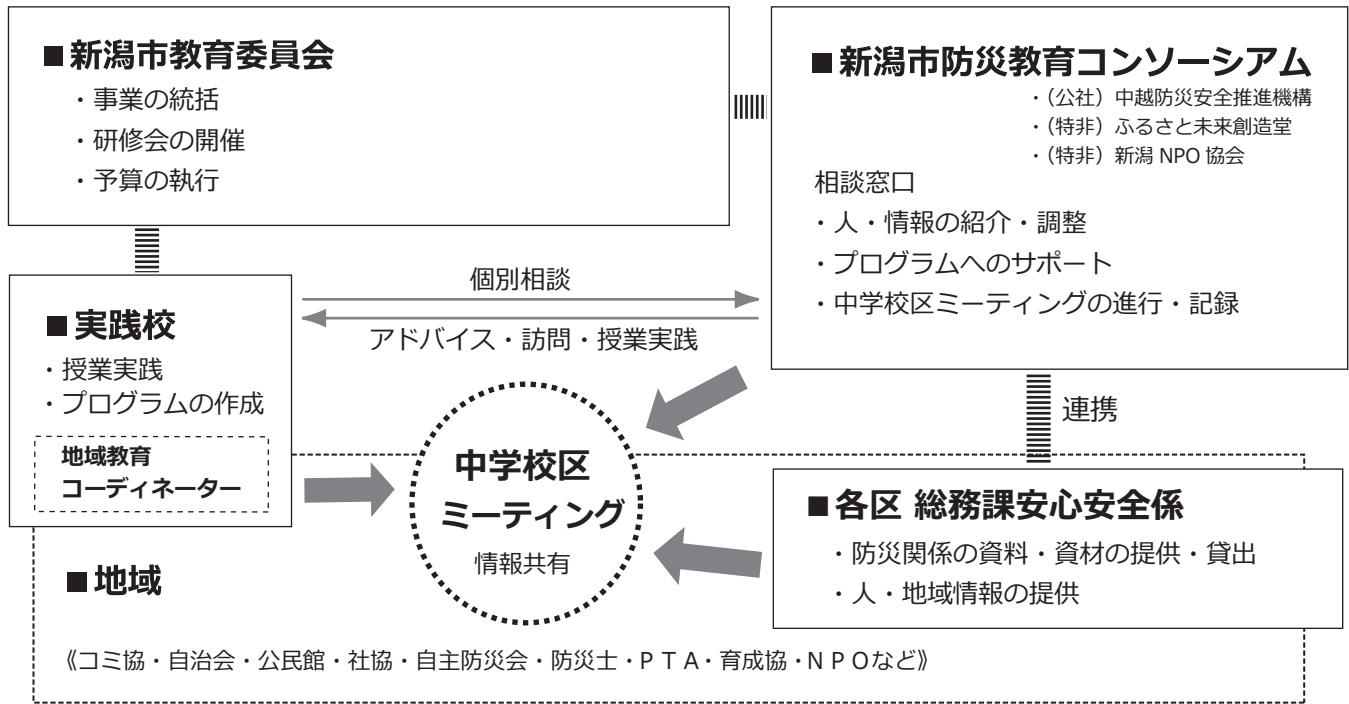
内 容 平成29年度指定校代表による「自校化プラン，年間指導計画，実践事例」報告発表，平成29年度，30年度指定校合同グループワーク（地域と連携した防災教育の意義とその課題等）

（3）平成29年度「防災教育」学校・地域連携事業指定校

区	学校名	区	学校名	区	学校名
北区	葛塚小学校	江南区	横越小学校	西区	木山小学校
	豊栄南小学校		横越中学校		赤塚小学校
	光晴中学校	結小学校	真砂小学校		
東区	木戸小学校	秋葉区	荻川小学校		五十嵐小学校
	牡丹山小学校		新津第二中学校		赤塚中学校
	竹尾小学校	南区	大鷲小学校		五十嵐中学校
	東新潟中学校		根岸小学校	中之口東小学校	
	木戸中学校		大通小学校	中之口西小学校	
	東特別支援学校		白根北中学校	中之口中学校	
中央区	鳥屋野小学校			西蒲区	西特別支援学校
	上山小学校				
	沼垂小学校				
	笹口小学校				
	上山中学校				

（４）本事業全体イメージと新潟市防災教育コンソーシアムの役割

本事業では、市内各校で行われる防災教育の内容が実践的な取組となるように、様々な団体・組織が支援をしています。



この事業を進めるにあたって、学校や地域の特性、実態に合わせた防災教育が実施されるように、公益社団法人中越防災安全推進機構・特定非営利活動法人ふるさと未来創造堂・特定非営利活動法人新潟 NPO 協会の 3 者で「新潟市防災教育コンソーシアム（連合体）」を組織し、事業全体のサポートを担っています。

新潟市防災教育コンソーシアムの主なサポート内容は以下の通りです。

- ・年3回の中学校区ミーティング日程の調整，案内，当日の進行，記録
- ・学習プログラムの企画立案のサポート
- ・講師としての授業実践または個別相談（※各校 1 回程度）
- ・講師（専門家・語り部等）の紹介・コーディネート
- ・地域や外部団体との連携サポート
- ・教材資料の貸出・提供
- ・事業説明会および報告会の研修内容の企画・立案・当日運営（年 2 回）等

各種サポートを通じて、学校と家庭・地域との連携を深め、各学校での防災教育の取組が継続したものとなるよう、支援を行います。

2. 平成29年度指定校における防災教育

1) 光晴中学校区（北区）

対象校：光晴中学校・葛塚小学校・豊栄南小学校

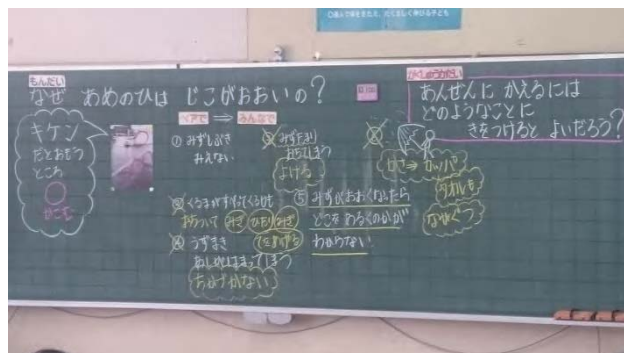
① 中学校区ミーティングの実施日及び主な検討内容

	実施日・会場	検討内容
第1回	平成29年4月13日 16:00～17:15 会場：光晴中学校	1.新潟市「防災教育」学校・地域連携事業研修会の振り返り 2.学校交流会実施についての内容協議 3.各校における防災教育計画・取組予定について情報共有 4.その他（次回の日程調整等）
第2回	平成29年7月7日 15:30～16:30 会場：光晴中学校	1.各校における防災教育の取組について進捗確認・情報共有 2.その他（防災士について、次回の日程確認等）
第3回	平成29年10月11日 15:30～16:30 会場：光晴中学校	1.各校における防災教育の取組について進捗確認・情報共有 2.その他（報告書について、次回の日程確認等）
第4回	平成30年2月5日 15:30～16:30 会場：光晴中学校	1.平成29年度の振り返り 2.平成30年度へ向けた情報交換 3.その他

② 各学校へのサポート事例

対象校	実施日	サポート種別	サポート内容
光晴中学校 葛塚小学校 豊栄南小学校	平成29年 5月8日	講師	学校と地域連携の一環で地域の方々と「もしもあなたの身近に災害が起こったら・・・」自分にできること、地域と学校が一緒にできることを話し合う場を設け、防災の点からコメントをお伝えした。
葛塚小学校	平成29年 5月24日	相談対応	9月に行う予定の洪水時の防災学習について、学習内容を打合せ。学習のねらいや地域資源についてお話した。
葛塚小学校	平成29年 9月12日	参観	授業参観にて各学級で防災学習を行うとのことで授業を参観した。
豊栄南小学校	平成29年 9月24日	参観	ウェルカム参観日に合わせ、防災学習を実施。その後地域合同避難訓練があり、地域の方々が学校へ避難。避難所となる学校が災害時にどのように使われるか、児童が地域の方へ説明を行った。
光晴中学校	平成29年 10月31日	参観	自治会別に顔合わせ会と起震車、AED、段ボールベッド、災害食の体験を全校で実施。参観を行った。

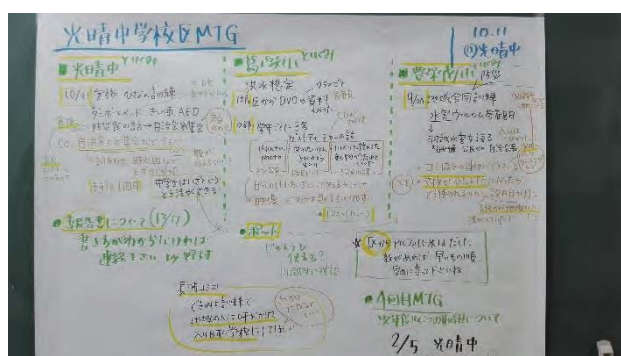
【9/12 葛塚小学校 防災学習板書記録】



【9/24 豊栄南小学校 地域合同避難訓練の様子】



【10/11 光晴中学校区ミーティングの記録】



【10/31 光晴中学校 AED 講習会】



【10/31 光晴中学校 自治会別集会の様子】



③ 新潟市防災教育コンソーシアム担当コーディネーターより

光晴中学校区では、早い段階で地域と連携した防災教育の取組について検討が始まった。毎年行っている行事に防災の視点を加え、小学校・中学校・地域住民・地域団体を巻き込み防災について学習した。地域の方々からは児童・生徒へ期待すること、児童・生徒からは災害時に自分たちに何ができるのかを考え発表を行い、中学校区一帯となり地域と連携を図った。

小学校では、防災教育を学校内だけで完結するのではなく、保護者参観を活用することで、家庭との連携も図った。また、地域の防災訓練の際に、ただ避難して終わりではなく災害時に避難所となる学校がどのように使われるかを高学年の児童が教員から教わり、地域住民に対し説明する時間を設けた。その後、校内の案内を行い、災害時でも自分たちにできることを学習した。

羽越水害から 50 年の節目もあり、地域としても被害を受けていることから、区役所と連携し当時の映像や写真を借り防災学習を行った学校もあった。

＜光晴中学校＞

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード	防災に関しては今まで地震・火災を想定した年二回の避難訓練の際に、それぞれの災害が起こったときの対応を全体指導するにとどまっていた。地域の実態としては、各自治会ごとに防災への取組について若干の差がある。地域毎に防災訓練を行っている自治会もある。地域の優先ハザードは過去に羽越水害を経験したこともあり、水害が優先順位としては高いと思われる。
保護者・地域・教職員等の願い	地域からの要望としては、自治会毎の防災訓練を行っていない自治会もあり、学校と地域住民が一緒に行える避難訓練ができるとよい、という声も聞かれた。地域と関わりあいながら水害や地震等の防災教育を進めていけたらよいのではないかな。
防災教育において、目指す児童生徒像	・様々な災害発生時に自己の安全を第一に、適切な判断ができる生徒。 ・災害時に中学生としての役割を自覚し行動できる生徒。
補助交付期間に実施した主な取組	避難訓練年二回 防災教育として ・段ボールベッド講習会(1年) ・起震車体験(2年) ・AED講習会(3年) ・パッククッキング講話（全校生徒） ・自治会別集会（全校生徒）
自校プランの内容	・年度初めの「地域と学校交流会」で防災という観点から地域住民と生徒との交流会を実施。 ・避難訓練（6／22：地震） ・避難訓練（10／31：火災） ・防災教育（10／31：上記の内容）
自校プランを継続するための方策	・「地域と学校交流会」において、防災を視点にした交流会を計画する。 ・避難訓練の内容を見直し、より効果的な防災教育の場とする。 ・平成29年度実施した体験活動を、継続して実施可能な内容になるよう見直し、各教科・領域の活動の中に位置づける。 ・地域生徒会の編制

2. 光晴中学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年	地域生徒会の編制	5月下旬 地域と学校 交流会 地域の防災 について	6月下旬 避難訓練 (地震) 起震車体験 又は津波対応 について				10月下旬 避難訓練 (火災)				学活：羽越水害 について	
第2学年	地域生徒会の編制	5月下旬 地域と学校 交流会 地域の防災 について	6月下旬 避難訓練 (地震) 起震車体験 又は津波対応 について				10月下旬 避難訓練 (火災)				学活：羽越水害 について	
第3学年	地域生徒会の編制	5月下旬 地域と学校 交流会 地域の防災 について	6月下旬 避難訓練 (地震) 起震車体験 又は津波対応 について				10月下旬 避難訓練 (火災)				学活：羽越水害 について	

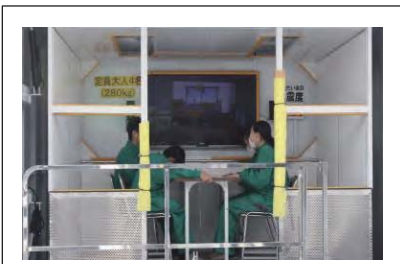
3. 光晴中学校 防災教育指導例

中学校2学年	(学習のねらい) ・ 体験を通して災害発生時の様々な対処法や防災についての知識を深める。 ・ 自治会別集会を通して、各自治会毎の防災に関する対応について考える。
---------------	--

	学習内容（展開例）	資料や学習のポイント等
【導入】	1. 地震発生時の対応について、本時の学習のねらいを確認する。 ①講師の方から地震発生時の対応についての説明を聞く。 ②起震車体験の際の注意事項等を確認する。	【地震発生時の対応についての問い】 ・ 地震発生時には実際にどのくらいの揺れを体感し、そのような行動がとれるのだろうか？ 【想定される答え】 ・ 物につかまっていないと、立ってられない。そのような中で実際にとれる行動は限られている。 【ポイント】 ○実際に揺れを体感し、その中で自分たちの身の安全のためにどのような行動がとれるのかを考えてみよう。
【展開】	2. 起震車体験を通して、自分たちの身の安全のためにどのような行動がとれるかを考える。 ①震度5弱の揺れを体感する。 ②身の安全を優先するためにどのような行動がとれるかを考える。 体験終了後、移動して自治会別集会 3. 各自治会毎に自治会長さんから日頃の防災について取り組んでいることについて聞く。 ①各自治会毎に集まり、自治会長さんや同じ自治会の生徒同士で顔合わせをする。 ②各自治会の状況に応じて自治会長さんから防災の取り組みについて説明を聞く。 1) 各自治会毎の避難場所の確認 2) 各自治会における災害の危険性 3) 日頃自治会で行っている備え	・ 震度5弱の揺れがどの程度のものであるのかを体感させる。 ・ 揺れている最中に自分がどのような行動をしていたかを振り返る。 ・ 揺れの中で自分ができるとは何かを考える。 【想定される答え】 ・ 物につかまっているだけで精一杯。 ・ 机なども固定されていないと役に立たない。 ・ 固定されていない物が跳んできて危なそう。 【問い】 ・ 各自治会で日頃からどんなことに備えているのだろうか？ 【想定される答え】 ・ 避難場所を確認しておく。 ・ 地域の中の中学生としての役割を考えておく。

【まとめ】	4. 学習してわかったことを確認する ①ワークシートに、「授業の感想」などを書かせて、発表させる	ワークシート 【ポイント】 ○ 体験して分かったことをまとめさせる。 ○ 地域の中で中学生としてできることを考えさせる。
【評価】	・ 体験を通して、災害発生時の自分の行動について考えることができたか。 ・ 自治会別集会を通して、地域の中の防災について考えることができたか。	

【授業実践の様子】



【その他の学年の活動】

1 学年…段ボールベッド体験

- ・ 避難所で使われる段ボールベッドを組み立て、使用してみて、段ボールベッドの利点について学ぶ。

3 学年…AED講習会

- ・ 消防士さんによるAED講習会を行い、AEDの使い方について学ぶ。

全校生徒…食に関する講話

- ・ 食生活改善推進委員の方からの講話を聞き、災害時に役立つパッキングについて学ぶ



【1 年段ボールベッド体験】



【3 年AED講習会】



【全校パッキング】

<葛塚小学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード	・昭和41年の下越水害時は、加治川、太田川の決壊により、地区一帯に浸水被害が発生し孤立した。 ・新井郷川、福島潟が近くにあり、地区の大部分が軟らかい地盤上に分布するため、地域としての優先ハザードは、洪水であると考えている。
保護者・地域・教職員等の願い	・地域の自治会ごとに、毎年「防災訓練」を行っているところが多い。しかし学区の自治会全てが合同で行う訓練はなく、保護者によって防災への意識に差がある。 ・地域の行事に積極的に参加し、自分たちの生活する地域の活性化に貢献してほしい。 ・校内の避難訓練は、授業時間や休み時間を想定して行っている。しかし災害は児童が登下校しているときや自宅にいるときなど、学校外で起こる可能性もある。そのため、災害時、どこにいても自分の身を守れるよう、その方法を学ばせていきたい。
防災教育において、目指す児童生徒像	・自分たちが生活する地域の自然を理解し、その自然との関わり方を学び、自分事として考えることのできる児童。 ・「災害から生き抜く力」を備えた児童。
補助交付期間に実施した主な取組	・中学校と連携した防災教育。（5月 6年生代表者） ・4月、6月の避難訓練。（全学年） （4月は通報訓練、6月は児童引き渡し訓練も合わせて行う。） ・下越水害DVD、地域の体験者講話と学習参観時の防災授業。（9月、全学年） ・子どもの体験型安全教室。（9月、1・2年生） ・定期的なベル訓練。
自校プランの内容	・ベル訓練、避難訓練、引き渡し訓練。 ・下越水害DVDと学習参観時の防災授業。
自校プランを継続するための方策	・水害DVDの準備。 ・学習参観日を利用した防災授業の定例化。 ・葛塚小の防災教育（水害）の指導計画作成。

2. 葛塚小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年	地域の方とともに集団下校訓練	避難訓練(火災) 非常ぐへ対応訓練	避難訓練(休憩時 地震)	保護者ぐの引き渡し訓練		子どもの 体験型 安全教室	防災アプリを活用した授業(水害)	地域の方による講話(水害)	非常ぐへ対応訓練	非常ぐへ対応訓練	非常ぐへ対応訓練	
第2学年												
第3学年												
第4学年												
第5学年												
第6学年												

3. 葛塚小学校 防災教育指導例

小学校4学年		(学習のねらい) 私たちの街の洪水の被害について、洪水の起こり方を知り、豊栄やその周辺の土地の高さを調べることを通して、私たちの街ではどんな洪水の被害が起こるか考えることができる。
	学習内容（展開例）	資料や学習のポイント等
【導入】	1. 洪水に興味をもち、川の増水には2つの理由があることに気付く。 ① 大雨による洪水の様子を視聴し、洪水に興味をもつ。 ② 雨が降っていないのに川が増水している写真を見ることで、どうして洪水が起こるか疑問をもつ。 ③ 洪水が起こる理由には、「土地が低いところに集まる」「上流の水が下流に集まる」の2つがあると気付く。	【問いかけの例】 ・ どうして川があふれる洪水が起きるのでしょうか。 【想定される答え】 ・ 土地が低いところに水が集まるから。 ・ 上流の水が下流に集まるから。 【ポイント】 【資料1】「2017.8.19.たまがわ花火大会ゲリラ豪雨落雷のため中止」(映像) ・ 洪水に興味をもたせる。 【資料2】堤防決壊(写真) ・ 写真の天気と川の水量を比較させ、洪水の起こり方に焦点付ける。 【資料3】【洪一資 100a】水の流れてみる洪水と対策のしくみ ・ 川の増水には2つの理由があることをおさえる。
	2. 自分たちの住む街とその周辺の土地の様子を調べる。 <学習課題> たくさんの雨が降り続いたら、自分の家の周りや通学路はどうなるでしょうか？ ① 阿賀野川が決壊した時のハザードマップを見て、この地域にも水が来ることを知る。 ② クラス全体で、この地域の土地の高低の色塗りをし、予想される浸水の様子を知る。	【問いかけの例】 ・ もし、阿賀野川の上流の福島県でたくさんの雨が降り続いたらどうなると思う？ 【想定される答え】 ・ 水が増えて、堤防が決壊するから豊栄にもくるかな。 【ポイント】 【資料4】阿賀野川が決壊した時のハザードマップ ・ 豊栄にも水が来ることを知らせる。 ・ 土地の低い所に水が集まることを確認し、土地の低さを調べると分かることに気付かせる。 ワークシート 【問いかけの例】 ・ たくさんの雨が降り続いたら、自分の家の周りや通学路はどうなりますか。 【想定される答え】 ・ 自分の家の周りは浸水する。通学路も浸水する。 【ポイント】 ・ 色塗りは、拡大した地図をもとに一斉に行う。 ・ 自分の家の周りや通学路はどうなるか、保護者と一緒に考える時間を設定する。
【展開】	3. たくさんの雨が降り続いたら、自分の家の周りや通学路はどのようになるかを考える。 自分の家の周りや通学路にも浸水の可能性があることに気付く。 <まとめ> 自分の家の周りや通学路も浸水する可能性がある。	

	4. 学習してわかったことを確認する	【ポイント】 ○ 時間があったら、発表させる。
【評価】	・映像「水の流れてみる洪水と対策のしくみ」を視聴することで、洪水が起こる理由が理解できたか。 ・豊栄のハザードマップから、土地が低いことに気付けたか。 ・地図に土地の高低の色塗りをすることで、自宅周辺や通学路も浸水の可能性があることに気付くことができたか。	

【授業実践の様子】

第1時：もしたくさんの雨が降ったら、自分の家は、通学路は、どうなる？

第2時：もし自分の家や通学路で洪水災害に見舞われそうになったらどのように身を守る？

第3時：50年前の下越水害を知り、身近に洪水災害が起こりえることを知る。

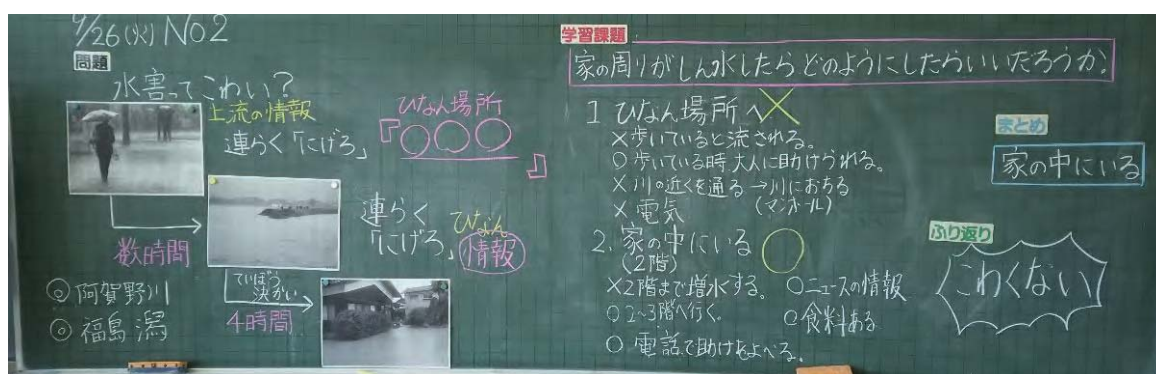
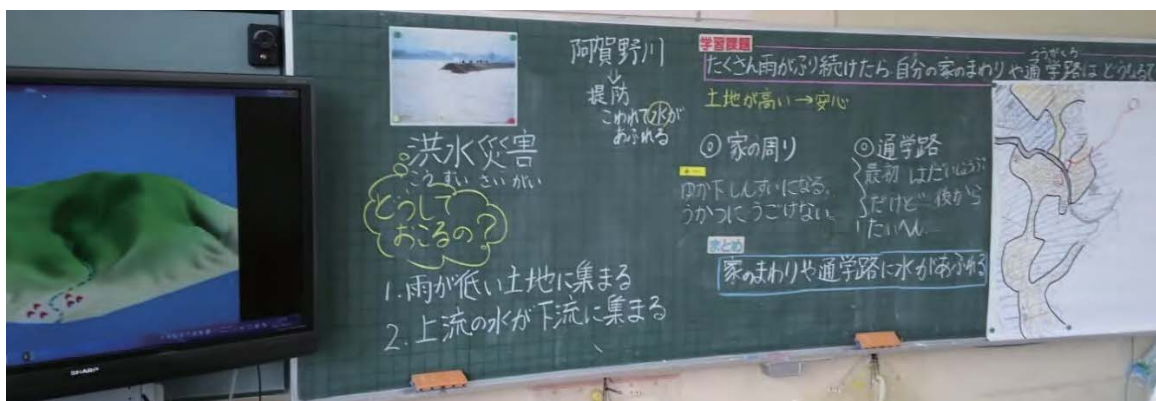
【第1時】



【第3時】



【板書】（上段：第1時 下段：第2時）



<豊栄南小学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード	・ 学校は、阿賀野川右岸に位置し、海拔3.0mである。 ・ 田園地帯という自然環境の中で育っている子どもたちは、おおらかで明るく、くったくがない。保護者・地域住民は学校の教育活動に対して協力的である。 ・ 地域は、阿賀野川の氾濫原地域と福島潟の低湿地地形からなっている。氾濫原地域は自然堤防による微高地形に集落をつくり古くから開けている。また、福島潟南西地域の潟湖周辺部は、福島潟の水位の低下と干拓に伴って集落を形成し校区はこれらの7つの地域で構成されている。 ・ 50年前に起こった羽越水害で、多くの家屋が浸水の被害を受けている。そのため、地域ごとに防災訓練を行っており、防災意識は高い。
保護者・地域・教職員等の願い	・ 50年前、地域は2年連続で大水害に見舞われており、地域住民の多くは「災害はいつ起こるか分からない。」という思いを強くもっている。しかし、保護者世代は、その水害を経験した人はほとんどなく、危機意識はあまり高くないのが現状である。 ・ 児童数が減ってきた5年前に、7つの地域が力を合わせて取り組むことや学校のためにできることを考え、「地域活性化委員会」を立ち上げた。委員会設立の翌年には、地域の団結力を高めるとともに、大きな災害が起こったことを忘れないようにするために「学校地域合同防災訓練」の計画を立てて実行した。この防災訓練を通して、地域、保護者、学校が互いに協力し合い、防災意識を高めていく思いが強くなってきた。
防災教育において、目指す児童生徒像	・ 災害が起きたときに、危険を回避し安全な行動ができる子ども ・ 災害等で学校が避難所になったときに、自らできる役割を自覚し、進んで活動できる子ども
補助交付期間に実施した主な取組	・ 学校地域合同防災訓練の実施 ・ 起震車の乗車体験や煙体験テントを活用した訓練 ・ 羽越水害の映画の上映と水害を体験した人の講話
自校プランの内容	・ 学年の発達段階に応じて、「防災教育プログラム」を活用した授業を行う。 ・ 高学年児童が、地域住民に避難所となっている学校の施設を紹介する。 ・ 地域活性化委員会に地域代表、PTA役員、学校職員が参加して、防災に関する協力体制の構築を図る。
自校プランを継続するための方策	・ 合同防災訓練や各学年の防災教育を教育計画にしっかりと位置づけて、計画的に取り組む。 ・ 地域と連携、協力しながら体験活動を行って、防災への関心を高めていく。 ・ 危機意識や課題意識をもって訓練に参加するように、内容の工夫を図る。

2. 豊栄南小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

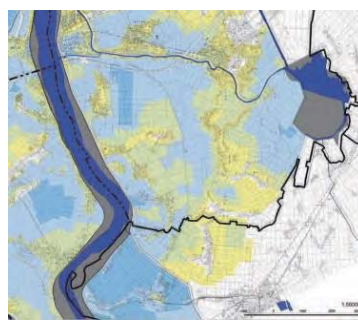
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年			○ 避難訓練（地震・津波）							○ 学級活動（雪道の登下校）		
第2学年	生活 町のすてき 大はっ見											
第3学年	社会 わたしたちの 大すきなまち					○ 学校地域合同防災訓練（洪水・避難所開設・昼食） ○ 防災に関する公開授業（洪水）						
第4学年	社会 火事を防ぎ、地 震に備える			○ 交通安全教室（自転車の乗り方）								
第5学年							理科 流れる水の はたらき	社会 暮らしを支え る情報			社会 自然とともに 生きる	
第6学年							理科 大地のつくり と変化				社会 わたしたちの暮ら しを支える政治	

3. 豊栄南小学校 防災教育指導例

小学校高学年 (学習のねらい)「豊栄南小学校区のハザードマップなどから、浸水や洪水被害が想定よりもひどくなることもあることを知り、避難する時に大切なことや非常持ち出し品について考えることができる。」	
	学習内容(展開例) 資料や学習のポイント等
【導入】	1. 地域の川「駒林川」の2枚の写真を比較し、大雨の時は水位が上昇し、洪水の危険があることに気付かせる。 ① 晴れた日と雨の日の駒林川の写真を提示し、天候によって、川の水位が大きく変化することをおさえる。 ② 大雨の日は川の水位がかなり上がり、堤防を越えて洪水になる危険性があることに気付かせる。 【問いかけ】 - この2つの写真を見て気付くことは何でしょうか。 【想定される答え】 - 晴れた日と雨の日では川の水の量がかなり違う。 - 雨の日は、堤防を越えそうな勢いの流れだ。 【ポイント】 ○ 天候によって、川の水位が大きく変化することに気付く、もしもの時の行動を常日頃から考えておく。 駒林川の水量の変化(写真)
【展開】	2. ハザードマップよりも被害がひどくなることもあることを知る。 ① 地域の洪水ハザードマップを提示し、大雨が降った時は、洪水の危険性が高くなることをおさえる。 ② 洪水ハザードマップを用いて、次の点をおさえる。 「自宅周辺や学校周辺など、地域の洪水の危険性」 「浸水想定図に示されている深さより、深い浸水が起こることもある。」 【問いかけ】 - 写真の大雨は時間雨量 25mm で、ハザードマップが想定している条件は時間雨量 97mm です。天気予報は時間雨量 136mm でした。もし、天気予報どおりに雨が降ったらどうなったでしょうか。 【想定される答え】 - 予報どおりだったら、ハザードマップの想定を越えている。 - ハザードマップより洪水がひどくなることもありそうだ。 洪水ハザードマップ(資料) 3. 日頃から備えておくべきことを知る。 ① 避難する際に、気を付けることをおさえる。 「避難訓練を通じて、避難場所や避難経路を確認しておく。」 「災害が起こってから行動するのではなく、早めに避難できるようにする。」 【問いかけ】 - 実際に、避難するときに気を付けなければいけないことはどんなことでしょうか。 【想定される答え】 - 避難所は、豊栄南小学校だね。 - 被害が大きくなる前に避難するのが大事だね。

	② 非常持ち出し品について、必要な物を話し合いながら、避難する時の持ち出し品についておさえる。 1) 「すぐに避難できるように、非常持ち出し品を用意しておく。」	【問いかけ】 - 避難する時には、どのようなものを持って行ったらよいでしょうか。 【想定される答え】 - 携帯電話や懐中電灯が必要だと思う。 - 持ち出し品がたくさんあるから、袋に入れておくとい
【まとめ】	4. 学習してわかったことを確認する。 ① ワークシートに、学習の振り返りなどを書かせて、発表させる。	【ポイント】 ○ ハザードマップはあくまで目安であって、それ以上の災害も起こりえることを確認する。 ○ 日頃から、非常持ち出し品を家でも準備しておくことを確認する。
【評価】	・ハザードマップから地域や豊栄南小学校周辺などの洪水の危険性や避難場所を理解することができたか。 ・ハザードマップは1つの想定であり、浸水想定図に示されている深さよりも深い浸水になることもあることを理解することができたか。 ・非常持ち出し品、避難方法を日頃から準備・確認しておく必要性を理解することができたか。	

【授業実践の様子】



【板書】



2) 東新潟中学校区（東区）

対象校：東新潟中学校・木戸小学校・笹口小学校・沼垂小学校

① 中学校区ミーティングの実施日及び主な検討内容

	実施日・会場	検討内容
第1回	平成29年6月23日 15:30～16:30 会場：東新潟中学校	1.新潟市「防災教育」学校・地域連携事業研修会の振り返り 2.各校における防災教育計画・取組予定について情報共有 3.その他（次回の日程調整等）
第2回	平成29年10月26日 15:30～16:30 会場：東新潟中学校	1.各校における防災教育の取組について進捗確認・情報共有 2.その他（防災士について、次回の日程確認等）
第3回	平成30年1月25日 15:30～16:30 会場：東新潟中学校	1.平成29年度の振り返り 2.平成30年度へ向けた情報交換 3.その他

② 各学校へのサポート事例

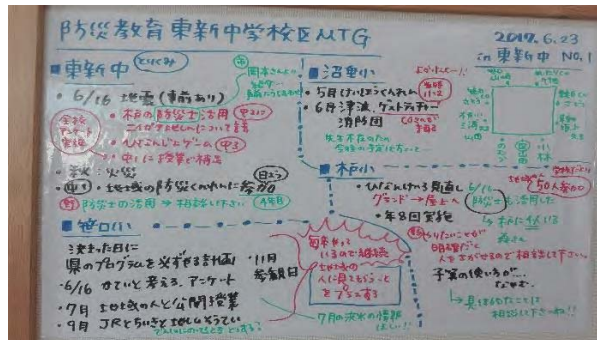
対象校	実施日	サポート種別	サポート内容
沼垂小学校	平成29年 5月23日	相談対応	新潟地震の語り部の相談についての打合せ。過去に地域に語り部を行った方がいるので紹介した。また、地域教育コーディネーターに確認すると他にもできる方が地域にいる可能性があることをお伝えした。
笹口小学校	平成29年 6月5日	相談対応	7月21日に避難訓練を行う際に、地域特性として、大雨の際に水害の被害が出やすい地域なので、浸水の被害予想や範囲、避難のポイントなどを話せる方を紹介してほしいとの依頼。防災士・区担当者・外部講師・教員の中で検討した結果自校化を目指し、教員が行うこととなった。資料提供やプログラム計画などをコンソーシアムと打合せし作り上げていくこととなった。
東新潟中学校 木戸小 笹口小学校 沼垂小学校	平成29年 6月26日	情報提供	需用費の手続きの流れについて情報提供を行った。
東新潟中学校 木戸小 笹口小学校 沼垂小学校	平成29年 6月28日	資料提供	過去の洪水でこの地域でも浸水被害があったので、過去の記録を新潟市防災課から入手し、防災学習でできるように資料提供を行った。
笹口小学校	平成29年 7月4日	資料提供	洪水時の避難行動、備えについての資料を防災学習用に作成し、資料提供を行った。
笹口小学校	平成29年 9月15日	参観	新潟市防災課事業「親子防災教室」を活用した防災学習授業を参観。
沼垂小学校	平成29年 10月17日	打合せ	11月の総合的な学習で防災に関わる方へのインタビューを検討。地域人材の選定について情報提供を行った。

沼垂小学校	平成 29 年 11 月 17 日	講師 参観	地域の防災に関わる方にインタビューをする授業で、その 1 人としてインタビューを受けた。それぞれのグループでまとめたものをポスターにして平成 30 年度の発表へとつなげる。
-------	----------------------	----------	--

【6/16 木戸小学校 避難訓練】



【6/23 東新潟中学校区ミーティングの様子】



【9/6 東新潟中学校 防災学習の様子】



【9/15 笹口小学校 親子防災教室の様子】



【11/17 沼垂小学校 インタビューの様子】



【11/17 沼垂小学校 インタビューの様子】



③ 新潟市防災教育コンソーシアム担当コーディネーターより

平成 10 年 8 月に豪雨にて浸水箇所が多数ある地域。児童・生徒としては身近に感じられることから洪水災害時の避難行動や身の守り方を学習した学校もあった。

また、地域にいる防災に関わる方へのインタビューを行い、地域防災の実情やどんな仕事をしているのか聞き取り調査を行った。様々な立場の方から活動について聞くことで、防災分野でも多様な切り口があることを理解した。成果の一つとして地域の方に向け発表する場も設ける。

また、地域の防災訓練を確認し、児童・生徒の参加を促す方法で地域との連携を図った学校もあった。

単に避難訓練を行うのではなく、地域の防災士の方を招きお話を頂いたり、引き渡し訓練に合わせ防災学習を行ったり、地域防災マップを作成するにあたり保護者も参加できるように工夫し、家庭や地域と連携している学校もあった。

<東新潟中学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード	・日本海まで約3km, 近くに栗ノ木川・通船川が流れている。海拔は0.3mで, 新潟県の津波浸水想定では, 発災から360分未満で学校近辺に津波が来ることが想定されている。浸水深は1.0m未満。ただし, 学区では60分未満で津波が来ることが想定されたり, 浸水深が2.0mに達したりする場所もある。 ・校舎は耐震工事が施されており, 崩壊や倒壊する危険度は少ない。 ・学校は地域の津波避難場所に指定されており, 災害時に多くの地域住民が避難に来ることが予想される。
保護者・地域・教職員等の願い	・生徒は地域の防災訓練に毎年参加をしており, そこで防災や救命に関する知識や技能を身に付けてきた。そのような経緯から, 中学生が災害発生時に様々な役割を担ってほしいという願いがある。 ・保護者や教職員からは, 「自助」と「共助」を実践し, 安全に配慮しながら適切な行動をとり, 自分の命を確実に守ってもらいたい。
防災教育において, 目指す児童生徒像	・災害発生時に, 自分の命を自分でしっかりと守れる生徒。 ・災害発生時に, まわりの方々と連携し, 主体的に行動できる生徒。 ・地域社会の一員として, 地域防災の担い手となれる生徒。
補助交付期間に実施した主な取組	・避難訓練（地震・津波想定, 火災想定） ・防災士の方から新潟地震の様子についての講話（全校生徒） ・防災教育プログラムを活用した授業（全学年） ・校舎マップを使って避難者誘導を想定した災害対応トレーニング（3年生） ・地域の防災訓練への参加と協力（1年生）
自校プランの内容	・地震, 津波, 雪害を中心とした県防災教育プログラムを用いて, 3年間で計画的に学習できるようにする。 ・年2回の避難訓練の実施 ・地域の防災訓練への協力と参加 ・地域貢献活動（避難ルートの把握と確認）
自校プランを継続するための方策	・年間活動計画に位置付け, 確実に実践できるようにする。 ・地域で防災士や消防団として活躍されている方にゲストティーチャーとして参加してもらう。また, 東消防署とも連携をとれるようにする。 ・地域教育コーディネーターとの連携を行う。

2. 東新潟中学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年		防災学習（地震・津波想定）	避難訓練（地震・津波想定）	防災学習（自助）		小学校区ごとの 防災訓練参加	地域貢献活動（避難経路確認）	避難訓練（火災想定）		防災学習（雪災害）		
第2学年				防災学習（津波）			避難訓練（Jアラート対応訓練） 防災学習（火災）					
第3学年				防災学習（共助）								

3. 東新潟中学校 防災教育指導例

中学校2学年		(学習のねらい)「津波から身を守るために、どのようなことをすればよいか知る」 ・津波が起きたとき、どのような行動をとればよいのか考える
	学習内容(展開例)	資料や学習のポイント等
【導入】	1. 避難訓練の事前指導で行った内容の復習を行う - 地震が起きた際、どのような行動をとればよいのか確認する。 - 震源が海底の場合、津波の危険性があることを確認する。 - 本時のねらいの確認をする。 2. 「津波」という言葉から知っていること、イメージすることをまとめる。 - 津波の映像資料を見て、津波の破壊力やスピード、普通の波との違いなどについて理解する。 - スライドを使って、津波とはどのような波なのか説明を聞く。確認する。	【資料】新潟県防災教育プログラム 津波災害編 ワークシート 【問いかけの例】 - みなさんは「津波」という言葉からどのようなことをイメージしますか？ 【想定される答え】 - 怖い ・すべてを押し流す 【ポイント】 - 津波が起こるメカニズムをきちんと理解し、普通の波と何が違うのか理解できるように映像や画像で説明する。
	3. もし、津波が来たときにどこに避難するのが良いか考える。 ①家にいる場合 ②もう1カ所、家と学校以外でいる時間が長い場所の場合 2パターンで大津波警報や津波警報が発表されたとき、どこに避難すればよいか具体的に考え、その避難場所を確認する。 - グループで発表を行う。 4. 自分の命はもちろん、家族や地域の人たちの命も守るために、自分にできることはどんなことがあるか考える。 - 個人で考え、グループで発表する。 - 避難をするときに、自らが率先して避難を行い、まわりの人や家族にも避難を進められるような存在になることを確認する。	ワークシート 【問いかけの例】 - 学校以外の場所で津波が来たときに、どこに逃げるのが一番いいのでしょうか。具体的な建物の名前を書いてみましょう。 【想定される答え】 - 近くの小学校 ・近くの高いマンション 【ポイント】 3階以上の頑丈な建物に避難することを確認する。 - 家が3階建でも流される可能性があることを確認する。 【問いかけの例】 - 自分だけでなく、まわりの人を助けるためにも自分にできることはどんなことだろう？ 【想定される答え】 - 大声で津波が来るぞと声を出す - 避難しようと家族に声をかける。 【ポイント】 - 自分が第一避難者になる意識をもたせる。

【まとめ】	5. 学習してわかったこと、感じたことなどを確認する。 ① ワークシートに、「授業の感想」を書かせて、発表させる	ワークシート 【ポイント】 ○ 場所によって津波が来る時間は変わる。とにかく早く避難することが大切であることを確認する。
【評価】	・津波がどのような波であるか理解し、津波が起きた際、どのような行動をとればよいか考え、理解することができる。 ・津波が起きた際、「自ら率先して避難をし、まわりの人や家族などにも声をかける」などどのようなことが自分に行えるか考えることができる。	

【授業実践の様子】



【スライド資料】

平成29年6月13日(火)
 <津波について考えてみよう！>

<課題>
 津波から逃げるためにどのようなことが大切なのか？

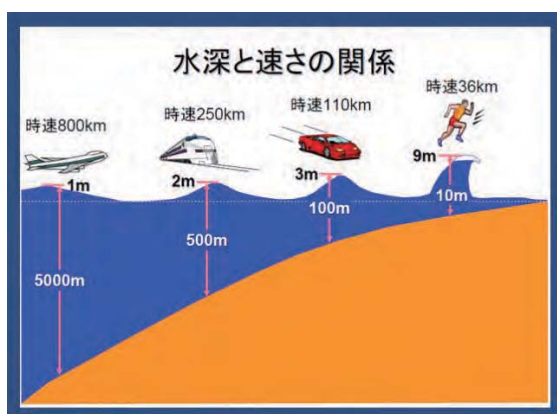
津波が来るときの対応

「津波警報」= 1m～3mの津波が来る
 「大津波警報」= 3m以上の津波が来る

津波から命を守る3つの大切なこと

- ①素早く逃げる（避難する）
- ②より高い所に逃げる（避難する）
- ③戻らない⇒「避難所で合流する」

⇒津波避難ビルなどの3階以上に上がれ！
 ⇒家族や地域の人たちにも避難するように声を掛けよう！ 第1避難者になろう！



まとめ

（大）津波警報・注意報⇒津波からの避難
早足で、どちらも6分以内に避難完了する！
 できるだけ高い建物に避難する。
 家族や地域の人たちも守れるよう、声をかけあったり、避難するよう促す。

<木戸小学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード	・学区のほとんどがほぼ海拔0.5m地帯に位置している。地震発生時に津波が遡上した場合、地域のほとんどが浸水する可能性がある。 ・東区津波到達時間図によると、2時間～約7日後に浸水が予想され、長期湛水地域になっている。
保護者・地域・教職員等の願い	・地域の方は防災に対する意識は高いが、地域ごとで行われている防災訓練への参加等具体的な取組に対する個人の温度差がある。 ・学校でも地震や津波に対する学習を進めるとともに、津波に備えた避難訓練を地域を含めて毎年行っていく。
防災教育において、目指す児童生徒像	・火災、地震、津波等の災害が発生した場合、「自分の命を大切にする」ことを意識して行動できる児童。 ・地域の防災への取組について知り、地域の防災について自分たちができることを考え、行動する子ども。
補助交付期間に実施した主な取組	4月21日（金）集団下校訓練 6月9日（金）ベル訓練 6月16日（金）全市一斉地震対応訓練 7月3日（月）不審者対応に関する指導 11月2日（木）ベル訓練 11月5日（日）木戸小学校区防災訓練 11月10日（金）火災想定避難訓練 12月5日（火）引き渡し訓練 12月19日（火）集団下校訓練
自校プランの内容	・地域住民を交えた地震・津波発生時の避難訓練。 ・地域安全マップ作り。 ・学区の防災訓練。 ・引き渡し訓練（12月） ・学級活動の時間に防災学習（12月）
自校プランを継続するための方策	・地域教育コーディネーターと連携し、外部講師や地域の防災士と連絡を密にし、避難訓練等に参加・助言をいただく。 ・防災教育全体計画に基づき、避難訓練の計画を立て、年間行事に優先的に位置付ける。

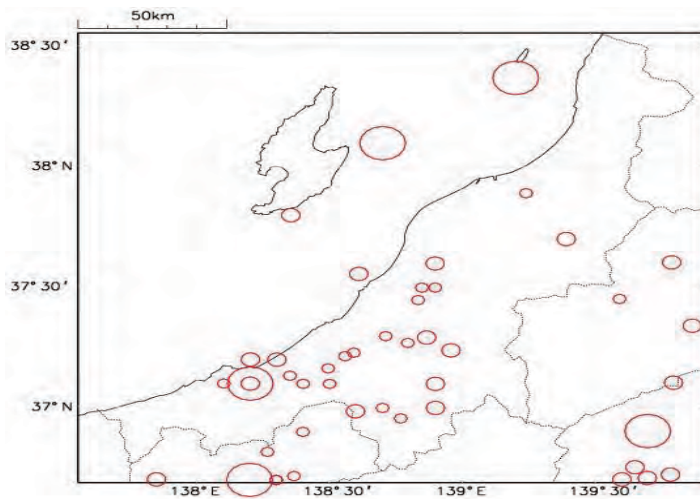
2. 木戸小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年	集団下校訓練		ベル訓練・全市一斉地震対応訓練	不審者に対する指導		地域安全マップ作り保護者説明	地域安全マップ作り児童研修	木戸小学校区防災訓練	地域安全マップ作り5年生	ベル訓練・避難訓練（火災）	引き渡し訓練・集団下校訓練	
第2学年												
第3学年												
第4学年												
第5学年												
第6学年												

3. 木戸小学校 防災教育指導例

小学校高学年	(学習のねらい)「揺れがおさまった後の身の守り方を学ぶ」 ・地震後の家や家の周りの状態を知る。 ・揺れがおさまった後の危険と身の守り方を考える。
---------------	--

	学習内容(展開例)	指導ポイント・使用資料
【導入】	1. 地震の後に取るべき行動について学習することを伝える ①学校(教室)で地震が発生した時、また、その後身を守るためにどのような行動をとるかを問いかける。 ②大きな揺れがおさまった後でも、地面が揺れたり、物が崩れたりすることがあるなど、様々な危険があることを伝える。 ③揺れがおさまった後に気をつけることと身を守るための行動について学習することを伝える。	資料①新潟県の主な地震被害 ■想定される答え ・帽子やランドセルなどで頭を守る。 ・机の下にもぐって体をしっかりと隠す。 ・揺れがおさまるまでじっと待つ。 ・教職員や校内放送の指示にしたがって行動する。
【展開】	2. 揺れがおさまった後の危険について学習する ①地震のあとの家と周りの様子の写真をモニターで映す。 ②写真ごとに「どこが危険だろうか」「信号がつかないとどうなるだろう」などと問いかけ、児童の意見を発表させながら、揺れがおさまった後の危険について学習する。 ③地震が起きて大きな揺れがおさまった後でも、色々な危険に気をつけなければいけないことを気づかせる。 3. 揺れがおさまった後の家での行動について考える ①ワークシートを配付し、揺れがおさまった後の行動について確認する。 ②「みなさんの家の周りで起こりそうなこと」「気をつけなければいけないこと」をワークシートに記入させ、発表させる。 ③近所の大人と一緒に安全な場所に向かう間に気をつけること、気をつける場所について考えさせ、ワークシートに記入させ、発表させる。	資料②学校の地震被害 資料③地震の時の家や町の様子 資料④ー1 地震の後の家と周りの様子 資料④ー2 地震の後の家と周りの様子 資料⑤中越大震災 潰れたスーパー ■想定される答え ・余震で建物や塀が倒れたり、物が落ちてきたりする。 ・がれきが道に落ちていて車や人が通行しにくい。 ・電気が止まって街灯や信号が使えなくなる。 ・火事、津波、土砂災害が発生することがある。 ・電線が切れて落ちてくる。 ・ガス漏れが発生する。 ■想定される答え ・近所で火事がおこる。 ・家が傾いていて倒れる。 ・隣の家が崩れ、自分の家に倒れてくる。 ・電柱が倒れる。 ・道が崩れて通れない。 ・液状化現象がおこる。 ■想定される答え ・倒れそうな家や塀などがある場所。 ・がれきなどで道幅が狭くなっている場所。 ・電線が切れてぶら下がっている場所。 ・ガラス片や釘、とがった木片など。
【まとめ】	4. 地震についてわかったことをまとめ、確認する ①学習した内容について、感想や意見をワークシートに記入させ、発表させる。 ②災害が発生した時の親との連絡方法を家庭で防災手帳に書く。	◎災害が発生した時の親との連絡方法、避難場所について各家庭で確認して、防災手帳に記入する。



資料① 新潟県の主な地震被害



資料② 学校の地震被害



資料③ 地震の時の家や町の様子



資料④－1 地震の後の家と周りの様子



資料④－2 地震の後の家と周りの様子



資料⑤ 中越大震災 潰れたスーパー

<沼垂小学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード	・学校は栗ノ木川のすぐそばに位置している。海拔1.3mで、津波による浸水が地区全域で想定されている。 ・地区の大部分が軟らかい地盤の上に分布するため、大きい地震の時には、強い揺れや液状化の可能性がある。 ・阿賀野川の洪水、信濃川の洪水、通船川流域の洪水によって、浸水の可能性がある。特に信濃川下流の洪水では、地区の全域で浸水の可能性がある。
保護者・地域・教職員等の願い	・「上町・日の出」「馬越」「明鏡」地区に分かれて自主防災訓練を実施しており、地域住民の防災に関する意識は高い。反面、児童の参加率が低く、地域住民は、児童にもっと防災に関する意識を高めてほしいと願っている。 ・学校では毎年、地震、火災、不審者対応の避難訓練を行っている。児童は真剣に取り組み、安全に行動している。
防災教育において、目指す児童生徒像	・安全について正しい理解をし、自ら安全に行動できる子ども。 ・自分の住む地域に起こりうる災害、危険な箇所、避難する場所や方法について理解し、行動できる子ども。
補助交付期間に実施した主な取組	・年間4回の避難訓練（地震 火事 不審者 引き渡し） ・避難訓練時に地域の消防団をお招きし、避難の様子を講評していただいた。 ・地域の方をお招きし、新潟地震の体験談について語っていただいた。 ・5年生の総合的な学習「助け愛 支え合い 沼垂のまち！」において、地域の防災の取組について学んだ。
自校プランの内容	・地域との連携を大切にした避難訓練の実施 ・各教科、総合的な学習の時間を活用した新潟県防災教育プログラムの計画的実施。 ・5学年総合的な学習の時間「助け愛 支え合い 沼垂のまち！」の実施。
自校プランを継続するための方策	・地域と連携を取りやすいように、避難訓練の計画を年間行事に優先的に位置付ける。 ・新潟県防災教育プログラムをカリキュラムに位置付け、計画に取り組めるようにしていく。 ・5年生の総合的な学習「助け愛 支え合い 沼垂のまち！」の取組について、適宜見直しを図り、継続的に取り組める内容へと精査していく。

2. 沼垂小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年	新潟県防災教育プログラム (地震・津波)	第1回 避難訓練 (地震・津波)					新潟県防災教育プログラム (洪水・土砂)	第2回 避難訓練 (引き渡し)		第3回 避難訓練 (不審者)		新潟県防災教育プログラム (雪害)
第2学年	新潟県防災教育プログラム (地震・津波)						新潟県防災教育プログラム (洪水・土砂)					新潟県防災教育プログラム (雪害)
第3学年	新潟県防災教育プログラム (地震・津波)						新潟県防災教育プログラム (洪水・土砂)					新潟県防災教育プログラム (雪害)
第4学年	新潟県防災教育プログラム (地震・津波)						新潟県防災教育プログラム (洪水・土砂)					新潟県防災教育プログラム (雪害)
第5学年	新潟県防災教育プログラム (地震・津波)	総合 「助け愛 支え合い 沼垂のまち！」		総合 「助け愛 支え合い 沼垂のまち！」						総合 「助け愛 支え合い 沼垂のまち！」		
第6学年	新潟県防災教育プログラム (地震・津波)						新潟県防災教育プログラム (洪水・土砂)					新潟県防災教育プログラム (雪害)

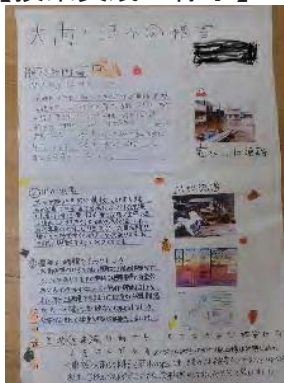
3. 沼垂小学校 防災教育指導例

小学校第5学年 総合的な学習の時間 (全35時間)	(学習のねらい)「地域の防災について自分たちのできることを考える」
--	--

	学習内容（展開例）	資料や学習のポイント等
【つかむ】	1. 「身近な災害について調べよう」(10時間) ○オリエンテーション ・震度5以上の地震ランキングから、新潟県が地震発生しやすい場所であることを確認する。災害には、地震・火事・津波・洪水等様々なものがあることを理解する。 ○興味をもった災害を調べる。 ・地震、火事、津波、洪水から自分の調べたい災害を決め、インターネット、本を活用して調べる。 ○調べた災害についてまとめる。 ・調べたことをグループでポスターにまとめる。 ○発表会を行う。 ・発表会后、ふりかえりレポートを書く。	○発表会は、学習参観時に保護者を対象に行う。
【調べる】	2. 「自分たちのまちの防災活動はどうなっているか調べよう」(10時間) ○自分たちが住んでいる沼垂のまちでの現状を知る。 ・沼垂地区で、防災活動に取り組んでおられる方をお招きして、聞き取り活動を行う。 ・うかがった話をポスターにまとめる。 ○沼垂のまちの防災について自分たちの課題を考える。 ・防災訓練に小学生が参加していない。 ・子どもたちが、自分の避難場所をしっかりと把握していない。 ・災害が起きた時の備えをしていない。 ・災害時の対応における知識や技術が不足している。	○お招きした方 ・コミュニティ協議会長 ・赤十字の活動に従事している方 ・消防団 ・民生委員会長 ・食生活改善推進委員 ・新潟市防災課職員 ・中央区総務課職員 ・新潟地震体験者 ○うかがった話を参考に自分たちの課題を考える。 ○災害への備えで自分たちができることをまとめていく。 ○災害が発生した場合にできることをまとめていく。 ○必要に応じて防災士、消防団をお招きしての講習を行う。

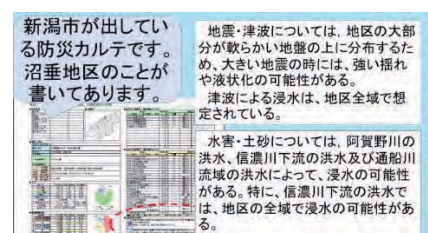
	3.「自分ができていることを考えよう」(5時間) ・「いざというとき行動チェックリスト」の作成。 ・災害時にできることを知り、やってみたい課題を決める。(簡易トイレ・ベットづくり・新聞紙スリッパ・レジ袋による応急処置等) ・他学年に防災訓練参加の呼びかけ	○課題にあがったことを基に、自分ができていることを考えさせる。 ○必要に応じて、防災士や消防団員を招いて、災害時における知識や技術の伝達を行う。 ○チラシを作成し、防災訓練の大切さを他学年に伝える。
【深める】	4.「学習したことを発信しよう」(10時間) ○これまで学んだことを整理する。 ・災害が起きた時の被害 ・沼垂のまちの防災について取り組んでいる方々 ・自分たちに足りなかった点 ・自分たちができていること ○学んだことを発信する。 ・整理したことを劇にする。 ・地域の祭りで劇を発表する。	○4月に行われる地域のさくら祭りで学んだことを発表する。
【評価】	○調査活動や体験活動を通して、自分なりに防災にかかわる課題を見付けることができる。 ○課題解決のために、進んで調査、インタビュー等を行うことができる。 ○学んだことや考えたことを分かりやすく表現し、伝えることができる。 ○学習を通して、地域への愛着をもち、地域の一員として、よりよく防災活動にかかわろうとする気持ちをもつことができる。	

【授業実践の様子】



震度5強以上の地震発生回数(気象庁データベースより)

1位 新潟	23回
2位 東京	20回
3位 福島	19回
4位 宮城	15回
5位 茨城	14回
6位 熊本	13回
7位 北海道	12回
7位 岩手	12回
9位 長野	11回
10位 青森	10回



< 笹口小学校 >

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード	- 学校は新潟駅南側の繁華街に位置しており、学校周辺は人や車の往来が多い。海抜0 m以下に位置しているため豪雨時に学校近辺が浸水する危険性がある。また、津波が発生した際は海や信濃川からは離れているため到達するまでに時間がかかるが0.5 mほどの浸水が予測されている。 - 児童の登下校路沿いには高い建物が多く、地震が発生した際には頭上からのガラス落下なども注意しなければならない。 - 校区内は転勤で県内外から移住する家族が多く、地域の特性などを知らない保護者も多くいる。
保護者・地域・教職員等の願い	避難訓練などを通して、災害時に必要な事柄を実践的に理解させることで、安全な生活を営むことのできる態度や能力を養いたいと考えている。また防災教育では災害のメカニズムや地域の危険性、そしてその対応策に関する知識を習得するとともに、自分たちが生活する地域の自然とのかかわり方を学んでほしいと願っている。
防災教育において、目指す児童生徒像	自分たちが生活する地域の特に起こりうる災害の特性を知り、その災害のメカニズムやその対応策に関する知識を習得することで災害発生時に自ら考え行動することができる子ども。
補助交付期間に実施した主な取組	- 保護者、地域に公開した防災教育の実施 笹口小学校で最も心配される洪水浸水の防災教育を地域の方、保護者に公開して実施した。当日は、地域の方、保護者に向けて学校に備蓄されている備品の公開（学校職員による説明も実施）や浸水に対するハザードマップの掲示も行った。 - 保護者参加型避難訓練の実施 参観日に、保護者と共に地震・津波が発生したと想定して避難訓練を行った。 - JR東日本が主催する訓練に参加 実際に電車乗車中に災害が発生したという想定で避難訓練に6年生が参加した。 - 親子で防災教室開催 新潟市防災課が主催する親子防災教室を参観日に2学年で実施した。 - 赤十字社と連携した自然教室での炊飯体験 自然教室の野外炊事の際に、日本赤十字社と連携して、災害時にどのようにご飯をたけばいいのか実践した。 「新潟県防災教育プログラム」の活用 防災教育を行う日時を過去の災害に関連する日に設定して、全校一斉に防災教育を行うようにした。
自校プランの内容	- 防災教育プログラム実施日を保護者・地域にも知らせ、防災教育を学校だけで実施するのではなく、地域や保護者にも公開することで地域の実情を共有し、防災意識を高める。 - 避難訓練を参観日に実施することで、保護者に避難訓練の様子を知ってもらおうと共に学校にいる時に災害が発生したら、どのように避難したらいいのか考える機会とする。また、地域にも公開して、避難器具の使い方なども合わせて学習できる場とする。
自校プランを継続するための方策	- 新潟県防災教育プログラムを今後も年間行事予定に位置付け、全校一斉に実施していく。 - 新潟県防災教育プログラムだけでなく、赤十字防災教育プログラムも並行して活用していくことで、防災教育を充実させていく。 - 年や回によって防災教育の内容を変更しながら地域に公開して、学校が防災について考えていく地域への発信地となるようにしていく。

[illegible]

3. 笹口小学校 防災教育指導例

全校児童 (45分)	(学習のねらい)「洪水・浸水からどのように自分の身を守ればいいのか考える」 ・自分たちが住んでいる地域の実情を知り、災害時の身の守り方を知る
---------------	---

	学習内容（展開例）	資料や学習のポイント等
【導入】	1. 日本全国で洪水・浸水被害が起きていることを知る。 ① 九州や東北で起きた洪水の写真を提示して、<u>日本各地で洪水・浸水の災害が発生している</u>ことをおさえる。	【問いかけの例】 ・洪水で大きな被害が出た時の写真です。どこで起きた洪水だと思いますか。 【想定される答え】 ・どこだろう。新潟の近くかな。 【ポイント】 ○ 日本各地で洪水被害が起きていることをおさえる。
【展開】	2. 自分たちの地域でも洪水、浸水被害が起きることについて知る ① 日常の学校区を写した写真と同じ場所で浸水災害が起きた時の写真を提示して、<u>自分たちが住んでいる地域でも浸水災害が起きる</u>ことをおさえる。また、どれくらいの深さになるかも知る。  3. 自分の身の守り方を考える。 ① 学習課題「<u>どのように浸水から自分の身を守ればいいのか</u>」をおさえる。 ② どのような時に浸水・洪水が起きるのか考える。 ③ <u>大雨を降らす雲、積乱雲</u>について知る。 ④ 浸水・洪水が予測されるとき、どのようにすればいいのかおさえる。	【問いかけの例】 ・この場所はどこでしょうか。 【想定される答え】 ・さっきの写真と同じで、学校の近く。こんなに水が増えてしまうことがあるとは知らなかった。 【資料1】 学校近辺の写真と同じ場所での浸水時の写真 【資料2】 新潟市作成のハザードマップ 【問いかけの例】 ・どのような時に洪水・浸水が起きると思いますか？ 【想定される答え】 ・大雨の時。 ・台風が来たとき。 【資料3】 日本赤十字社作成 防災教育プログラム 【ポイント】 ○大雨が降る、台風が来る、積乱雲が近付いたと分かったときは、外出はしないことを確認する。 ○なるべく高いところに逃げることを確認する。 ○浸水時の水深が浅くても動けなくなってしまうことがあることを知る。

【めとる】	4. 学習してわかったことを確認し、振り返りを行う。 ① ワークシートに、浸水・洪水が起きると予測されたとき、どのように行動すればいいのかまとめる。 ② これから自分はどのように行動するか振り返りをワークシートに書く。	ワークシート 【ポイント】 ○ <u>大雨が降りそうなときは外出をしないこと、実際に浸水・洪水が発生したら、なるべく高い所に逃げることを確認する。</u>
【評価】	・浸水・洪水災害は、自分たちが暮らす身近なところでも発生することを理解できたか。 ・洪水・浸水災害を起こす原因として、台風や局地的豪雨、積乱雲などが関連していることを理解することができたか。 ・浸水・洪水災害からどのように行動すれば自分の身を守ることができるかを理解することができたか。	

【授業実践の様子】



【スライド資料】




学校のまわりも、みんながすんでいるちいきもこう水がおこるかのうせいがあります。

どのようなときに、こう水がおきるのだろうか？



まとめ
おおあめのとき
川から水があふれそうとき




そとにでない たかいところにげる

このあと、きょうしつにもどって「ふりかえり」をします。

これからじぶんは、どのようなことにきをつけてこうどうすればいいか

かんがえてください。



3) 木戸中学校区（東区）

対象校：木戸中学校・竹尾小学校・牡丹山小学校

① 中学校区ミーティングの実施日及び主な検討内容

	実施日・会場	検討内容
第1回	平成29年6月5日 16:00～17:00 会場：木戸中学校	1.各校で今後進めていく防災教育について（情報共有・意見交換） 2.その他 意見交換
第2回	平成29年8月29日 16:00～17:00 会場：東区役所	1.各校で今後進めていく防災教育について（情報共有・意見交換） 2.昔遊びの日で実施する防災グッズ作りのレクチャー 3.その他 意見交換
第3回	平成29年12月2日 12:00～13:00 会場：木戸中学校	1.昔遊びの日の振り返り 2.平成30年度以降の継続に向けて（情報共有・意見交換） 3.その他 意見交換

② 各学校へのサポート事例

対象校	実施日	サポート種別	サポート内容
木戸中学校 竹尾小学校	平成29年 5月22日	相談	木戸地域防災会における木戸中学校3年生向けの活動についての相談に対応した。
牡丹山小学校	平成29年 6月14日	参観	地震・津波想定避難訓練と東区役所総務課安心安全係による全校対象の地震への備えについての講座を見学。
竹尾小学校 木戸中学校	平成29年 10月15日	講話	地域合同防災訓練における、水害時の避難行動と避難生活の心得についての20分の講話を実施。竹尾小学校区住民と竹尾小学校卒業の木戸中学校生徒対象。
木戸中学校 竹尾小学校 牡丹山小学校	平成29年 8月29日	情報提供	昔遊びの日で実施する防災グッズ作りのレクチャーを行った。
木戸中学校 竹尾小学校 牡丹山小学校	平成29年 9月22日	資料提供	昔遊びの日で実施する防災グッズ作りコーナー用の資料を提供した。

【8/29 第2回木戸中学校校区ミーティング】



【10/15 竹尾小学校校区地域合同防災訓練】



【12/2 木戸中学校校区昔遊びの日防災グッズ作りコーナー】



③ 新潟市防災教育コンソーシアム担当コーディネーターより

木戸中学校校区では、5月の研修会当初から既存の中学校区で行われるイベントの機会を活用できないか検討してきた。イベント当日は防災コーナーでグッズを作成した生徒がそのままレインコートを着用して他のコーナーに参加したことで、他の参加者の興味を誘ったり、レインコートの防寒具としての役割を認識したりと思われ効果があった。

平成29年度初の取組だったが、この取組を通して小中連携の防災ミーティングの場を持つ有用性が確認されたり、平成30年度以降への改善点が出されたりするなど、各校の自校化に向けたトライアルの1年となった。

<木戸中学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード	○平成23年度より行っている地域との連携事業「防災教室」が定着し，地域の方と一緒に避難したり，防災に関する活動をしたりして，自主防災への意識が年々高まっている。
保護者・地域・教職員等の願い	○地域の若い力として，中学生が年少者や高齢者の避難の一助となってほしい。 ○避難所での中学生の役割を考えてもらいたい。
防災教育において，目指す児童生徒像	○自助・共助・公助への理解を基本に，防災に対する意識を高め，危険回避ができる生徒（地震・津波・火災等）
補助交付期間に実施した主な取組	○避難訓練（6月2日） ○防災教室（10月15日）
自校プランの内容	○地域の方との避難訓練（地震・津波想定） ○アルファ米炊き出し訓練 ○防災関連DVD視聴 ○消防団訓練見学 ○自主防災訓練（初期消火・心肺蘇生・AED・応急手当など） ○避難所グッズの作成（新聞紙スリッパ・ビニール袋雨具など）
自校プランを継続するための方策	○「防災教室」の活動内容がマンネリ化しないように，活動の種類を増やす。 ○地域の方との打ち合わせを綿密に行う。 ○防災に関する啓発活動を継続的に行う。

2. 木戸中学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年	避難経路 の確認 春の 交通安全	不審者 への対策	避難訓練 (地震想定) 雨天時の 安全	夏休みの 生活設計	体育祭の 安全確認	秋の 交通安全	防災教室 (地域・学校 連携活動)	火気注意 (暖房機器)	避難訓練 (火災想定) 冬休みの 生活設計	降雪時の 安全	学校施設 環境整備	春休みの 生活設計
第2学年	避難経路 の確認 春の 交通安全	不審者 への対策	避難訓練 (地震想定) 雨天時の 安全	夏休みの 生活設計	体育祭の 安全確認	秋の 交通安全	防災教室 (地域・学校 連携活動)	火気注意 (暖房機器)	避難訓練 (火災想定) 冬休みの 生活設計	降雪時の 安全	学校施設 環境整備	春休みの 生活設計
第3学年	避難経路 の確認 春の 交通安全	不審者 への対策	避難訓練 (地震想定) 雨天時の 安全	夏休みの 生活設計	体育祭の 安全確認	秋の 交通安全	防災教室 (地域・学校 連携活動)	火気注意 (暖房機器)	避難訓練 (火災想定) 冬休みの 生活設計	降雪時の 安全	学校施設 環境整備	春休みの 生活設計

3. 木戸中学校 防災教育指導例

中学校全学年		(学習のねらい)「防災についての基本的な知識や技能を身につける」 ・津波や大雨の時に、地域の方たちと連携協力して安全に避難する。 ・消防団の訓練見学を通して、消防団員の活動の重要性を再認識する。																
		学習内容（展開例）																
【午前の部】	【竹尾小学校区】 (町内ごとに竹尾小に避難) 9:30～ 自主防災訓練開会式 9:50～ 防災講座（30分） 10:30～ 自主防災訓練（30分×3回） ・津波大雨屋上避難訓練 ・心肺蘇生 ・応急手当 炊き出し訓練 12:00～ 炊き出し食糧配布 12:20～ 自主防災訓練閉会式								【牡丹山小学校区】 (町内ごとに木戸中に避難) 9:00 集 合（体育館） 9:10～ 開会式（体育館） 終了後、グラウンドへ 9:30～ 消防団の訓練見学 ＊雨天時は体育館で 10:15～ 自主防災訓練（約20分×3回） ・初期消火訓練 ・応急手当訓練 ・心肺蘇生・AED 訓練 11:20～ 火災防御訓練（一斉放水） 12:00～ 閉会式									
	(それぞれの小学校から中学校へ移動)																	
	13:30～ 体育館…「所感発表（5分）・津波 DVD 視聴（20分）・スリッパ作り（20分）」																	
	14:25～ 学 級…「振り返り（10分）&学級終会（10分）」																	
	【評価のまとめ】		1 年 生				2 年 生				3 年 生				全 学 年			
			◎	○	△	×	◎	○	△	×	◎	○	△	×	◎	○	△	×
評価1		123	18	1	0	85	56	0	0	100	30	0	1	308	104	1	1	
評価2		32	3	0	0	30	12	1	0	34	4	0	0	96	19	1	0	
評価3		99	7	1	0	64	34	0	0	69	22	0	2	232	63	1	2	
◎…よくできた ○…できた △…少しできなかった ×…全然できなかった ・評価1：防災についての基本的な知識や技能を身につけられましたか。 ・評価2：津波や大雨の時に、地域の方たちと連携協力して安全に避難することができましたか。 ・評価3：消防団の訓練見学を通して、消防団員の活動の重要性を再認識できましたか。																		

【授業実践の様子】

< 午前の部（竹尾小学校区） >



津波大雨屋上避難訓練



炊き出し訓練



応急手当

< 午前の部（牡丹山小学校区） >



初期消火訓練



応急手当訓練



火災防御訓練（一斉放水）

< 午後の部 >



所感発表



津波 DVD 視聴



スリッパ作り

<牡丹山小学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード	・学校は海拔 1.1mで、通船川の南側に位置している。地区の大部分が軟らかい地盤の上に分布するため、大きい地震の時には、強い揺れや液状化の可能性がある。 ・津波による浸水は、地区の広い範囲で想定されている。 ・阿賀野川の洪水、信濃川下流の洪水、通船川流域の洪水及び鳥屋野潟流域の洪水によって、浸水の可能性がある。特に、阿賀野川の洪水では、地区のほぼ全域で浸水の可能性がある。 ・新潟地震後、開発された住宅地が多く、若い世代の家庭が多い。そのため、新潟地震の経験や教訓を生かすこともなく、全体的に防災の意識は高いとは言えない。
保護者・地域・教職員等の願い	・地域の方は防災に対する意識はもっているが、各地域ごとで行われている防災訓練への参加等具体的な取組に対する個人の温度差が大きい。 ・学校では、災害時に確実に児童を家庭に引き渡す体制を整える必要がある。
防災教育において、目指す児童生徒像	・地震や津波などの災害が発生した場合、「自分の生命は自分で守る子」を意識して行動できる児童。 ・災害発生時には家族や学校などの集団や地域の安全に気づき、できる範囲で役立つことができる児童。 ・防災について学校や各地域で行われている防災訓練を通して、基礎基本的事項を身に付けている児童。
補助交付期間に実施した主な取組	・地震及び津波発生時の避難訓練・講演会（6月） ・新潟市地震シェイクアウト訓練への参加（6月） ・リトルファイヤースクール（7月） ・火災を想定した避難訓練（10月） ・児童引き渡し訓練（1月）
自校プランの内容	・引き渡し訓練の実施（1月） ・4年生を対象にリトルファイヤースクールを実施（7月） ・学級活動の時間に防災学習（5～10月）
自校プランを継続するための方策	・防災教育全体計画に基づき避難訓練の計画を立て、年間行事に優先的に位置付ける。 ・学習参観に合わせて引き渡し訓練を実施する。 ・学級活動計画に防災に関する授業を全学年で位置付けて実施する。

2. 牡丹山小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年	非常ベルがなったときは 聞き取り訓練（火災）			防災教育プログラムを活用した授業 前期（地震・津波）			避難訓練（地震・津波） 屋上への避難方法の習得・防災学習			防災教育プログラムを活用した授業 後期（洪水・土砂・雪害）		
第2学年				津波とは何か 必須-1 地震からの身の守り方（学校内） 必須-1	避難訓練（火災） 牡丹山幼稚園と合同実施			避難訓練（不審者）			生活「遊びに行こうよ」 通学路の安全な登下校の仕方を学ぶ	
第3学年				地震からの逃げ方 必須-2 地震からの身の守り方（学校内） 必須-1				保護者への引き渡し訓練			生活「遊びに行こうよ」 通学路の危険箇所を確認する	
第4学年				津波からの逃げ方 必須-3 地震からの身の守り方（学校外） 必須-2							社会「私たちの大好きなまち」 校区内の危険箇所を確認する	
第5学年				津波から逃げるとき 必須-4 地震への備え 選択-2							社会「火事を防ぎ、地震に備える」 リトリアイヤー・スクールで避難や対処方法を学ぶ	
第6学年				津波への理解 必須-5 揺れがおさまったとき 必須-3							社会「自然災害とともに生きる」 自然災害・災害発生に備える	
				津波からの逃げ方 必須-6 新潟県の津波災害の歴史 必須-7							社会「身近な暮らしと政治」 様々な災害と政治のつながりを学ぶ	
				地震と生活への影響 選択-6							理科「大地のつくりと変化」 地震により土地が変化すること	

3. 牡丹山小学校 防災教育指導例

小学校中学年 必須-4 (学習のねらい)「津波から逃げるための注意点を学ぶ。」 ・津波表示板や津波に関する標識を知ったり、津波の発生を知るための方法を学んだりする	
	学習内容（展開例） 資料や学習のポイント等
【導入】	1. 6月の津波の避難訓練の様子を想起させたり、津波表示板を見せたりして授業への関心を高める ① 6月の避難訓練で東区役所の方からいただいた新潟地震についての講演内容や避難訓練の目的について発表させる。放送をよく聞き、高い場所に避難することをおさえる。 ② 津波表示板を見せて、次のような点について考えさせ、発表させる。 1)津波表示板をみたことがあるか。 2)津波表示板が伝えようとしていること何か。 3)この表示板を見たら注意しなければいけないことは何か。 【資料】新潟県防災教育プログラム 【津波災害編】資料 315 【資料】6月の講演会の写真 【資料】スライド自校の表示板の写真 【問いかけの例】 ・新潟地震の時にはどんな災害が起こったのでしょうか。 【想定される答え】 ・建物が崩れる ・津波 ・火災など 【ポイント】 ○ いざというときに、ちゃんと行動できるようにするために、自分が津波等の災害に遭う可能性があることを理解させる。
【展開】	2. 津波に関する標識について知る ① 津波に関する標識が印刷されたワークシートを配り、それぞれが何を表しているか考えさせ、記入させる。 ② ワークシートに書いたことを発表させ、標識が表す意味を確認する。 ③ こうした標識は、津波が発生する恐れがある地域で見かけることが多いこと、見かけたら注意が必要なことを伝える 【資料】新潟県防災教育プログラム 【津波災害編】ワークシート 05 【問いかけの例】 ・次の3つの標識は、それぞれ何を表しているのでしょうか。 【想定される答え】 ・A・・・津波注意。 B・・・津波避難所。 ・C・・・津波避難ビル。 わからない。 【ポイント】 ○牡丹山小学校区は、土地が低い所もあり津波表示板が見られる所が多い。
	3. 津波発生を知るための方法を知る ① 大きな地震の後で津波が発生したことや発生しそうだということをどのように知ったらよいかを問いかける。 ② 津波が発生しそうなことを伝える防災放送を聞かせる。 ③ テレビや防災放送, 大人の話などで津波が来そうなこ 【資料】新潟県防災教育プログラム 【津波災害編】資料 316 津波警報（音声） 【問いかけの例】 ・学校以外で地震が起こった後、津波が来る（来そう）ということを知るためには、どうすればよいですか。 【想定される答え】 ・スマホやケータイで知る。

	とがわかったら、高い場所に逃げることを確認する。	・テレビやラジオで知る。 ・近くにいる大人の人に聞く。 【ポイント】 ○地震の後には、テレビ、ラジオの放送や防災放送に気をつけること。
【まとめ】	4. 学習してわかったことを確認する ① ワークシートに、「授業の感想」などを書かせて、発表させる	ワークシート 05 【ポイント】 ○ 津波表示板の意味を理解し、できるだけ高い場所に避難すること。 ○ 日頃から自宅周辺や通学路途中の避難所を確認しておくこと。
【評価】	・津波表示板の意味を理解することができたか。 ・学校外で地震が起きた際、どのように情報を得て、どこに避難すればよいかということを理解することができたか。	

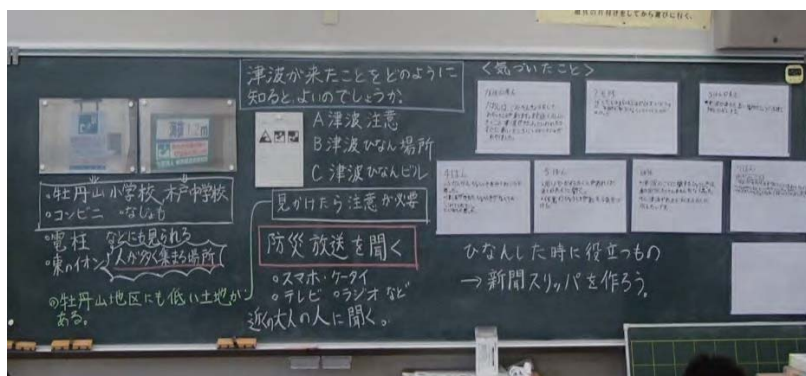
【スライド資料】



【授業実践の様子】



【板書】



＜竹尾小学校＞

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード	・当校は、海拔0 mで信濃川と阿賀野川に囲まれた地域である。また、川から遡ってくる津波や河川の氾濫により、浸水の可能性がある地域である。 ・新潟市ハザードマップでは、低平地浸水地域となっている。また、津波浸水想定0.5 m～1.0 mの地域がある。 ・災害時の避難所としてだけでなく、学校の屋上を含む三階以上の階が避難場所として指定されている。
保護者・地域・教職員等の願い	・地域コミュニティ協議会主催の防災訓練に学校として協力している。 ・有事の際に、落ち着いて自分の身を守るために迅速な行動をとれるようになってもらいたい。
防災教育において、目指す児童生徒像	・火災、地震などの非常事態に際し、安全かつ迅速に避難し、危険から身を守ることができる子ども。 ・避難経路や避難方法を理解し、避難訓練などの活動を通して防災への意識を高める子ども。
補助交付期間に実施した主な取組	・火災時における避難訓練（5月） ・地震及び津波発生時の避難訓練、引き渡し訓練（6月） ・5年生の学活の学習で、「地震の被害から生活への影響を考える」を行う。（11月） ・木戸中学校区行事「昔の遊びと餅つき」で防災ブースを開き防災グッズ（新聞スリッパ・ゴミ袋カップ等）作り（12月） ・冬の火災時における避難訓練（2月）
自校プランの内容	・中学校区の小中学校と情報交換を行い、地域の避難所や避難の仕方について理解を深める。 ・高学年を対象に「地震の被害から生活への影響を考える」を行い、防災グッズを作る。縦割り班で防災グッズの作り方について他学年と共有する。 ・木戸中学校区行事「昔の遊びと餅つき」で防災ブースを開き、防災グッズ（新聞スリッパ、ゴミ袋カップ等）作りをする。
自校プランを継続するための方策	・中学校区の小中学校で情報交換を行う。（「昔の遊びと餅つき」の打ち合わせなど） ・高学年対象の「地震の被害から生活への影響を考える」の時数と、縦割り班での活動の時間を確保する。

2. 竹尾小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年	非常ベル訓練 非常ベルが鳴った時の正しい行動の仕方の指導	避難訓練 (火災想定)	引き渡し訓練 (地震津波への対応訓練)	着衣泳 水から自分の生命を守る方法を身に付ける。			避難訓練・防犯教室 (不審者侵入想定)	非常ベル訓練 非常ベルが鳴った時の正しい行動の仕方の指導			避難訓練 (冬の火災想定) 災害時の正しい行動の仕方の指導	
第2学年												
第3学年												
第4学年												
第5学年								防災教育 プログラム 【地震災害】	流れる水のはたらき (理科)			
第6学年										大地のつくりと変化 (理科)		

3. 竹尾小学校 防災教育指導例

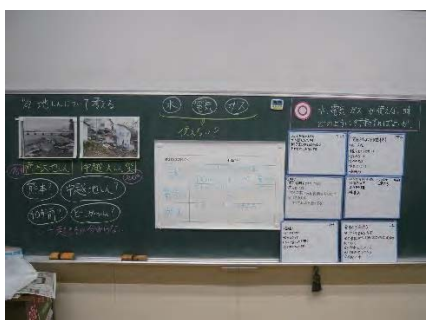
小学校高学年 ※地一選択一6対応		(学習のねらい)「地震の被害から生活への影響を考える」 ・地震による生活への被害を知る。 ・自分たちができる防災対策について知る。
	学習内容(展開例)	資料や学習のポイント等
【導入】	1. 地震や津波の恐ろしさを知り、避難することについての必要性を自分のこととして考えさせる。 ①中越大震災や新潟地震での家屋倒壊、津波の写真を提示し、地震や津波の恐ろしさをおさえる。 ②いつ、どこで、どのような災害が起きるか分からないこと、避難しなければならないこと等をおさえる。	【資料】 新潟県防災教育プログラム 【地震災害編】【津波災害編】 より写真資料 【問いかけの例】 ・いつ、どこで起きた災害でしょうか。 【想定される答え】 ・新潟で起きた地震。・東北で起きた地震。 【ポイント】 ○自分が災害に遭う可能性は十分あることについて理解させる。
	2. 地震による生活インフラの被害と生活への影響について考えさせる。 ①地震により生活インフラが使えなくなっている様子について写真を提示し、どのようなことに困るかを考えさせる。 ・水道、電気、ガスが使用できないことをおさえる。	【資料】 新潟県防災教育プログラム 【地震災害編】資料287 【地震災害編】ワークシートD 【問いかけの例】 ・水、電気、ガスが使えない時、どのようなことに困りますか。 【想定される答え】 ・電気が使えないと暖房が使えないので、寒い。 ・水道が使えないとトイレが流せない。
【展開】	3. 地震災害に遭遇したときにどのような行動をとるべきか考える。 ①生活インフラが使えなくなった場合、どのように行動すればよいか考えさせる。 ②グループで意見を出し合い、発表させる。	【問いかけの例】 ・生活インフラが使えないとき、どのように行動するべきか。 【想定される答え】 ・水を大切に使う。 ・乾電池式の懐中電灯を使う。 ・マッチなどを使って火を起こす。 ・夜は出歩かないようにする。 ・お風呂やシャワーの回数を減らす。 ・毛布や布団を使うことで暖める。 ・みんなで協力して水を運ぶ。 【ポイント】 ○班でホワイトボードに意見を書き出させる。

	4. 新聞スリッパを作る。 ①災害時にできることとして、身の回りのものを使って防災グッズを作れることをおさえ、新聞でスリッパを作れることを教え、実際に作る。	【ポイント】 ○災害が起きた際、足下の安全を確保するために役に立つことをおさえる。 ○スリッパの他にも、ゴミ袋で作る防災頭巾など、身の回りにあるもので作れる防災グッズについて紹介する。
【まとめ】	5. 学習のまとめをする。 ①ワークシートに自分には何ができるかを記入させ、発表させる。	【ポイント】 ○自分のこととして考えさせる。 ○災害はいつ、どこで起きるか分からないため、日頃の準備が大切であることをおさえる。
【評価】	・地震が起きた際、自分はどんな行動をとればよいのかということについて理解することができたか。	

【授業実践の様子】



【板書】



【スライド資料】



4) 東特別支援学校（東区）

① 中学校区ミーティングの実施日及び主な検討内容

	実施日・会場	検討内容
第1回	平成29年5月25日 16:00～17:00 会場:東特別支援学校	1.今後進めていく防災教育について（情報共有・意見交換） 2.その他 意見交換
第2回	平成29年8月28日 15:00～16:00 会場:東特別支援学校	1.今後進めていく防災教育について（情報共有・意見交換） 2.その他 意見交換
第3回	平成29年1月17日 15:30～16:30 会場:東特別支援学校	1.平成30年度以降の継続に向けて（情報共有・意見交換） 2.その他 意見交換

② 各学校へのサポート事例

対象校	実施日	サポート種別	サポート内容
東特別支援学校	平成29年6月5日	資料提供	地震・津波を想定した近隣の工場への避難訓練の事前学習に活用できそうな映像資料の提供。
東特別支援学校	平成29年7月11日	打合せ	地震・津波を想定した近隣の工場への避難訓練の事前学習について打合せ。
東特別支援学校	平成29年7月13日	資料提供	地震・津波を想定した近隣の工場への避難訓練の事前学習に活用できそうな講座スライドの提供。
東特別支援学校	平成29年7月31日	情報提供	地震・津波を想定した近隣の工場への避難訓練の事前学習に活用できそうな紙芝居についての情報提供。
東特別支援学校	平成29年8月24日	資料提供	地震・津波を想定した近隣の工場への避難訓練の事前学習に活用できそうな紙芝居の提供。
東特別支援学校	平成29年9月5日	相談	地震・津波を想定した近隣の工場への避難訓練の事前学習の内容についてスライド作成の相談対応。
東特別支援学校	平成29年9月13日	講座補助	地震・津波を想定した近隣の工場への避難訓練の事前学習のサブティーチャーとしての講座補助。
東特別支援学校	平成29年10月11日	参観	地震・津波を想定した近隣の工場への避難訓練の参観。訓練後の学校・保護者との振り返り会への出席。

【5/25 第1回東特別支援学校 ミーティング】



【7/11 事前学習の内容について打合せ】



【9/13 地震・津波想定避難訓練の事前学習】



【10/11 地震・津波想定避難訓練】



③ 新潟市防災教育コンソーシアム担当コーディネーターより

東特別支援学校は、津波の浸水が想定されるエリアであり、校舎が2階建てで屋上に出入りできない構造であることから毎年近くの工場への避難訓練がされていた。今年度は「なぜ工場へ避難するのか」「避難途中で学校以外の周りの大人が助けてくれること」を児童生徒が認識したうえで訓練に臨めるよう準備に当たった。

日頃学校と交流している地域の団体に避難訓練時の交通整理・見守りをしてもらい、避難の様子を知ってもらった。また、平成29年度初めて避難訓練の様子を保護者に公開した。

訓練後、見学した保護者と学校・地域教育コーディネーター・区総務課が一堂に会し、学校の防災体制について話し合う機会を設けた。学校周辺は工業地帯のため、同じ避難場所に避難する周辺の企業の方から支援してもらえないか平成30年度以降検討していく予定である。

＜東特別支援学校＞

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード	・地域の大部分が軟らかい地盤の上に分布するため、地震発生時には強い揺れや液状化の可能性がある。また、付近には、阿賀野川や通船川があり、海岸からも3kmという距離に位置しているために津波が到達したり、大雨時は河川増水による洪水による浸水があったりする可能性がある。 ・特別支援学校のため、児童生徒の居住地は新潟市の北区、東区、中央区、江南区、秋葉区と広範囲であり、学校付近＝居住地ではない。そのため、教育活動時の災害に不安を感じる保護者は少なくない。
保護者・地域・教職員等の願い	・保護者は、児童生徒が周囲の大人の支援を受けながら落ち着いて避難ができること、避難場所でも落ち着いて行動できることを望んでいる。また、学校と保護者との確実な連絡体制を整えておくことや、災害が起こった際に地域（学校周辺の企業を含めて）が学校に協力して対応できる組織が作られることを望んでいる。 ・教職員の願いとしては、児童生徒が避難訓練や防災授業を通して、最低限自分の身を守る力、大人の支援を受けて落ち着いて避難できる力を身に付けてほしいと考えている。
防災教育において、目指す児童生徒像	・災害が起こった際に自分の身を守ることができる児童生徒。 ・災害が起こった際に大人の支援を受けて落ち着いて避難できる児童生徒。
補助交付期間に実施した主な取組	・9月に防災教育の専門家を招聘し、地震や津波が起きた時の避難方法について防災教室を実施した。（中学部） ・安全教育部が作成したプレゼンテーション「地震・津波ってなあに？」「地震津波の避難方法」の教材を用い、全学年で防災授業を行った。 ・10月の地震・津波の避難訓練では、二次避難を行い、地域の「じゃがいもの会」のボランティア団体の方々から交通誘導などで協力をいただいた。また、防災士からも参加していただき、児童生徒の行動や学校の防災計画に対して評価していただいた。
自校プランの内容	・災害用伝言ダイヤル・伝言板の保護者・教職員の体験（6月） ・全校児童生徒を対象に地震・津波の防災授業実施。（9月） ・地域、企業、保護者、専門家と連携した地震・津波の避難訓練（10月） ・PTA、専門家、防災士、学校職員で防災教育懇談会の実施（10月）
自校プランを継続するための方策	・安全教育計画に防災に関する授業を全学年で位置付けて実施する。 ・避難訓練を保護者に参観してもらったり、専門家と連絡を取り合ったりして、保護者や専門家の意見を取り入れながら自校化プランを作成していく。

2. 東特別支援学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
小1学年												
小2学年												
小3学年												
小4学年												
小5学年												
小6学年												
中1学年												
中2学年												
中3学年												
		第一回避難訓練（火災）	第二回避難訓練（地震）	災害用伝言ダイヤル・伝言板の体験		職員研修（不審者への対応の仕方）	第二回避難訓練（地震・津波）に関する事前授業	第三回避難訓練（地震・津波）	防災教育ミーティング	第四回避難訓練（火災）		

3. 東特別支援学校 防災教育指導例

全校児童生徒対象	(学習のねらい)「地震・津波とは何かを知る」 ・地震津波はどんなものかを知り、それらが起きた時の避難の仕方を知る。
----------	--

	学習内容（展開例）	資料や学習のポイント等
【導入】	1. 地震・津波に対して関心をもつ ①地震・津波とはどのようなものなのかを知る。 ②学習のねらい「地震・津波時の避難の仕方を考えること」をおさえる	【問いかけの例】 - 地震の写真を提示して「何が起こりましたか。」 【ポイント】 - 地震や津波などをイメージしやすいように安全教育部で作成したプレゼンテーションを用いて、イラストや写真・動画などで視覚支援を行う。また、興味をもつように3択のクイズ形式で問いかける。 - 地震、津波は怖いものだという不安を与えず、避難をすれば安心だということを伝え、「避難の仕方を考える」という学習課題に結び付ける。
【展開】	2. 地震・津波発生時の避難方法を考えたり、その場で実践したりする。 ①3択クイズをして、以下の点をおさえる。 - 地震発生時の避難姿勢 - 非常ベルが鳴った時の行動 - 避難の仕方 - 津波の避難の仕方 ②避難の仕方を実際にその場で体験する。 - 地震発生時はだんごむしポーズをとる。 - 防災頭巾をかぶる。 - 非常ベルで口を閉じて静かにする。 3. 大人と一緒に避難すると安心であることを知る。 ①避難する時には先生や親以外にも子どもたちを助けてくれる大人が存在することを知る。 ②困ったことやどうしたらよいか分からないことがあったら、近くの大人に教えてもらうことを知る。	【問いかけの例】 - 部屋の中で地震が起こった時の絵を提示して「どうしたらよいでしょうか。」 【ポイント】 - ただ漠然と3択のクイズに答えさせるのではなく、思考を促すために、答えの手がかりとなるヒントを提示していく。また、答えを提示した後は、イラストを提示したり実演したりして理由を説明する。 - 災害が起こった時にスムーズに行動できるように実際に体を動かしてやってみたり防災頭巾を身に付けたりする場をもつ。 - 消防士や地域の方などいろいろな格好の大人のイラストを提示する。 - 地域教育コーディネーターや職員がタスキを掛けたり、ヘルメットを身に付けたりして、実在しそうな格好の人物を登場する場をもつ。

【まとめ】	4. 学習してわかったことを確認する ・避難の仕方「おはしも」をみんなで斉唱したり、大人と一緒に行動することで災害は怖いものではないことを確認したりする。	・学年の実態に応じて、ポイントを絞り、イラストや写真などを提示しながら本時の学習を振り返る。
【評価】	○地震時、津波時の危険性や避難方法が分かる。 ○自分の身を守るために大人と共に行動することが分かる。	

【授業実践の様子】



【スライド資料】



5) 上山中学校区（中央区）

対象校：上山中学校・上山小学校・鳥屋野小学校

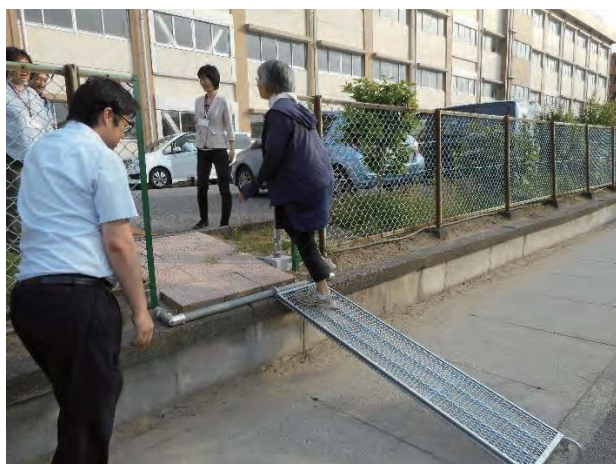
① 中学校区ミーティングの実施日及び主な検討内容

	実施日・会場	検討内容
第1回	平成29年6月29日 15:30～16:30 会場：上山中学校	1.各校で今後進めていく防災教育について（情報共有・意見交換） 2.その他 意見交換
第2回	平成29年11月16日 16:00～17:00 会場：上山中学校	1.各校で今後進めていく防災教育について（情報共有・意見交換） 2.その他 意見交換 （地域との連携の仕方・防災教育における小・中の段階の踏み方 等）
第3回 (予定)	平成30年1月18日 16:00～17:00 会場：上山中学校	1.次年度以降の継続に向けて（情報共有・意見交換） 2.その他 意見交換

② 各学校へのサポート事例

対象校	実施日	サポート 種別	サポート内容
鳥屋野小学校	平成29年 5月22日	電話相談	本事業の予算書の書き方，予算の使用方法についての 捉え方について相談に応じた。
上山中学校	平成29年 7月24日	情報提供	自治会の区割り地図について，中央区役所総務課に問 合せた結果を伝えた。
上山中学校	平成29年 8月4日	ヒアリング	校内の防災教育担当であり，その中の地域連携担当の 先生に対し，聞き取りを行った。
上山小学校	平成29年 8月18日	打合せ	地震・津波想定地域合同避難訓練について打合せ。なぜ 地域と合同で訓練するのか参加する住民・保護者・児童 が理解した状態で訓練に臨めるよう内容を確認した。
上山小学校	平成29年 8月25日	資料提供	地域合同防災訓練の保護者対象防災ミーティングで使 用するスライド資料のたたきを提供した。
上山中学校	平成29年 8月28日	ヒアリング	校内体制づくりについて，他校へのフィードバックを 視野に聞き取りを行った。管理職や他の教員への働き かけ方，地域との付き合い方等の細かい手法や学校の 立場からの地域連携の意義を実例とともに聞いた。
上山小学校	平成29年 10月23日	情報提供	地域合同防災訓練実施日に各学級で使用する映像資料 の入手方法について情報提供した。
上山小学校	平成29年 10月28日	参観	地域合同防災訓練の参観。

【6/29 第1回上山中学校区ミーティング】



【10/28 上山小学校地域合同避難訓練】



【11/16 第2回上山中学校区ミーティング】



③ 新潟市防災教育コンソーシアム担当コーディネーターより

上山中学校区では、中学校区ミーティングの場が、学校種が違ってそれぞれの取組を参考にしようことでうまく活用されていた。

各学校における平成29年度の主な取組が終了した段階で開かれた第2回ミーティングからは、「事業を通して地域連携の機会を作ったが、まだまだ児童生徒の地域に対する意識が低い」「地域と連携することの意義について、段階的に意識を醸成できるよう小学校と中学校が連携していく必要がある」など、自校化に向けた本質的な議論がなされていた。

<上山中学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード	生徒一人一人がさわやかな学校を目指して、「あ（あいさつ）け（けじめ）び（美化）お（思いやり）」をキーワードに、意欲的に学習や部活動、学校行事等に取り組んでいる。また、当校のある地域は、亀田郷の辺縁部の海拔0.1メートル地帯で、地震による津波災害や集中豪雨による洪水災害による浸水被害が生じる恐れがあり、地域住民の危機意識は高い。
保護者・地域・教職員等の願い	地域の自主防災組織はあるものの、役員の高齢化に伴い後継者不足が懸念されている。 そのため、中学生が地域防災の担い手となって、避難補助や避難所運営面で力を発揮してほしいという期待や願いが地域から寄せられている。
防災教育において、目指す児童生徒像	日常の備えや的確な判断のもと、地域の防災活動や災害時の助け合いの大切さを理解し、主体的に行動できる生徒
補助交付期間に実施した主な取組	○地震災害・津波災害・洪水災害の学習 □地域防災訓練での自助・共助、応急処置の学習 △火災の学習
自校プランの内容	○ハイパージュニアレスキュー隊員による伝達講習および避難訓練事前学習 ○学校・地域合同津波対応避難訓練（地域住民と保育園園児・職員参加） ○自治会集会 □災害発生後の初期対応および応急処置訓練 △火災対応避難訓練
自校プランを継続するための方策	自治会、近隣保育園等とのネットワークを構築し、学校・地域合同津波対応避難訓練および自治会集会を年間予定に位置づけ実施する。 また、土砂災害・雪災害・原子力災害の学習は、新潟県防災教育プログラムを参考に教科の授業の中で重点化して行う。

2. 上山中学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年		<家庭科> 住まいの防災 <道徳> 自助・共助	地震 災害 津波 災害 洪水 災害 の 学習	<道徳> 自助・共助 <保体> 傷害の防止			<道徳> 自助・共助	自助 共助 応急 処置 の 学習		火災 の 学習		
第2学年	<社会> 地震・津波災害 土砂災害 雪災害 原子力災害		津波 対応 避難 訓練	<道徳> 自助・共助			<道徳> 傷害の防止					
第3学年	<道徳> 自助・共助		津波 対応 避難 訓練	<道徳> 自助・共助			地域 防災 訓練		火災 対応 避難 訓練		<理科> 土砂災害 雪災害 原子力災害	

3. 上山中学校 防災教育指導例

中学校 全学年	（学習のねらい）地震・津波・洪水災害に関する事前学習や津波を想定した避難訓練を通して、生徒一人一人の防災意識を高めるとともに防災知識を深め、いざという時には、迅速かつ適切な行動をとることができる生徒を育成する。
--------------------	--

	学習内容（展開例）	資料や学習のポイント等
【導入】	1. 事前学習（45分） ハイパージュニアレスキュー講習会参加者が体験談も語りながら次の点について説明する。 ・上山地域の地理的環境 ・洪水、地震、津波に関すること ・避難の心得、注意事項 ・家庭でやるべきこと （事前に各家庭での防災の取組を確認しておく） ・ハイパージュニアレスキュー講習会に参加して考えたこと ・自助共助の大切さ、園児との関わり方 ・地域防災訓練への自主的な参加	※スライドショーを利用して説明する。 ※説明だけに終始せず、全校生徒に意見を求めたり、クイズに答えさせたりするなどして主体的・対話的な学びを促す。 ※地域住民からも参加してもらう。
【展開1】	2. 津波を想定した避難訓練・全体指導（55分） 地域住民、保育園との合同避難訓練を実施し、自助・共助の精神を養うとともに、適切な避難行動を確認する。 避難完了後、全体指導を行い、生徒の避難行動について評価する。	※保育園と避難開始時刻と避難経路等について確認しておく。 ※校舎内の安全かつ適切な避難経路を確認する。 ※園児（3～5歳児）や地域の方へのサポート内容を決めておく。 ※屋上での整列スペースを確保する。 ※確実な点呼を行い、生徒数を確認する。
【展開2】	3. 自治会集会（35分） （1）自治会ごとに集会をもち、自治会長から地域防災の重要性や中学生への期待等について話してもらうことで、生徒の防災意識を高める。 ・一次避難場所、避難ビル等の確認 ・危険箇所の確認 （2）自治会生徒名簿を作成し、代表生徒、副代表生徒、連絡生徒を選出する。	※自治会長が参加できない場合は、代理を出してもらえよう依頼しておく。あわせて自治会担当教員を決めておく。 ※自治会地図を用意する。
【まとめ】	4. まとめシート・アンケートの記入（10分） 事前学習から避難訓練、自治会集会を通して、わかったことやこれから活かしていきたいこと等をまとめる。	※まとめ・アンケートは個人単位で行う。

【評価】

- 地震発生時の基本的な安全対策を理解し実践できたか。
- 避難指示を確実に聴き取り、状況に応じ迅速かつ適切な行動ができたか。
- 自助・共助の精神のもと、自他の生命を守ろうと協力して行動できたか。
- 地域理解に努め、自分ができることを考えることができたか。

【活動の様子】

ハイパージュニアレスキュー隊員による事前学習



津波対応避難訓練～保育園児を屋上へ誘導する中学生～



津波対応避難訓練後の全校生徒指導



自治会集会での自治会長講話



<鳥屋野小学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード	地区の大部分が軟らかい地盤の上に分布するため、大きい地震の時には強い揺れや液状化の可能性がある。新潟県津波浸水想定（h25）によると、津波による浸水の影響は想定されていないが、その分浸水が想定される地域からの避難者受け入れ、避難生活を支える等の支援が期待される地域である。近くに住宅が存在し、避難時はかなりの人数の避難者が予想されるため、避難所運営や避難所の区画整理等、毎年確認する必要がある。
保護者・地域・教職員等の願い	自分の所属する自治会はどこかを確認した際、分からないと答える高学年児童が数名いた。子どもたちは「地域」に対して意識が希薄である。また、近所に住む大人を子どもたちは知らないという現状がある。6年間を通じて近所の人の顔と名前がわかる子どもになってほしい。災害時は、近所の大人に情報を知らせたり、子どもが集まって安全を確保する行動をしたり、避難所生活の際に地域の方の手伝いを率先して行ったりする姿を望む。
防災教育において、目指す児童生徒像	・自分たちの住んでいる地域は信濃川沿いにあり、津波被害の危険性があるということを理解し、災害時に安全を確保するための行動がとれること。 ・地域の一員であることを自覚し、災害時に友だちとともに協力して活動したり、自分の知っている地域の方と共に行動できたりすること。
補助交付期間に実施した主な取組	・地域住民、保護者、小学生、中学生合同の防災訓練を実施した。 ・児童、保護者、教職員合同による、地震・津波想定引き渡し訓練を実施した。
自校プランの内容	・地域住民、保護者、小学生が一体となった自主防災訓練。今年度から防災活動（初期消火訓練等）を地域住民とともに行った。しかし、地域住民と小学生のつながりがあまり見られず、「一体」となって活動している姿は見られなかった。来年度以降、より充実した自主防災訓練となるよう、内容を検討する。
自校プランを継続するための方策	・「総合的な学習の時間」における地域との関わりをより明確化する。1・2年生の生活科、そして3年生から始まる総合的な学習の時間で、地域住民と関わりをもつことに重点を置いたカリキュラムを編成し、一貫性のある系統的な指導をしていく。

2. 鳥屋野小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年	第一回避難訓練（地震・津波想定） 「災害からまちを守るために」 「日本の地形と天候」 「地域の安全のこれからを考えよう」 「台風の接近」 「地震・津波による引き渡し想定」 「風のはたらき」 「流れる水のはたらき」 「大地のつくりと変化」 「火災想定」 「国土と自然災害」											
第2学年												
第3学年												
第4学年												
第5学年												
第6学年												

3. 鳥屋野小学校 防災教育指導例

小学校高学年	(学習のねらい)「揺れがおさまった後の身の守り方を学ぶ」 ○地震後の家の周りの状態を知る。 ○揺れがおさまった後の危険と身の守り方を考える。
---------------	---

	学習内容(展開例)	資料や学習のポイント等
【導入】	1. 地震の後取るべき行動について学習することを伝える。 ① 学校で地震が発生した時,身を守るためにどのような行動をとるかを問いかけ,発表させる。「机の下にもぐったり,たおれてくる物が近くにならないところへ逃げたりする」ことをおさえる。 ② 学習のねらい「揺れがおさまった後の身の守り方を考えること」をおさえる	【問いかけ】 ・地震が起きたらどう行動しますか。 【想定される答え】 ・机の下にもぐる。 ・たおれてきそうな物に近づかない。 ・放送の指示を聞く。 【ポイント】 ○揺れがおさまった後はどう行動したらよいか。
【展開】	2. 揺れがおさまった後で,家の周りではどんなことが起こるか考える。 ① 知っていることや経験をもとに話し合う。 ② 地震の後の家の周りの様子の写真をテレビに映す。 1)「家の倒壊」 2)「地割れ」 3)「電線が切れている」 4)「電気が止まる」 3. 写真をもとに話し合う ① 安全な場所に避難する時にはどんなことに注意するか。 1)「倒壊しそうな建物には近づかない」 2)「切れた電線に触れないようにする」 ② ①のようなことに気をつけるのはなぜか。 1)揺れがおさまった後でも,建物がくずれる可能性があるから。 2)感電のおそれがあるから。	【問いかけの例】 ・揺れがおさまった後は,家の周りでどんなことが起こると思いますか。 【想定される答え】 ・地割れ ・津波が来る 【資料203】 地震の後の家の周りの様子 【問いかけの例】 ・安全な場所に避難する時には,どんなことに注意するとよいか。 【想定される答え】 ・危険を予測する。 ・避難するための準備をしておく

【めあて】	4. 学習してわかったことを確認する ① ワークシートに、「授業の感想」などを書かせて、発表させる	ワークシート03 【ポイント】 ○「地震がおさまった後でも様々な危険がある」ことを確認する ○「揺れがおさまった後の危険を知った上で、自らの身を守る行動をとる」ことを確認する
【評価】	・写真から地震が起きた後の危険性、学校外で起き得る被害を理解することができたか。 ・揺れがおさまった後、安全を確保するために自らの身を守る行動を考えることができたか。	

【授業実践の様子】



【板書】

○地震が起きたら...

- ・机の下にもぐる
- ・たおれそうな物に近寄らない

○地震が起きた後には...

- ・地面が割れている
- ・津波が来る

○気を付けなければいけないことは...

- ・危険な場所には近づかない。
- ・大人と共に行動する。
- ・揺れがおさまったとしても油断しないで、情報を聞く。

めあて

地震が起きた後の行動について考えよう！

感想

家がくずれる→ 下じきになってしまう
 道路が割れてしまう→ ケガをしてしまう
 電線が切れる→ 感電
 電気が止まる→ 信号が止まり、事故が起きる

＜上山小学校＞

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード	・信濃川の近くに位置し，校舎脇は海拔0mの低地である。20年前の8.4豪雨水害時には，校舎が水深50cm以上の水で囲まれた経験をもつ。 ・当校は校区内に新潟県庁があり，近年，新興住宅地と商業施設が急激に増加し児童の転出入が大変多い地域である。 ・現在738人の児童数は，5年後には約900人に達すると予想されている。災害時に安全に保護者に引き渡せるか，地域の避難所として学校をどのように活用・運営していけばよいか等，災害が発生する前に，家庭や地域と連携して防災・減災の方法を考えることが急務である。
保護者・地域・教職員等の願い	・防災・減災の方法について保護者・地域・学校職員が共に考え，日ごろから子どもたちを見守り支援していく地域の学校にしていきたい。 ・日常の学校生活や防災教育を通じて，災害や避難に関する正しい知識や技能を身に付けることを望んでいる。特に，大人の目が行き届かないところでの有事に際し，避難に対する適切な判断力・実行力を養っていきたい。
防災教育において，目指す児童生徒像	・生命や身体の安全を守ることの大切さを理解し，日ごろの学校生活の中において主体的に判断し行動できる子ども ・有事の際に，落ち着いて迅速・的確に避難できる子ども ・防災・減災に関する知識と心構えをもつ子ども
補助交付期間に実施した主な取組	・地震・津波想定 of 地域合同避難訓練（自治会長との顔合わせ会 10月） ・保護者対象の防災ミーティング（災害時の児童引き渡しについて 10月） ・児童引き渡し訓練（10月） ・地震・津波に関する全校授業公開（10月） ・弾道ミサイル落下想定 of 対応訓練（9月 ※年間計画への位置付けは，国際情勢をもとに検討を要する。）
自校プランの内容	・地域合同避難訓練（顔の見える関係づくり 例＝自治会長との顔合わせ会） ・児童引き渡し訓練 ・防災ミーティング（保護者対象） ・新潟県防災教育プログラムの実施（6月洪水，10月地震・津波，12月雪）
自校プランを継続するための方策	・防災教育を教育ビジョンに位置付け，教育課程の中に横断的に編成する。 ・防災に関する授業を行った際は，便り等で保護者や地域に伝え，地域の防災について共に考えていく風土を醸成していく。 ・中学校区の校種間・学校間，コミュニティ協議会との連絡・相談を定期的に実施し，地域合同避難訓練を持続可能な内容・形態に改善・維持していく。

2. 上山小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年												
第2学年												
第3学年												
第4学年												
第5学年												
第6学年												

通報訓練（不審者侵入想定・休憩時）

雪・土砂災害（学活1）

避難訓練（不審者侵入想定）

地域合同避難訓練・児童引渡し訓練（地震・津波想定）

地震・津波災害（学活1）

通報訓練（地震想定・休憩時）

集団下校訓練（台風・豪雨による洪水想定）

洪水災害（学活1）

避難訓練（火災想定）

通報訓練（火災想定・朝会時）

3. 上山小学校 防災教育指導例

全校児童対象	(学習のねらい) 地震・津波が発生した時の避難の方法を考えたり、実際に避難行動を体験することを通して、地域の人たちと助け合い、自分たちの安全は自分たちで守るという防災意識を高める。
---------------	---

	学習内容（展開例）	資料や学習のポイント等
【導入】	1. 防災学習をする。 ○ 1・2年 ・津波とは何かを知る。(必須1) ・津波からの逃げ方を学ぶ。(必須2) ○ 3・4年 ・津波からの逃げ方を学ぶ。(必須3) ・津波から逃げるための注意点を学ぶ。(必須4) ○ 5・6年 ・津波への理解を深め、被害の特徴を学ぶ。(必須5) ・津波からの逃げ方を考える。(必須6)	【ポイント】 ○ いざというときに主体的に判断し行動できるようにするため、日ごろから準備しておこうという意識を高める。※津波避難三原則「想定にとらわれるな」 【資料】新潟県防災教育プログラム ・地震災害編 必須－1～3 ・津波災害編 必須－1～6 【映像・写真資料】 ・東日本大震災の時の津波の映像 ・新潟地震の津波が川をさかのぼる映像 等
【展開】	2. 避難訓練・児童と自治会長の顔合わせ会、防災ミーティングをする。 (1) 避難訓練（地震→津波） ・屋上に避難する。(児童と保護者) ※雨天時は、3・4階教室と廊下に避難する。 (2－①) 自治会長との顔合わせ会 ・町内子ども会ごとに、児童と自治会長との顔合わせをし、自治会長から地域の様子と防災についての話を聴く。 ・自治会長の話を聴いて、感想を発表したり質問したりする。 (2－②) 防災ミーティング ・保護者対象に、地震・津波発生時の児童引き渡しについての学校方針と引き渡し方法の説明を行う。 ・自治会長の紹介をする。	【ポイント（1）】 ○ 避難場所と避難経路を確認しておく。 ○ 学校便りを通して、保護者に説明しておく。 ○ 児童避難場所と保護者避難場所を分けて行う。 【ポイント（2－①）】 ○ 年度当初に校区コミュニティ協議会長と安全安心部長との打合せを行っておく。 ○ 地域教育コーディネーターと共に、自治会長の方々への事前の協力依頼と当日の説明を行う。 ○ 自治会長との顔合わせの意義について、学級指導しておく。(親以外の大人とも相談できる関係づくり) ○ 顔合わせ会の進行は町内担当学校職員が行うが、児童の主体的な活動の場となるように、町内子ども会長（児童）へも、当日の流れの事前説明を行っておく。 【ポイント（2－②）】 ○ 公益社団法人 中越防災安全推進機構のスタッフと相談しながら、地域の特性に基づいたプレゼンテーション資料を準備する。(中越防災安全推進機構作成)

【まとめ】	3. 振り返りをする。 ・大きな地震が起きた時には、津波の危険があることを考えて、近くの高い建物を探して避難する。 ・ワークシートに防災授業や避難訓練、自治会長との顔合わせ会の感想、分かったことを書かせ、自分の防災意識をまとめる。 ・発表し合い、学級全体で共有する。	【ポイント】 ○ ハザードマップはあくまで目安であって、それ以上の災害も起こりえることを確認する。 ○ 日頃の訓練等を通じて、避難方法を確認しておくことを確認する。
	4. 児童引渡し訓練をする。 ・学級ごとに、保護者へ児童を引き渡す。 ・学級引き渡し名簿で、一人一人確認する。	【ポイント】 ○ 事前に「児童引き渡し実施確認書」を配付し、誰が迎えに来るのか確認する。回収後、学級引き渡し名簿を作成し、確実に迎えの人に引き渡す。
【評価】	・地域の人たちと助け合い、自分たちの安全は自分たちで守るという防災意識を高めることができたか。 ・ハザードマップは想定であり、災害時の避難方法と避難場所を日頃から認識しておく大切さを理解し、自分がすべきことを具体的に考えることができたか。	

【授業や活動の様子】



【板書】



6) 横越中学校区（江南区）

対象校：横越中学校・横越小学校

① 中学校区ミーティングの実施日及び主な検討内容

	実施日・会場	検討内容
第1回	平成29年6月28日 16:00～16:45 会場：横越中学校	1.新潟市「防災教育」学校・地域連携事業研修会の振り返り 2.各校における防災教育計画・取組予定について情報共有 3.その他（次回の日程調整等）
第2回	平成29年9月21日 16:00～16:45 会場：横越中学校	1.各校における防災教育の取組について進捗確認・情報共有 2.その他（防災士について、次回の日程確認等）
第3回	平成30年1月23日 16:00～16:45 会場：横越中学校	1.平成29年度の振り返り 2.平成30年度へ向けた情報交換 3.その他

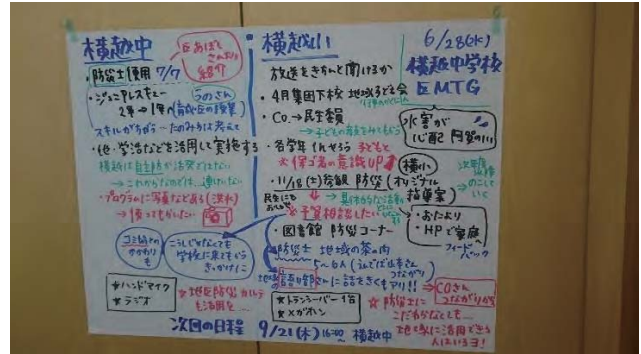
② 各学校へのサポート事例

対象校	実施日	サポート種別	サポート内容
横越小学校	平成29年 6月7日	相談対応	今年度の予算の使い方，防災士の活用，実施内容についての相談。あくまでも予定なので，変更等も構わないことや，都度コンソーシアムと打合せしながら進めていくことを確認した。
横越中学校 横越小学校	平成29年 7月11日	資料提供	中学校区ミーティングで，「地域性から見て洪水災害の心配がある」という話があったので近年の洪水災害資料の提供を行った。
横越小学校	平成29年 8月31日	相談対応	11月か12月に防災学習を実施したく防災士の活用を検討している旨で相談。打合せを行い，防災士の紹介について新潟市防災課へ繋ぎ，地域の防災士へアナウンスを行って頂くように依頼した。
横越小学校	平成29年 9月21日	情報提供	プログラム実施時間の捻出が難しいとのことだったので，昼休みを活用した他校の事例について情報提供を行った。
横越小学校	平成29年 11月18日	参観	授業参観に合わせ，オリジナルの指導案を作成し各学級で防災学習を実施。参観を行った。
横越小学校	平成29年 11月30日	参観	昼休みに地域の防災士を活用した防災クイズラリーを実施。参観を行った。

【6/28 横越中学校区ミーティングの様子】



【6/28 横越中学校区ミーティングの記録】



【9/21 横越中学校区ミーティングの様子】



【9/21 横越中学校区ミーティングの記録】



【11/30 横越小クイズラリーの様子】



【11/30 横越小クイズラリーの様子】



③ 新潟市防災教育コンソーシアム担当コーディネーターより

小学校では発達段階に合わせ、地域の特性を考慮し水害を中心としたオリジナルのプログラムを作成した。単にプログラムを作成し校内で活用するのではなく、作成したプログラムを保護者参観に合わせ防災学習の場を設け、家庭との連携も図っていた。また、地域人材として防災士を活用し活動を行った。

中学校では、地域の団体と連携しジュニアレスキューを実施、災害時に自分たちに何ができるかを考えた。横越中学校区は、1小学校1中学校の中学校区ということもあり学校間での話し合いや情報交換がスムーズであった。

今後も定期的に情報交換の場をもち地域と学校が一体となって防災教育を推進してほしいと感じた。

<横越中学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード	災害危険性について、この地域の大部分が軟らかい地盤の上に分布するため、大きい地震の時には、強い揺れの可能性がある。また、かつて水田として利用されていた地域では液状化の危険性は高い。 阿賀野川では、津波による水位の上昇が想定されている。 阿賀野川の洪水、安野川の洪水、鳥屋野潟流域及び小阿賀野川・能代川の洪水によって、浸水の可能性がある。特に、阿賀野川、鳥屋野潟流域の洪水では、地域の広い範囲で浸水が予想される。
保護者・地域・教職員等の願い	常日頃から高い防災意識をもって、安全な日常生活、適切な行動がとれるようにし、また、災害発生時には中学生として最大限に協力し、貢献できるようにさせたい。
防災教育において、目指す児童生徒像	○自らの安全確保するための行動を第一にし、日々の備えができる生徒。 ○災害発生時における適切な意思決定や行動選択ができる生徒。 ○災害時に、その地域に貢献できる生徒。
補助交付期間に実施した主な取組	○避難訓練（2回） ○ジュニアレスキュー隊育成講習会（2年生対象） ○区の防災士・消防士からの講義
自校プランの内容	○新潟県防災教育プログラムを指導の中核とし、確実に指導を行う。 ○防災教育を通して、自分たちができることを考えさせる。 ○心肺蘇生法、AED操作法、止血法等応急手当、応急担架作成(搬送訓練)等を行う。 ○理科の教科で、地震の発生メカニズム、津波災害の特徴、発生状況に応じた身の守り方、避難の仕方を学ぶ。
自校プランを継続するための方策	○学校担当と地域教育コーディネーターが協力して、地域との連携をしっかりとりながら、防災のあり方を考えていく。 ○小中の定期的な情報交換を行う。 ○防災計画を基に避難訓練の計画を立て、年間計画に明確に位置づけ、実施後の振り返りをもとに見直しを行っていく。

2. 横越中学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年		災害時の中学生の役割について、東日本大震災を例にして考える。										
第2学年				避難訓練（地震想定） 江南区防災士の講話								
第3学年						江南区ジュニアレスキュー隊育成講習会 実技訓練（心肺蘇生法・AED操作と取扱い等）		江南区福祉センター主催の「お仕事のはなし」 （「防災士」の仕事について）体験実習に参加	避難訓練（火災想定） 消防署員より火災避難についての話			

3. 横越中学校 防災教育指導例

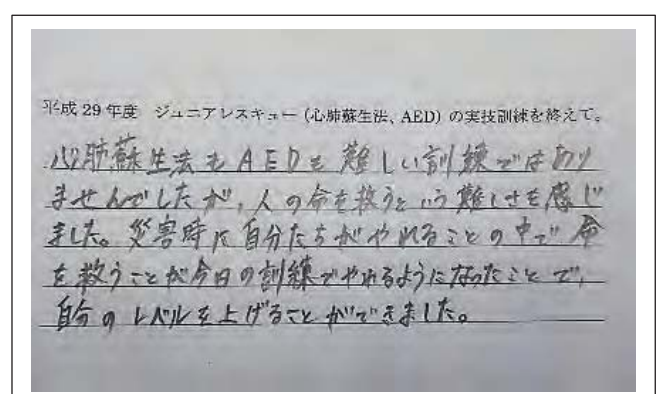
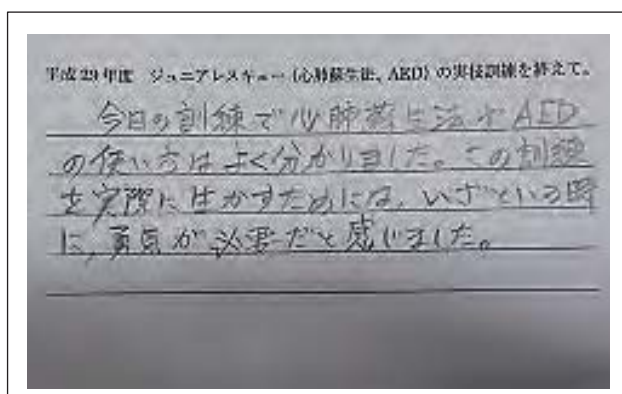
中学校2学年		(学習のねらい)「 自他の生命を第一優先に考え、そのための活動に進んで参加・協力・貢献できるようにする。 」 (ジュニアレスキューの実習を通して、中学生として他人の生命を守る行動がとれるようにする。)
	学習内容(展開例)	資料や学習のポイント等
【導入】	1. 7月の避難訓練時の防災士のお話を振り返り、学習のねらいを伝える ① 東日本大震災時に中学生、高校生が各避難所で活躍した例を伝える。 ② 応急手当の意義と目的をしっかりと伝える。	【問いかけの例】 ・災害発生時、中学生ができることは、どのようなものがあるでしょうか？ 【想定される答え】 ・非常食、救護物資の運搬配布手伝い ・避難所内の案内表示 ・日本語が不得意な外国人への通訳 ・子供の世話 ・負傷した人の応急手当 等 【ポイント】 ○ 非常事態に接した時に生命を守る行動ができるようにするために、日頃から準備しておこう。
	2. 心肺蘇生法の方法について知る ① 江南消防署救急隊員から心肺蘇生の実技指導を受ける。 ・DVDで心肺蘇生法の一連の流れを知り、AEDの使い方についても同時に学習していく。 ・ANN(訓練用マネキン)を使った実技訓練を行う ② 生活班(クラスの班)のメンバーでAEDの手順確認。 ・DVDでAEDの手順を確認。 3. 喉に物をつまらせた時の対処について知る ① 老人、子供が喉をつまらせたとき、落ち着いて対処する方法を、救急隊員から実技指導を受ける。 1) 背後から両手で腹部(横隔膜付近)を抱える。 2) 腹部の空気を一気に吐き出させるように、グッと手前に引き寄せる。	【救急隊員の説明】 ・反応の確認 ・協力者を求める(119番通報、AEDの手配) ・呼吸を見る ・胸骨圧迫(1分間に100回のペースで) ※班員全員が必ず1回はANNを使って訓練を行う。 【AEDの実技訓練】 ・訓練用AEDを使用して、班ごとに実技訓練を行う。 ・AEDから流れてくる音声をしっかり聞き、音声通りに操作する。 ※AEDが患者の状態をすべて把握して指示を出すので、勇気を持って使わせるようにする。 ※役割を交代して、班員全員が必ず1回は訓練用AEDを使って訓練を行う。 【班員同士で実技訓練】 ・お腹の空気を吐き出させるように ※班員全員が必ず1回は訓練を行う

【まとめ】	4. 学習してわかったことを確認する ① ワークシートに、「授業の感想」などを書かせて、発表させる。 ② 救急隊員による、まとめの話。	ワークシート 【ポイント】 ○ 中学生でも、災害時にできることがいろいろあることを確認する。 ○ 生命を守る心肺蘇生法と AED の使い方を理解し、確実に使えるようにする。
【評価】	・心肺蘇生法の技術を実技訓練を通してマスターできたか。 ・AED の使い方をマスターし、実際の場面で使う勇気が持てたか確認し、実行する意識を高めることができたか。 ・中学生という立場でも、他人の生命を守るためにできることがあることを知ることができたか。	

【授業実践の様子】



【感想】



＜横越小学校＞

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード	・当校は、42年前に4つの小学校が合併して、今の横越小学校が誕生した。そのため、校区が広く、約1/4の児童が、スクールバスで登校している。 ・学区には、信濃川・小阿賀野川が流れている。土手があるとはいえ、広い地域で海拔は2m以下であり、洪水時には危険にさらされる可能性が高い。日頃の備えや心構えを、より一層高めていかなければならない地域である。 ・保護者・地域には協力的な方もおり、祭りや地域行事を伝統的に行っている地域もある。ただ、新興住宅地も多く、地域の連携が十分に図れていない地域も見受けられる。そのため、各地域での防災訓練等の推進がなかなか進められていない現状もある。
保護者・地域・教職員等の願い	・学校では、地震・火事・不審者・洪水・大雪などの様々な設定で、避難訓練や集団下校訓練を年に5～6回、実施している。様々な想定での訓練を通して、いかなる想定でも、安全に避難できるスキルを身に付けさせたい。 ・学校外で災害が起こった場合、最悪、周りに大人がいない状況になることも想定される。災害時における安全な行動についての知識をもち、「自分の身は自分で守る」という意識を高めてほしい。
防災教育において、目指す児童生徒像	・危険察知能力を高め、それぞれの災害でどんな危険がひそんでいるかを予想することができる児童。 ・いつも大人の指示を待つのではなく、「自分の身は自分で守る」意識を高め、時と場合によってはどういう行動を取るべきかを自分で考えて判断し行動できる児童。
補助交付期間に実施した主な取組	・4回の避難訓練（火事・地震後の引き渡し・不審者・洪水） ・2回の集団下校訓練（不審者・大雪） ・11月の土曜参観日での、防災教育の学習参観（全学級で） ・11月30日（木）の「防災クイズラリー」（防災士5名、来校） ・図書館に、防災コーナーの設置
自校プランの内容	・横小バージョンの指導案を作成した。今後、毎年、同じ内容で授業を行う。また、児童だけでなく、保護者・地域の意識も高めるため、できるだけ、学習参観等で授業を行うようにする。 ・防災士の方と、平成29年度、初めて連携を行うことができた。また、防災士の存在を教師も子どもも知ることができた。今後、避難訓練後のご指導や学年の実態に合わせた講話など、防災士の方の活用も視野に入れた計画を立てる。
自校プランを継続するための方策	・今回、11月30日に行われた「防災クイズラリー」には、横越地域在住の5名からお越しのうえ、ご指導をいただいた。学校職員より知識の豊富な防災士との連携を密にし、平成30年度以降も活用していく。（担当者に、しっかりと引き継ぐ。） ・毎年、秋に防災月間を設定し、学習参観や横小フェスティバルの機会に、保護者の意識を高める方策を、今後も検討していきたい。

2. 横越小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年	不審者による集団下校	火事による避難訓練	体験型 安全教室	地震による避難訓練及び引き渡し訓練		不審者による避難訓練		学習参観での防災教育授業の実施	防災クイズラリー（休み時間 前半…上学年、後半…下学年）	洪水を想定した避難訓練	大雪による集団下校	
第2学年												
第3学年												
第4学年			自転車 交通安全 教室									
第5学年												
第6学年												

3. 横越小学校 防災教育指導例

小学校中学年	(学習のねらい) ・学校外において、地震からの身の守り方を知る。 ・緊急時に、どうやって家の人と連絡を取り合うかを家の人と相談して決める。	
	学習内容（展開例）	資料や学習のポイント等
【導入】	1. 地震の恐ろしさを考える ①地震の時の家やまちの様子を写真で見る。 2. 1年間（8760時間）の内、学校外で過ごす時間がどれくらいか、知る ①1年の内、学校にいる時間は、約1500時間（200日×7.5時間）ということを知る。 ②17％は学校で過ごす、残りの83％は地域で過ごしている、地域での身の守り方を知る必要があることを実感する。	★全て、PPのスライドを生かして授業を行う。 ・新潟県防災教育プログラム「地震資料202」を見せる。 ・数人の児童に感想を聞く。 ・テープ図等を使って、地域にいる時間が長いことを実感させる。 ・学校での避難訓練だけでは、自分の命をしっかりと守れないことを知る。
【展開】	【学習課題】 学校にいない時に地震がきたら、どうやって自分の身を守るか。 3. 家庭や地域における身の守り方について学ぶ ①家や町中にいる時に地震が来たら、どんな危険があるかを考える。 ・棚がたおれる。 ・電柱がたおれる。 ・エスカレーターが止まってけがする。 ・たくさんの危険があるね。 ②こんなにたくさんの危険から、自分の身を守るには、どうしたらよいかを考える。 ・とにかく安全な場所に避難する。 ・ゆれがおさまるまでじっとする。 ③もっと、安全に自分の身を守るのに必要なことは何かを考える。 ・普段から、準備しておく。 ・とにかく上手に逃げる。 ・<u>おうちの人と早くいっしょになる。</u>	・地震ワークシート 02-1-①及び 02-1-②を利用して作成した自作のワークシートで、3つの場面について、起こりうる危険と自分でできそうな身の守り方の方策を出し合い、共有する。 ・少しでも早くおうちの人と合流できるようにするといいいという考えを取り上げる。

	④もし、おうちの人が仕事に行っている時に、地震が来てしまったら、どうするか。 ・携帯電話に連絡する。 ・横越総合体育館で待ち合わせする。 ・同じ地域の大人に助けを求める。 ⑤実際に地震が起きると、家族との連絡が取れなくて困っている人がたくさんいることを知る。 ・家族とすぐに会うことが大切だ。 ・家の人と一緒になれると安心する。 ・家の人と決めておこう。 【まとめ】 自分の身は自分で守り、早くおうちの人といっしょになることが大切。	・まず、連絡方法について話し合っているかを問う。もし、話し合っている子がいたら、その手法を聞く。 ・話し合っていない子がほとんどなので、考えられる手法を出し合う。 ・インターネットからの写真資料『災害時の伝言板』を見せる。 ・家の人と話し合っておく必要感を高める。
【おひる】	4. 学校外で地震が発生した時の、行動についてまとめる ・まずは、自分で身を守ることが大切だよ。 ・家の人と、どうやって連絡を取ろうかな。 ・どこで待ち合わせにしようかな。話し合おう。	・ワークシートを利用して、地震発生後の動きについてまとめる。 宿題：家の人にも見てもらい、コメントをもらう。担任のチェック後、家の見やすい位置に貼るよう促す。
【しゅうごう】	・様々な場所の危険を予想して、身を守る方法を考えることができたか。 ・地震発生後、どうやっておうちの人と合流するか、考えることができたか。または、家の人と相談して決めることができたか。	

【授業実践の様子】



【板書】



7) 新津第二中学校区（秋葉区）

対象校：新津第二中学校・結小学校・荻川小学校

① 中学校区ミーティングの実施日及び主な検討内容

	実施日・会場	検討内容
第1回	平成29年6月28日 15:50～16:50 会場:新津第二中学校	1. 5/11（木）研修会の振り返り 2. 今、不安や課題として感じていること（意見交換） 3. 今後のミーティングのあり方やスケジュールについて（意見交換）
第2回	平成29年8月30日 15:00～16:40 会場:新津第二中学校	1. 第1回ミーティングの振り返り 2. 防災教育の進捗及び今後の予定について（情報共有） 3. その他（予算活用状況等）
第3回	平成29年11月21日 16:00～17:00 会場:新津第二中学校	1. 第2回ミーティングの振り返り 2. 各校における取組紹介及び予算活用状況について（情報共有） 3. 平成30年度以降、継続していくための課題抽出と意見交換

② 各学校へのサポート事例

対象校	実施日	サポート種別	サポート内容
新津第二中学校 結小学校 荻川小学校	平成29年 6月28日	資料提供	学校で活用できる防災教育に関する参考資料（家族防災会議、にいがた災害食レシピ等）を提供した。
新津第二中学校 結小学校 荻川小学校	平成29年 6月29日	資料提供	NTT発行「ドコモポケットメモ」・WWA発行「防災ポケットメモ」・ふるさと新潟防災教育新聞vol.2（三条市立第四中学校取組紹介）の資料を提供した。
結小学校	平成29年 7月25日	電話相談	文化祭防災教育紹介ブースでの新聞紙スリッパ作り体験の講師について相談対応。講師を紹介した。
新津第二中学校	平成29年 8月8日	電話相談	避難訓練後の防災講座について相談対応。講座内容・講師未定のため、打ち合わせ日程を調整した。
新津第二中学校	平成29年 8月30日	打ち合わせ	避難訓練後の防災講座について打ち合わせ。講話・各学年の体験活動について助言と提案を行った。
新津第二中学校	平成29年 10月27日	電話相談	避難訓練後の防災講座について相談対応。講座内容について、時間変更・準備品等の確認をした。
結小学校	平成29年 10月28日	講座実施	文化祭防災教育紹介ブースにて、新聞紙スリッパ作り体験・防災クイズを実施した。
新津第二中学校	平成29年 11月8日	電話相談	避難訓練後の防災講座について相談対応。アルファ化米のアレルギーの確認をした。
新津第二中学校	平成29年 11月17日	講座実施	全学年を対象に、災害が発生した時の避難方法について講演会を実施した。講演会后、1年生を対象に、新聞紙スリッパ・紙食器作り体験、アルファ化米試食体験を実施した。

【8/30 第2回新津第二中学校区ミーティング】



【10/28 結小学校文化祭 体験講座】



【11/17 新津第二中学校 防災講座】



③ 新潟市防災教育コンソーシアム担当コーディネーターより

新津第二中学校区では、学校・地域が連携した実践的な取組として、地域の自治会長や町内会長を招いた講話や地域の防災への取組の紹介により、生徒と地域住民との交流を図った学校や、文化祭や学習発表会等の既存行事を活用した防災教育紹介ブース（防災楽習迷路、防災グッズの展示、防災グッズ作り体験、防災クイズ等）を設置した学校もあった。また、各学年が実施した防災教育の学習内容をポスターにまとめ、保護者や来校者に対し、防災意識の向上を図る工夫も実施されている。

平成 30 年度、三校一斉防災訓練を予定しており、学校・地域が一体となった訓練の実施に向けて、現在計画段階である。各校、平成 29 年度実践した取組を平成 30 年度も継続していくことで、今後より一層発展した取組が期待できる。

＜新津第二中学校＞

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

学校・児童生徒・地域等の実態※地域の優先ハザード	・信濃川と小阿賀野川に挟まれた地域で、水害が危惧される地域である。 ・地盤が弱く新潟地震が発生した時には、液状化現象が起こった地域でもある。
保護者・地域・教職員等の願い	・新津第二中学校は校舎が新しく、また体育館が2階にあることから、水害が発生した時には避難所として大きな役割を果たすことが求められている。そのため、有事のときに中学生が校舎を案内するなど率先避難者となってほしい。 ・子どもたちの元気と笑顔は皆の救いになる。有事の際には、避難所等で元気に活動する姿を皆に見せてほしい。
防災教育において、目指す児童生徒像	・有事の際には率先避難者になり、自分の命は自分で守れる生徒 ・地域の一員としての自覚を持ち、地域の防災に主体的に貢献しようとする生徒
補助交付期間に実施した主な取組	・「新潟県防災教育プログラム」の必須項目の授業を実施した。 ・6月16日の地震を想定した新潟市一斉避難訓練を小学校と同一歩調で実施し地域の方々にも案内を出し、生徒との顔合わせの機会をつくり、避難場所の確認を行った。 ・11月17日全校一斉防災教室では、以下の指導を行った。 ① ふるさと未来創造堂の中野氏から「災害時にどのように避難するか」という演題で講演会を開催した。 ② 自治会長・町内会長から「有事の際に中学生に期待すること」という内容でお話をいただいた。 ③ 学年ごとに、災害に向けた防災教室を開催した。1年生は新聞紙スリッパ・紙食器作りとアルファ化米試食、2年生は簡易担架による負傷者の搬送訓練、3年生は荻川地区の防災への取組について考えた。日頃から「しておくべきこと」と「できること」について考えた。
自校プランの内容	指導計画の作成・実践 1年生 津波の仕組みと新潟県の津波災害を学ぶ。津波からの逃げ方を学ぶ。 2年生 洪水時の具体的な避難方法を考える。原子力災害時にとるべき行動。 3年生 避難所と避難者について考える。避難所の運営。 全校一斉防災教室
自校プランを継続するための方策	・総合的な学習の時間のカリキュラムの1つとして位置付け、学習時間の確保に努める。 ・地域の消防署、荻川地区コミュニティ協議会、社会福祉協議会、自治会・町内会と連携して活動を組む。 ・新津第二中の地域性と特性を考慮して活動を組んでいく。 ・小中9年間を見通した防災教育について計画立案し実施する。

2. 新津第二中学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
第1学年	避難経路の確認（各学級）			地域合同避難訓練①			防災教育プログラム必須編			ミサイルからの避難訓練②			地域合同避難訓練③＋全校防災教室		
第2学年															
第3学年															

3. 新津第二中学校 防災教育指導例

中学校 全校生徒対象	(学習のねらい) ・「自分の命は自分で守ること」について具体的に学ぶことを通して防災意識を高める。 ・新津第二中学校が避難所になった時に周りの人への援助の仕方を学ぶことを通して率先避難者としての役割について考える。
-----------------------	---

	学習内容（展開例）	資料や学習のポイント等
【第一次】	【全校一斉指導】	
	1. 災害が起こった時にいかにして命を守るかについて学ぶ (1) 講演会 講師：ふるさと未来創造堂の中野氏 ・新津第二中学校は小阿賀野川と信濃川に囲まれた地域のため、洪水が心配される地域であることを学ぶ。 ・新津第二中学校の体育館が2階にあるという特性についても考える。 (2) 自治会長，町内会長による講話 「災害時に中学生に期待すること」についての講話 ・地域の方々との顔合わせの交流の一助とする。 ・地域の人々から期待されているということを実感させ，自己有用感をもたせていく。	・信濃川が増水した時の画像等を見ながら聞く。 【問いかけ】 ・夕方に家に一人である時に避難勧告が出たらどうするか？ 【想定される答え】 ・一人で避難する。 ・家族に連絡を取る。 【ポイント】 ・決められた答えはない。日頃からの備えとその場に適した判断が大切になる。 【内容】 ・中学生には笑顔を皆に見せてほしい。 ・校舎を一番知っているのは生徒だから，地域の人々に案内してほしい。 ・小さい子どもたちと遊んでほしい。 ・臨時の新聞を発行する等避難者の気持ちを和ませてほしい。
【第二次】	【学年別指導】 「災害に備えての体験学習教室」	
	2. 新津第二中学校が避難所になった時に周りの人への援助の仕方について学ぶ (1) 1年生・・・新聞紙スリッパ作りと紙食器作り，アルファ化米試食 ・最初に新聞紙スリッパ作りと紙食器作りを行う。その後にラップに包まれたミニおにぎりの試食を行う。アルファ化米はアレルギーをもつ生徒に配慮して五目ご飯ではなく，白ご飯とする。	・ふるさと未来創造堂の中野氏・星野氏から指導をいただく。地域教育コーディネーターと保護者のボランティアにアルファ化米の炊き出しとミニおにぎり作りをお願いする。

(2) 2年生・・・簡易担架による負傷者の搬送訓練 ・最初に消防署員による簡易担架の作り方と搬送方法の説明を聞く。 ・何も道具がない時に備えて、おんぶによる搬送訓練も練習する。 (3) 3年生・・・荻川地区の防災への取組を知る。 ・荻川地区は小阿賀野川と信濃川に挟まれた地域ということから、荻川コミュニティ振興協議会が作成した荻川地区洪水避難参考図の説明を聞く。 ・災害ボランティアセンター，荻川地区の避難所，おぎかわあったかネットについての説明を聞く。	・南消防署員から指導をいただく。 ・鉄棒2本と毛布1枚で1セットとする。 ・秋葉区社会福祉協議会と荻川地区社会福祉協議会の職員からお話をいただく。
---	---

【授業実践の様子】



＜結小学校＞

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード	・当校は、海岸線からは離れているが、堤防を隔てて能代川沿いに位置する。能代川の増水による水害が懸念される地域である。 ・雨量が増えると、増水が見られることもあり、6年前、学区の住民に避難勧告が出されたことがあり、学校を避難所として開設したことがあった。 ・東日本大震災や熊本地震等、身近に教訓となる地震の例もあり、避難訓練時には真剣な取組が見られる。10年以上前から隣接する幼稚園と一緒に避難訓練を実施している。地域の方と共に避難訓練などは行っていない。それ故、地域の方を含めた防災教育が必要であると考え。
保護者・地域・教職員等の願い	・年3回の避難訓練と児童引き渡し訓練が、万が一の時にしっかりと機能するように毎年検討し、改善を図っていく。 ・隣接する幼稚園はもちろんのこと、地域住民とともに避難訓練を実施することで切実感をもったものにする。
防災教育において、目指す児童生徒像	・自分の住む地域の様子や危険性について知り、安全な行動に必要な知識を身に付け、主体的に判断しながら「自分の命は自分で守る」ことができる子ども
補助交付期間に実施した主な取組	・通報訓練、避難訓練の実施（全校児童） ・避難訓練時、児童引き渡し訓練時の講話（全校児童、幼稚園児） ・地域の方と避難訓練と避難所確認 ・防災についての道具、書籍の展示や新聞紙スリッパ作り
自校プランの内容	・学校における防災だけでなく、各家庭・地域での防災意識を高めることを根底に据えた防災教育プログラムを実施していく。 ・県の防災教育プログラムの活用を図って、防災の方法や意識を高める。
自校プランを継続するための方策	・新潟市一斉避難訓練時に、地域住民への参加をお願いし、地域と一体となって防災への意識を高めていく。 ・学習発表会や学習参観など保護者が来校する際に、防災意識を高めるような講話を行ったり、防災教育紹介ブースを設置したりする。

2. 結小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年	第一回避難訓練（火災想定）	第二回避難訓練（不審者想定）	第三回避難訓練（地震想定・一斉避難訓練の日・地域ぐるみ回）	思慮引き渡し訓練（日曜参観授業の日）		県防災教育プログラムに基づいた防災教育（各学級での授業）	防災教育紹介コース設置（学習発表会の日）					
第2学年												
第3学年												
第4学年												
第5学年												
第6学年												

3. 結小学校 防災教育指導例

小学校高学年	(学習のねらい)「洪水に対する日頃からの備えについて知り、状況に応じた具体的な避難方法や行動について考える」 ・洪水時の危険性と日頃からの備えの重要性を理解する。
---------------	---

	学習内容（展開例）	資料や学習のポイント等
【導入】	1. 洪水被害の実態を知り、学校近くでも被害が及んだことをおさえる。 ①写真を見て何が起きているのかを捉えさせる。 ②平成 23 年 7 月の新潟・福島豪雨（大雨）のあとの様子であること、行政からは避難勧告が出されていたこと、三条市では死者 4 人、福島県では行方不明者が 2 人、出たことを伝える。（全壊 18 棟、半壊 1 棟、7000 棟以上が床上床下浸水） ③荻川地区洪水避難参考図から平成 23 年には能代川が 6.5m の水位まで上がったこと、これは結小学校の 2 階から 3 階部分に当たること、このときに堤防決壊し、大量の水が流れ込んだとすると、命の危険があったことを伝える。	【問いかけの例】 ・この写真を見て気付くことはどんなことかな。 【想定される答え】 ・橋が崩れている、道が水に埋もれている、など 【ポイント】 ○「避難指示（緊急）」・「避難勧告」・「避難準備・高齢者等避難開始」の段階を簡単に説明し、おさえる。 ○荻川地区洪水避難参考図を見せる。 ○資料 231～233：平成 23 年 7 月新潟・福島豪雨による被害の様子を提示する。 ○資料 505：平成 23 年 7 月新潟・福島豪雨の避難状況を提示する。
【展開】	2. 洪水から身を守る方法を考える。 【課題】洪水で命を落とさないためには、どのような行動や日頃の準備が必要かな。 ①三条市の住民は、避難勧告後どのような行動をとったのか、8 割以上の住民が自宅にとどまった事実と理由を伝える。 ②洪水ハザードマップや荻川地区洪水避難参考図から、課題解決に向けてグループで話し合う。 ③家で一人（子どもだけ）でいるときに避難勧告が出た場合も想定に入れさせることを助言する。 3. 日頃から備えておくべきことを知る。 いざというときに、ちゃんと避難するために、日頃からどんな準備をしておくべきかを考え、次の点をおさえる。 ①「<u>すぐに避難できるように、非常持ち出し品を用意しておく</u>」 ②「<u>避難訓練を通じて、避難場所や避難経路を確認しておく</u>」	【問いかけの例】 ・三条市の住民のみなさんのアンケート結果を知り、みなさんは洪水で命を落とさないためにはどのような行動をとりますか？また、どのような準備を日頃からしておくといいと思いますか？ 【想定される答え】 ・安全を考えて身を守る。 ・避難する。 ・避難場所を確認しておく。 ・避難するための準備をしておく。

【まとめ】	4. 学習してわかったことを確認する。 【まとめ】日頃からもしもの場合に備えて家族とよく話し合い、状況に合わせて安全に避難する。 ① ワークシートに、「授業の感想」などを書かせて、発表させる。	【ポイント】 ○ 「ハザードマップはあくまで目安であって、それ以上の災害も起こりえる」ことを確認する。 ○ 「日頃から訓練等を通じて、避難方法を確認しておく」ことを確認する。
【評価】	・ハザードマップ等から自宅周辺や学校周辺など、地域の洪水の危険性、自宅周辺や通学路周辺の避難場所を理解することができたか。 ・非常持ち出し品、避難方法を日頃から準備・確認しておく必要性を理解することができたか。	

【授業実践の様子】



【板書】

課題 洪水で命と財に被害を及ぼすためには、どのような行動や日ごろの準備が必要だろうか。

80%の人 自宅にとどまる

荻川地区 洪水避難参考図

もしも被害が起きたら、あなたはどうする？

避難の時は、「身近な所」に連れて行く！

川が近くにいるら... 川からはなれる

家にいたら... 外に避難する場所を
高いところ、川から離れた場所
とどまる場合は2階へ
地下... 流れ流れて地上へ

安全な場所に身をかくす!!

日ごろから準備することは？

まとめ 日ごろから物を準備したり、家族と話し合ったりする。

<荻川小学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード	・当校は、海岸線から離れているが、信濃川、小阿賀野川に接した立地であり河川の増水による水害が最も懸念される地域と言える。 ・雨量が増えると増水が見られ、学区の住民の避難情報が出されることがあり、平成29年度、学校が避難所として開設された。 ・東日本大震災や熊本地震等、身近に教訓となる地震の例もあり、避難訓練時には真剣な取組が見られる。平成29年度から、地域の方とも連携しながら避難訓練を実施している。
保護者・地域・教職員等の願い	・年3回の避難訓練と児童引き渡し訓練が、万が一の時にしっかりと機能するように毎年検討し、改善を図っていく。 ・地域住民とともに避難訓練を実施することで切実感を持ったものにする。 ・児童への指導は定期的に行っているが、保護者に災害に対して啓発する機会が少ないので、親子で防災について考える機会を設定していく。
防災教育において、目指す児童生徒像	・災害が起こった際に自分で自分の命を守る行動を身に付けた子ども ・自分の住む地域に起こりうる災害、危険な場所、避難する場所や方法等について正しく理解し行動できる子ども
補助交付期間に実施した主な取組	・避難訓練、放送の聞き取り訓練（全校児童） ・非常時の引き渡し訓練（全校児童） ・参観日の親子防災教室（6学年） ・文化祭での防災ブースの設営
自校プランの内容	・学校で地域全体の防災体制ができるまでには時間が必要となるため、保護者の啓発に重点を置き、地域の人に参加する行事等でも広く啓発活動を行う。 ・学校における避難訓練では防災教育プログラムにより児童の発達段階に応じた指導を充実させていく。
自校プランを継続するための方策	・文化祭に防災に関するブースを設けたり防災教室を実施したりすることを継続する。 ・日頃から地域と学校の交流を図り、地域教育コーディネーターと連携しながら地域の人材を把握し、適材適所で活用できるように情報を収集していく。

2. 荻川小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年												
第2学年												
第3学年												
第4学年												
第5学年												
第6学年												

第一回避難訓練 中学校区合同訓練 (地震想定)

児童引老渡し訓練 (一日参観日)

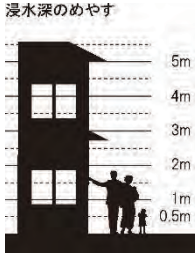
第二回避難訓練 (火災想定)

防災教育ブース 防災学習迷路 (作品展)はなごち体験広場

第三回避難訓練 (不審者想定)

県防災教育プログラムに基づいた防災教育 (各学級)

3. 荻川小学校 防災教育指導例

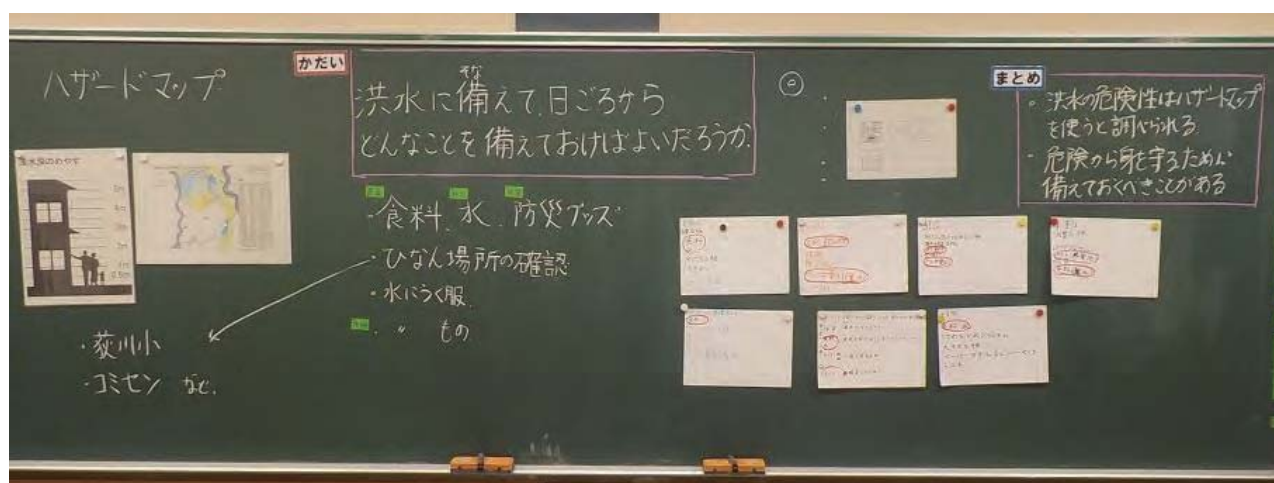
小学校高学年 洪一必須一5対応	(学習のねらい) ～洪水に対する日頃からの備えを知る～ ○洪水ハザードマップの意味と使い方を知る。 ○日頃から備えておくべき事を考える。
学習内容(展開例)	資料や学習のポイント等
【導入】 1. 洪水対策について T 洪水から皆さんの家や街を守る対策にはどのようなものがありますか。 C 土手(堤防)。 C ダム。 T 荻川地区に洪水があったら、どのくらいの水がくるか分かりますか。 C 10cm くらいかな。	
【展開】 2. 洪水について調べる方法と日頃から備えておくべきことを知る ◎ 洪水の危険性を知るためにはどうしたらよいだろうか。 T 何を調べたらいいと思いますか。 C わからない。 C インターネット。 T こういうものがあります。(資料提示)  (資料 471)  (資料 489) ○ 洪水に備えて、日頃からどんなことを備えておけばよいだろうか。 C 避難場所を確認しておく。 C 避難するための準備をしておく。 T どんな物を準備すればよいですか。班で話し合ひましょう。 C 水, 食料, スマホ, 服, 懐中電灯, 傘, おむつ	どういうキーワードで検索したらいいか確認する。 ・新潟県防災教育プログラム【洪水災害編】資料 471 洪水ハザードマップ(新潟市秋葉区信濃川水系小阿賀野川・能代川) ・新潟県防災教育プログラム【洪水災害編】資料 489 洪水ハザードマップ浸水深の目安 資料を用いて、次の点をおさえる。 1) 「<u>自宅周辺や学校周辺など、地域の洪水の危険性</u>」 2) 「<u>自宅周辺や通学路周辺の避難場所</u>」 3) 「<u>浸水想定図に示されている深さよりも深い浸水になることもある</u>」 ・なぜそれが必要なのかを理由も言えるようにする。 ・新潟県防災教育プログラム【洪水災害編】資料 503-a 503-b 非常持ち出し品リストの例(ピクトグラム)

【まとめ】	T 洪水の危険性を知るためにはどうしたらよかったですか。また、どんな備えをすればよいですか。 【まとめ】 洪水の危険性はハザードマップを使うと調べられる。危険から身を守るためには備えておくべきことがある。	・ワークシートに学習した内容と自分で考えたことを記入する。
【評価】	・ハザードマップから自宅周辺や学校周辺など、地域の洪水の危険性、自宅周辺や通学路周辺の避難場所を理解することができたか。 ・非常持ち出し品、避難方法を日頃から準備・確認しておく必要性を理解することができたか。	

【子どもの振り返り】

- ・洪水の危険性は、ハザードマップを使うと調べられることが分かった。
- ・ハザードマップを使うと、どこに逃げるかなどが分かる。
- ・防災には、いろいろな物や道具が必要だと分かった。日頃から防災道具を備えた方がいいと思った。
- ・災害に対しては、日頃から備えていきたい。
- ・洪水に備えて何を準備すればいいか、なぜ持って行くのかのわけも全て分かった。本当に洪水が起きたとき、何を持っていくのか分かった。
- ・いろいろな道具がいるんだなと思った。特にラジオが思いつかなかった。ラジオは情報を集めるためなんだなと思った。
- ・避難場所を決めることが大切。

【板書】



8) 白根北中学校区（南区）

対象校：白根北中学校・大鷲小学校・根岸小学校・大通小学校

① 中学校区ミーティングの実施日及び主な検討内容

	実施日・会場	検討内容
第1回	平成29年6月6日 15:00～16:20 会場：白根北中学校	1. 5/11（木）研修会の振り返り 2. 今、不安や課題として感じていること（意見交換） 3. 今後のミーティングのあり方やスケジュールについて（意見交換）
第2回	平成29年8月29日 15:00～16:30 会場：白根北中学校	1. 第1回ミーティングの振り返り 2. 防災教育の進捗及び今後の予定について（情報共有） 3. その他（予算活用状況等）
第3回	平成29年11月27日 15:15～16:20 会場：白根北中学校	1. 第2回ミーティングの振り返り 2. 各校における取組紹介及び予算活用状況について（情報共有） 3. 平成30年度以降、継続していくための課題抽出と意見交換

② 各学校へのサポート事例

対象校	実施日	サポート 種別	サポート内容
白根北中学校 大鷲小学校 根岸小学校 大通小学校	平成29年 6月6日	資料提供	学校で活用できる防災教育に関する参考資料（家族防災会議、にいがた災害食レシピ等）を提供した。
根岸小学校	平成29年 7月4日	電話相談	地域合同防災訓練の防災講座の講師について相談対応。講師を紹介した。
根岸小学校	平成29年 7月10日	資料提供	地域合同防災訓練の体験活動の資料（新聞紙スリッパ・新聞紙で食器作り・ビニール袋で雨がっぱ・空き缶や空きビンでランプ）を提供した。
根岸小学校	平成29年 7月28日	打ち合わせ	地域合同防災訓練の防災講座について打ち合わせ。講座内容・体験活動について助言と提案を行った。
根岸小学校	平成29年 8月4日	打ち合わせ	地域合同防災訓練の学校・地域住民との打ち合わせに参加した。
白根北中学校	平成29年 9月20日	打ち合わせ	防災講座について打ち合わせ。講座内容・体験活動について助言と提案を行った。
根岸小学校	平成29年 9月26日	打ち合わせ	地域合同防災訓練の防災講座について防災士と打ち合わせ。講座内容について確認した。
根岸小学校	平成29年 10月1日	講座実施	上学年（防災授業、語り部講話）・下学年（防災授業、語り部講話）ごとに講座を実施した。講座後、3～4年生を対象に、新聞紙スリッパ作り体験、地域住民を対象に、ダンボールでの防災グッズ作り体験を実施した。
白根北中学校	平成29年 10月17日	講座実施	全学年を対象に、防災講座を実施。3つのコーナーを学年ごとに移動しながら体験した。①ワークショップ②防災グッズ作り体験（新聞紙スリッパ）③起震車体験を実施した。

【8/29 第2回白根北中学校区ミーティング】



【10/1 根岸地域・根岸小合同防災訓練 防災講座】



【10/1 根岸地域・根岸小合同防災訓練 防災講座】



【10/17 白根北中学校 防災講座】



③ 新潟市防災教育コンソーシアム担当コーディネーターより

白根北中学校区では、学校・地域が連携した実践的な取組として、地域人材や既存の行事を活用し、コミ協や防災士、地域の消防団、家庭との継続可能な連携のあり方を検討した。防災訓練時に、防災士を招いた授業、児童と保護者が共に参加できる体験活動（濃煙体験、消火体験、搬送体験）、炊き出し訓練等を実施した学校や、コミ協防災部会主催の防災訓練日を授業日とし、地域・学校合同防災訓練において、語り部を招いた授業、体験活動（防災グッズ作り体験、心肺蘇生体験等）、引き渡し訓練等を実施した学校もあった。また、地域住民から、中越地震発生時、救助活動に従事した方を招いた講演会を開催。地域の人材を発掘できた。

各校、地域に根差した防災への取組に励んでおり、地域との連携が確立しつつある。その取組により、学校・保護者・地域住民が地域の防災について考え、さらに地域交流の強化につなげることができたと実感した。

<白根北中学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード	○当校は避難所になっており、生徒は地域に対する関心が低く、災害が起きた時のことを考えていない傾向が見られる。 危機感に乏しく、自分の身をいかに守るかを熱心には考えていない。 ○地域はコミ協を中心として、主に日曜日に防災訓練を実施している。
保護者・地域・教職員等の願い	○生徒の内発的な自助意識を高めることによって、災害からよりよく身を守り、生き抜く力を身に付けた生徒を育成する。
防災教育において、目指す児童生徒像	○自分の命は自分で守るという姿勢を身に付け、災害時には危険を自ら察知し、率先して安全を確保するための行動ができる。 ○災害及び被害の特徴、発生のメカニズム、地域の自然環境や災害防災についての基本的な事項を理解できる。 ○災害の発生時及び発生後に、人々や集団、地域の安心・安全に対して、進んで役に立つことができる。
補助交付期間に実施した主な取組	○県防災教育プログラムを取り入れた防災教育を、各教科で年間計画に従い実施した。 ○避難訓練 2回 ・ 6/17 南消防署の指導の下、地震による避難行動の確認を実施。 ・ 10/17 火災による避難行動の確認を実施。 ○防災教室の実施。 ・ 講師を招いて、防災につながる3つの活動を実施。 ①地震発生時の行動を班ごとに考える活動 ②防災グッズ作り ③起震車体験
自校プランの内容	○避難訓練の内容は、春は地震とし、秋は火災、津波・洪水、不審者等を3年間で1回ずつローテーションで実施する。 ○各教科で、県防災教育プログラムを取り入れた年間計画を確実に実施する。 ○講師を招いて防災教室を実施し、生徒が防災について考える機会を設定する。 ○消防士による応急手当講習会の実施。
自校プランを継続するための方策	○防災教室で指導可能な指導者の確保。 ○避難訓練などの防災活動を、中学校区全体で実施するために、4つのコミ協や3小学校との連携を深めていくこと。

2. 白根北中学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年	防災プロ 地震	防災プロ 地震 洪水 土砂	第1回避難訓練（地震想定）					第2回避難訓練（火災想定） 防災教室		防災プロ 地震		
				防災プロ 地震 原子力		防災プロ 津波 応急手当 の講習 (10月)		防災プロ 津波・地震 洪水・土砂 原子力			防災プロ 地震	防災プロ 地震・土砂
第2学年		防災プロ 津波・地震 洪水・土砂 雪									防災プロ 地震	
第3学年		防災プロ 地震 洪水					防災プロ 地震	防災プロ 地震 洪水			防災プロ 雪・土砂 津波・洪水	

3. 白根北中学校 防災教育指導例

中学校

(学習のねらい)

- ・地震発生時に起こりうる危険を想定する。
- ・避難後にできることを考える。

	学習内容（展開例）	資料や学習のポイント等
【導入】	1. 指導者の紹介，体験活動の説明 ○地震の揺れの映像をみて，地震の被害は命に関わる大変なものだということに気付く。 ○3つの体験活動があるので，学年ごとに移動時間も含めて25分ずつ順番に行う。 ○それぞれに指導者がついてるので，説明をよく聞いて活動する。	○東日本大震災などの大きな地震の揺れが写っている映像をみて地震の被害の大きさについて把握させる。
【展開】	2. 学年ごとに体験をしていく (1) 地震発生時の起こりうる危険と避難行動を考える。 ・中学校区の危険箇所の写真を見て，その場所に自分たちがいたときに地震が発生した時の避難行動を考える。 (班活動) ・ホワイトボードで班員の意見を集約していく。 ・いくつかの班が自分たちの意見を発表する。 (2) 防災グッズ作り ・古新聞紙を用いて，スリッパ等の避難所生活で役立つ身近なものを実際に作ってみる。 (3) 起震車体験 ・短時間なので，各クラスより代表4名が揺れの体験，机の下への避難を実施する。	【問いかけ】 ・あなたがもし，その場所にいたときに大きな地震が発生したら，あなたはどのような避難行動をとりますか。 【予想される答え】 ・塀が倒れてくるので，反対側の広場の方に避難する。 【問いかけ】 ・家の中や避難所に必ずある新聞紙を使って，身近に必要なものの代替品を作ってみよう。 【予想される答え】 ・スリッパは，ガラスの破片が落ちている可能性が高いから，便利だ。 【問いかけ】 ・阪神・淡路大震災，東日本大震災の揺れを体験し，机の下に身体を避難させてみよう。 【予想される答え】 ・大きく複雑で早い揺れなので，身体を動かすのが難しい。
【まとめ】	3. 学習してわかったことを確認・発表する ○全部の体験が終了したら，再度体育館に集合し，班ごとにまとめを行う。 ○自分の命を守ることが，他人の命を守ることに繋がること，など，個々に感じたことを発表し合う。 ○代表の数班が発表する。	【問いかけ】 ・災害時及びその避難時に危険を回避するためにどんなことをすればよいか。 【予想される答え】 ・災害時は個々が危険を察知し，身を守る行動をとる。 ・新聞紙など身近なもので身の回りの必要なものを作り，身体を守ることが大切である。
【評価】	・地震発生時に起こりうる危険を想定することができ，回避する方法を学ぶことができたか。 ・避難するとき及び避難後にできることを考えることができたか。	

【授業実践の様子】



＜大鷲小学校＞

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード	○校区は広く、遠距離の児童の一部はバス通学であり、荒天等の場合の登下校は保護者の自家用車に頼らざるを得ない地域である。 ○地域の広範囲に軟らかい地盤が分布するため、大きな地震の時には、強い揺れや液状化の可能性がある。また、信濃川下流の洪水、中ノロ川の洪水及び鷲ノ木大通川・西大通川流域の洪水によって、地域の広い範囲で浸水の可能性がある。
保護者・地域・教職員等の願い	○地域コミュニティ協議会と学校が連携を取りながら合同防災訓練を行い、地域の防災意識を高めていきたい。 ○災害が起こった際に地域が協力して対応できる組織が作られ、安心して居住できる地域となって欲しい。
防災教育において、目指す児童生徒像	○様々な災害時における対応・対処の仕方を学び、自分の命は自分で守るという姿勢と意識をもち、自ら考えながら適切に行動することのできる子ども ○身近にいる人と協力しながら、主体的協働的に行動することのできる子ども
補助交付期間に実施した主な取組	○避難訓練 6月（地震） 9月（不審者） 1月（火災） ○防災訓練 11月 防災教育プログラムを活用した授業は、全学年部で防災士をゲストティーチャーとして呼び、TT形式で行った。また、体験活動は地元消防団が中心となって指導し、炊き出し訓練はボランティアの協力を仰ぎながら、ともに学校と地域、保護者が一緒に行う防災訓練となった。
自校プランの内容	○地域・保護者と連携した防災訓練の実施（11月） ・南警察署及び南区役所と連携し、地元消防団の指導の下で行う体験活動を位置付ける。 ・低学年は火災対応、中学年は地震対応、高学年は洪水対応の仕方を学び、6年間を通して、様々な災害に対応する力を身に付けさせていく。 ・親子で共に学ぶ防災教育を行う。
自校プランを継続するための方策	○学校と地域が共に学び行動する防災訓練となるよう、地域コミュニティ協議会に働き掛けていく。 ○新潟県の防災教育プログラムに基づく授業を行いながら指導計画を作成し、平成30年度も加除訂正を加えながら自校化した授業構成を作っていく。

2. 大鷲小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年	災害時における集団下校訓練											
第2学年	避難訓練（地震）											
第3学年	避難訓練（不審者）											
第4学年	防災訓練 ○ 避難訓練（洪水） ○ 防災教育プログラムを活用した授業 ・ 低学年「火災対応」 ・ 中学年「地震対応」 ・ 高学年「洪水対応」 ○ 体験活動 ・ 濃煙体験 ・ 消火体験 ・ 搬送体験 ○ 児童引き渡し訓練 ○ 炊き出し訓練											
第5学年	避難訓練（火災）											
第6学年	災害時における集団下校訓練											

3. 大鷲小学校 防災教育指導例

小学校中学年

(学習のねらい)「学校内外での地震の危険性について考え、地震が起きた時の身の守り方について知る」

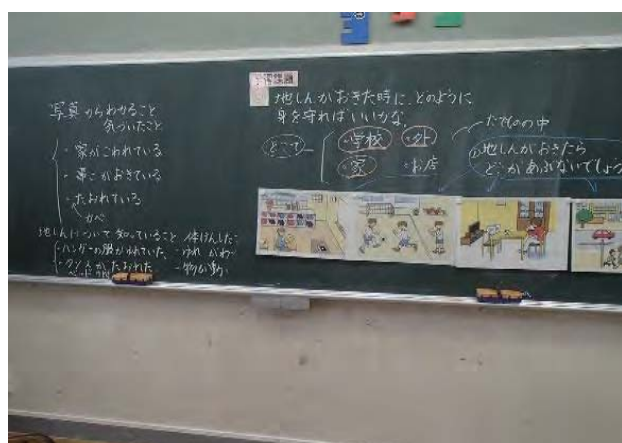
	学習内容（展開例）	資料や学習のポイント等
【導入】	1. 地震による被害状況の大きさや怖さを認識し、身を守ることの必要性を知る。 ① 地震の被害映像から読み取ることでできる情報を出し合う。 ② これまでの経験の中から「地震」について知っていることを出し合う。 ・上記の2つの活動を通して、地震は恐ろしい事であるということと同時に、身近で起きているということを理解する。	【問いかけ】 ・地震の被害画像から、どんなことが分かるでしょうか。 ・地震についてどんな事を知っているでしょうか。 【想定される答え】 ・家がぐしゃぐしゃになり、家の人の安否が分からない。 ・日本では大きな地震が度々起きている。新潟県でも何度か起きている。 【ポイント】 ○ 地震は他人事では無く、いつどこで起きてもおかしくないということをおさえる。
【展開】	2. 地震が起きた時の危険性を考える。 ① 地震は避難訓練のように学校にいる時に起きるとは限らないことを知らせ、<u>どのような場所</u>が想定されるか考える。 ・教室、家、道路、お店 など ② 場所ごとに、<u>どのような危険</u>が起ころうか考える。 3. 地震が起きた時の身の守り方について考える。 ① 地震が起きた時の場所ごとに、<u>どのようなことに注意</u>すればよいのかを考える。 4. 防災士さんの話を聞く。 ・命を守る（頭を守る）こと、危険場所から回避すること等が重要である。 ・日頃からの地域の繋がりを大切にする。人と人との助け合いが大切となる。	【問いかけ】 ・どんなところで地震に遭う可能性があるでしょうか。その場所で地震が起きた時、どんな危険があると思いますか。 【想定される答え】 ・教室…蛍光灯が落ちてくる。窓が割れる。 ・家…棚が倒れてくる。電気コードが危ない。 ・道路…道路がくずれる。木が倒れる。車が危ない。 ・お店…パニックになる。エレベーターが止まる。 【問いかけ】 ・場所に応じて、どのように身を守ればよいでしょうか。 【予想される答え】 ・教室…机の下に入る。窓から離れる。 ・家…棚から離れる。クッション等で頭を覆う。 ・道路…危険なところから離れる。広いところに行く。 ・お店…エレベーターは使わない。棚や看板から離れる。 【ポイント】 ・4～5人のグループを作り、相談しながら考えをまとめていく。 ・ゲストティーチャーとして防災士を招き、グループの話し合いに参加したり、学習内容の総括をしたりしてもらう。

【#とる】	5. 学習を振り返り、わかったことを確認する。 ワークシートに、もし地震が起きた時にはどのように行動するのかを書き、発表する。	【ポイント】 発表した友だちの考えと自分の考えを比べながら聞くようにさせる。
【評価】	- 地震が起きた時にいた場所により、様々な危険性があるということを理解することができたか。 - 地震が起きた時、自分の身を守るためにはどんな行動をとればよいかを理解することができたか。 - 子どもたち同士のかかわりの中から、自分と異なった考え方や、思い願いに触れ、自分の考えを深めることができたか。	

【授業実践の様子】



【板書】



【他学年の授業実践の様子 左：低学年 右：高学年】



<根岸小学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード	・全校児童164名の小規模校である。 ・学校は、中ノ口川に沿って建っており、洪水が起きた場合、ダイレクトに被害を受ける可能性が高い。 ・ハザードマップでは、地震、津波により中ノ口川が決壊した場合、校区内は、2～5メートルの浸水が想定されている。有事の場合、避難のタイミングによっては、非常に危険な状況に陥る可能性をもっている地域である。
保護者・地域・教職員等の願い	・根岸小学校区では、毎年、コミ協を主軸に、自主的に地域防災訓練を行っている。昨年度は、400人前後の参加人数であった。全地域の方、保護者、地域の小・中学生が参加している。この防災訓練には、NPO法人ふるさと未来創造堂が関わり、防災訓練を盛り立てている。 - これらのことから、地域の防災意識の高さがうかがい知れる。学校から、平成28年度、地域と合同の防災訓練をしたいと要望し実現した。小学校と地域が力を合わせて、防災意識を高めるよい機会であると思われる。
防災教育において、目指す児童生徒像	○災害時に安全を考え、的確な判断ができる児童 ○防災における基礎的・基本的な知識を習得している児童
補助交付期間に実施した主な取組	○避難訓練の実施 ・第1回【授業時、火災想定】4月24日(月) ・第2回【給食終了後、地震による津波を想定】6月16日(金)全市一斉 ・第3回【授業時、地震による建物崩壊を想定※引き渡し訓練あり】 10月1日(日)地域・学校合同防災訓練 ・第4回【休憩時、火災想定】11月9日(木)※非常放送聞き取り訓練の実施 ○防災グッズの展示 ○防災に向けた体験活動の実施 ○地域のゲストティーチャーを活用した防災学習の実施
自校プランの内容	・地域、学校で合同の防災訓練を実施する。 ・防災士、地域の消防団を避難訓練や防災学習で講師として活用する。 ・休憩時における避難訓練の想定を工夫して訓練を重ねていく。
自校プランを継続するための方策	○防災計画の見直し ・防災活動において、地域の防災士、消防団の協力を仰ぎ、連携を組む。 ・地域・学校合同防災訓練において、地域自治会との連携を確かなものにしていく。その際、地域教育コーディネーターとの連携を密にする。

2. 根岸小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年	根岸学区通学指導	避難訓練 授業時 火災想定	学級活動 防災教育プログラム【火災】	学級活動 防災教育プログラム【地震・津波】	避難訓練 給食後 地震想定	地域との情報交換 地域教育コーディネーター	保護者引き渡し訓練 避難訓練，防災授業，防災グッズ作り（1～4年），災害の体験	非常放送 休憩時 聞き取り訓練	避難訓練 休憩時 地震想定	防災グッズ作り	学級活動 防災教育プログラム【雪害】	防災計画見直し
第2学年	根岸町探検											
第3学年	私たちの町											
第4学年												
第5学年												
第6学年												

3. 根岸小学校 防災教育指導例

小学校上学年	(学習のねらい) 洪水災害から自分の命を守る行動を考える。 日頃から家族と話し合う。
---------------	---

	全体の流れ(予想され児童の★思考☆気づき)	使用する物・留意点
【導入】	●洪水災害について学習することを伝え、学習のねらいをおさえる。 1 洪水災害について知っていることを問いかけ、洪水災害には、「川が溢れる」「まちが水浸しになる」の2種類があることを伝える。 2 本時の学習課題「洪水災害から自分の命を守ろう」を伝える。 ★洪水災害が起こったら自分の命を守れるかなあ。	【写真資料】 ・まちが浸水する様子 ・川があふれる様子 「新潟県防災教育プログラム～洪水災害編～」より
【展開】	●洪水災害の様子から、その恐ろしさを知り、自分の身を守る方法を考える。 1 平成 16 年 7. 13 水害時の三条市の被害の様子や体験談を伝える映像から気が付いたことを発表させる。 ☆大雨で川が決壊して、一気に浸水した。家の外に逃げることが出来なかった。 ☆たった 10 分で家の外の水が増えて取り残された。 ★もしも、自分の地域で災害が起きたらどうしよう。 2 なぜ、浸水した水の中を歩いて避難しなかったのか問いかけ、「水に浸かってから外への避難は危険なこと」をおさえる。 ☆流される。おぼれる。いろいろなものが流されてきて危険だ。 ☆道路の側溝や小さい川に落ちるかもしれない。 3 浸水時の危険に関するイラスト資料を提示し、以下の危険があることを伝える。 ① 歩道と道路の見分けがつかなくなり、川や側溝、田んぼに落ちてしまう。 ② マンホールのふたがはずれて、吸い込まれる。 ☆大雨が降って道路が水に浸かると危険があるんだね。浸水前は早めの避難が大切。 4 防災士の方から平成 23 年の水害時の南区の様子について知る。 ① 雨の降り方と川の様子の変化について。② その時、どのように行動したか。 ☆雨が降り続けると、どこでも洪水災害が起こるんだなあ。 ☆自分たちの地域でも災害が起きるかもしれない。 5 洪水災害から自分の身を守る方法を考えさせる。 【想定】自宅で1人。夕方から雨が降り続く。家の前の道路が 30 cm くらい浸かっている。どう行動するのが適切でしょうか。 ★自宅の2階に逃げる。★家族に電話をする。★屋根に上がり助けを求める。 ★家の中に水が入らないようにする。★自分の家が流されるかもしれない。 ★水に浸かる前ならば、逃げられるかもしれない。	【映像資料】 「洪水発生その時！命を守る日頃の備え (4分20秒)」 ※使用箇所 02:20～04:40 【配付資料①】 ・浸水時の危険に関するイラスト資料 「新潟県防災教育プログラム～洪水災害編～」より 防災士よりインタビュー形式でお話をいただく。 ※グループ活動を想定。 ・正しい判断は肯定しつつ、他にも考えておくべきことを伝える。 ・誤った判断を指摘する。

	6 大雨が降り続き、川があふれそうな状況を想定し、以下のポイントをおさえる。 ① 高い場所や丈夫な建物の上階に避難する。② 流れる水に近づかない。 ③ 情報に注意する。 ☆外にいるのは危険。早く家や丈夫な建物に逃げよう。 ☆早めに避難するために、雨の様子を気にしたり、情報に注意したりしよう。 ☆大雨の時に川を見に行ってはだめなんだね。	・なぜ誤った判断なのかを危険性を交えて伝える。
【まとめ】	●本当にその行動をするために考えなければならない課題に気付かせる。 1 発表を振り返り「普段から災害に備えて、家族と災害時の行動や備えについて話し合っておくこと」をおさえる。 ☆家の2階には食べ物がない。備えておかなかちゃ。 ☆電気やガス、水道も使えなくなるのか。トイレも使えないのかあ。 ☆家の人といろいろと相談しておくことがあるね。	【配付資料②】 ワークシート(宿題)

【授業実践の様子】



【地域・学校合同防災訓練の様子】



煙体験【低学年】



防災グッズ作り体験【中学年】



応急担架【5年】



AED体験【6年】



アルファ米試食【全学年】



防災グッズ展示【校内】

＜大通小学校＞

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード	・当校は、地区の広い範囲に軟らかい地盤が分布するため、大きい地震の時には強い揺れや液状化の可能性がある。 ・津波の浸水は、地区の北端や信濃川沿いのごく狭い範囲で想定されている。 ・信濃川下流の洪水、中ノロ川の洪水及び鷺ノ木大通川・西大通川流域の洪水によって、地区の広い範囲での浸水の可能性がある。
保護者・地域・教職員等の願い	・「自分の命は自分で守る」ことの意味と大切さを理解して行動できるようになってほしい。 ・命を守る避難や避難訓練は、満点を心掛けなければならない。
防災教育において、目指す児童生徒像	・災害から自らの生命を守るために必要な能力や態度を身に付け、防災に関する意識が高い児童 ・助け合いやボランティア精神など「共生」の心をもった児童
補助交付期間に実施した主な取組	・火災、地震・津波、洪水、不審者対応の避難訓練（全校児童を対象に実施） ・引き渡し訓練（全校児童と保護者対象に実施） ・元新潟県警本部機動隊長の「災害時の避難行動と心構え～中越地震での救助活動を通して～」の話を聞く。（全校児童を対象に実施） ・地区子ども会後の集団下校において、地域の安全確認をする。 ・第4学年の社会科において、防災士から地域の特徴と防災に関する取組について話を聞く。
自校プランの内容	・年間4回の避難訓練（4月、6月、7月、10月） ・年間1回のシェイクアウト訓練（6月） ・年間1回の引き渡し訓練（7月） ・年間4回の地区別の下校指導（4月、7月、12月、3月）
自校プランを継続するための方策	・避難訓練を年間行事計画に位置付ける。 ・新潟県防災教育プログラムを参考にし、各教科・総合的な学習の時間と関係付けて防災学習を実施する。 ・学習参観に合わせて、引き渡し訓練を実施する。 ・地域教育コーディネーターを中心として、地域コミュニティ協議会との連携を強くしていく。また、防災士との連携も図っていく。

2. 大通小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年	第1回避難訓練 火災想定											
第2学年	第1回通報訓練 (休憩時)											
第3学年	第2回避難訓練 地震 津波による洪水想定											
第4学年	地区子ども会 地域の安全確認											
第5学年	第3回避難訓練 引越渡し訓練 大雨による洪水想定											
第6学年	第4回避難訓練 不審者侵入想定											
								生活 「学校探検」 5月, 6月	生活 「体験型安全教室」 5月			
								生活 「町探検」 5月, 9月				
								社会 「わたしたちの大切さなまち」 4月				
								社会 「安全なぐらしとまちづくり」 5月	社会 「リトルファイヤースクール」 5月	社会 「大河津分水」 10月		
								理科 「台風の接近」 「雲と天気の変化」 9月	理科 「流れる水の働き」 10月	社会 「自然災害とともに生きる」 2月		
								理科 「大地のつくりと変化」 11月	社会 「わたしたちの暮らしを支える資源」 12月			

3. 大通小学校 防災教育指導例

全校児童対象 (45分間) (学習のねらい)「緊急地震速報が聞こえてからの適切な避難行動を学んだり、中越地震の記録を学んだりすることを通して、自分の生命を自分で守ることや地域力を強くすることの大切さに気付く」	
	学習内容(展開例) 資料や学習のポイント等
【導入】	1. シェイクアウト訓練をする。 ①地震発生＝非常ベル(非常ベルが緊急地震速報と地震の揺れを表しているということを児童に事前指導)が鳴ったら、いかなる場合でもすぐに全ての活動を中止し、3つの安全行動をとる。 1)姿勢を低くし 2)体や頭を守り 3)揺れが収まるまでじっとする 【ポイント】 ○大きな揺れが来る前に、それぞれの場所で避難行動をとる。 ○慌てない。口を閉じる。
【展開】	2. 第一次避難訓練をする。 ①避難指示の放送を聞く。 ②地震の被害の少ない場所として体育館へ避難する。 ③避難並びで整列する。 3. 中越地震の記録から学ぶ。 ①元新潟県警本部機動隊長から避難の様子を参観していただき、行動の仕方について指導いただく。 ②災害時の避難行動と日頃からの心構えについて講話をいただく。 【ポイント】 ○落ち着いて、正確に放送内容を聴き取る。 ○避難のきまりを守る。 お…おさない は…はしらない し…しゃべらない も…もどらない ○前の人が転んだら、右手を挙げて「止まれ」と言う。 【問いかけの例】 ・電気、ガス、水道といったライフラインが全て寸断されたにもかかわらず、各地区の人々の避難状況がなぜ分かったのでしょうか。 【想定される答え】 ・電話…つながらないか。どうしたのだろう。 【資料】元新潟県警本部機動隊長のスライド 4. 第二次避難訓練をする。 ①避難指示の放送を聞く。 ②津波により、中ノ口川や信濃川の水が逆流して洪水になる恐れがあるという設定で、高台(北校舎2階)へ避難する。 ③北校舎2階の各教室で整列する。 【ポイント】 ○落ち着いて、正確に放送内容を聴き取る。 ○避難のきまりを守る。 「おはしも」 ○前の人が転んだら、右手を挙げて「止まれ」と言う。

【まとめ】	5. 振り返りをする。 ①元新潟県警本部機動隊長から避難の様子を参観していただき、行動の仕方について指導いただく。(放送) ②教室に戻り、評価内容に沿って振り返りをする。	【ポイント】 ○ 自分の命を守るために、正しい情報を基に落ち着いて行動することの大切さが分かる。 ○ 助け合いの大切さと、緊急災害時、学校は地域住民の避難場所となることを理解する。
【評価】	・ 命に関わる問題であることを認識し、口を閉じて第一次避難・第二次避難、整列ができたか。 ・ 災害時に備え、日頃から地域の人と人が絆でつながっていることが大切であると捉えることができたか。	

【授業実践の様子】



避難する児童



元新潟県警本部機動隊長の話を聞く児童



【スライド資料（元新潟県警本部機動隊長のスライドより）】



講師の元新潟県警本部機動隊長の問いかけ「電気、ガス、水道といったライフラインが全て寸断されたにもかかわらず、各地区の人々の避難状況がなぜ分かったのか」。その答えは、「なんとか情報を伝え、人々を助けなければならないという突き上げる強い思いで、各地区の代表者が夜通し歩いて村長に報告に来たから。つまり絆」である。

9) 赤塚中学校区（西区）

対象校：赤塚中学校・木山小学校・赤塚小学校

① 中学校区ミーティングの実施日及び主な検討内容

	実施日・会場	検討内容
第1回	平成29年7月14日 16:00～17:00 会場：赤塚中学校	1. 5/11（木）研修会の振り返り 2. 今、不安や課題として感じていること（意見交換） 3. 今後のミーティングのあり方やスケジュールについて（意見交換）
第2回	平成29年10月24日 16:00～16:50 会場：赤塚中学校	1. 第1回ミーティングの振り返り 2. 防災教育の進捗及び今後の予定について（情報共有） 3. その他（予算活用状況等）
第3回	平成29年11月24日 15:30～16:45 会場：赤塚中学校	1. 第2回ミーティングの振り返り 2. 12/1（金）中学校区教育ミーティングに向けて発表練習・事前確認 3. 平成30年度以降、継続していくための課題抽出と意見交換

② 各学校へのサポート事例

対象校	実施日	サポート種別	サポート内容
赤塚小学校	平成29年 5月23日	電話相談	予算書の提出日について確認した。
西区総務課	平成29年 6月12日	ヒアリング	区総務課として今年度可能な学校へのサポート内容についてヒアリングを行った。
赤塚中学校 木山小学校 赤塚小学校	平成29年 7月14日	資料提供	学校で活用できる防災教育に関する参考資料（家族防災会議、にいがた災害食レシピ等）を提供した。
赤塚中学校	平成29年 8月28日	電話相談	防災講座について相談対応。防災講座に参加できる防災士を調整した。
赤塚中学校	平成29年 9月11日	打ち合わせ	防災講座について打ち合わせ。講座内容について助言と提案を行った。
市防災課	平成29年 9月12日	ヒアリング	防災講座に参加できる防災士の人数と日程を最終調整した。
赤塚中学校	平成29年 10月3日	講座実施	1年生を対象に、地域の防災安全マップ作りの事前講座を実施した。防災・交通安全の視点から危険箇所を気付かせる講座を実施。その後、まちあるきを行い、危険箇所を見つけ、マップにまとめる作業を実施した。

【10/3 赤塚中学校 防災講座】



【10/3 赤塚中学校 防災講座】



【10/24 第2回赤塚中学校区ミーティング】



【11/24 第3回赤塚中学校区ミーティング】



③ 新潟市防災教育コンソーシアム担当コーディネーターより

赤塚中学校区では、学校・地域が連携した実践的な取組として、授業参観日に防災デーを設け、外部講師を招いた防災ワークショップ、地域合同防災訓練を実施した学校や、保護者が集まりやすい学習参観日を活用し、PTA 主催の集いを防災講演会に変更し、保護者に対し防災意識の向上を図った学校もあった。また、防災安全マップを作成するため、地域の防災士数名に協力を仰ぎ、学区全域での調査活動を実施した。地域の防災力を高めるため、学校と地域住民とが手を取り合って実現できた防災学習である。

既存行事との関連を図るだけでなく、各校、外部講師や地域と連携した防災教育を実施することができた。平成 29 年度試行錯誤を重ねた取組を、平成 30 年度以降より発展した取組として継続できるのではないかと考える。

<赤塚中学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード	周辺は3つの砂地形があり，この高台の上に半数の家屋と中学校が立地しており，過去の新潟地震においては家屋に目立った被害は確認されなかった。また歴史的に見ても水害の被害も無く，みずき野団地（標高3～5m）と藤蔵新田を除く地区については洪水や津波の被害はないと思われる。 一方で，校区中心部を南北に「長岡平野西縁断層帯（角田・弥彦断層）」があり，M8クラスの地震が懸念され，専門家もいつ起こってもおかしくないと指摘している。 地域の住民は防災に対する意識は持っているが，各地域で行われる防災訓練への取組は地域差や個人差が大きいと思われる。
保護者・地域・教職員等の願い	・地震や津波に対する学習を進めるとともに，それに備えた訓練を実施し安全に配慮しながら適切に行動してほしい。 ・佐潟の環境保全活動やボランティア活動に積極的に参加する生徒が多い。災害時でも当校が避難所として開設されたときは中学生としてできる役割を積極的に果たしてほしい。
防災教育において，目指す児童生徒像	・自分たちの住む地域の特徴を理解し災害に対して被害を想定し自主的に判断，避難できる生徒 ・防災活動に積極的に参加するとともに，災害時には地域貢献ができる生徒
補助交付期間に実施した主な取組	・地域をよく理解し，災害に対して被害を想定できるよう防災安全マップの作成を行った。防災士の方から協力いただき，グループごとの調査活動に付き添ってアドバイスをいただいた。（1年） ・中越地震の体験者から地震の被害や避難所での体験談などについて講話をいただいた。（1年）
自校プランの内容	・2回の避難訓練（地震・津波，火災） ・防災安全マップの作成のための調査活動 ・救急法講習（AED講習法・心肺蘇生法）
自校プランを継続するための方策	・新潟県防災教育プログラムを参考に防災教育の内容を教育活動に位置付ける。 ・地域教育コーディネーターを中心に地域の防災活動との交流を深める。

2. 赤塚中学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年	避難訓練（地震・津波） • 地震のしくみと被害についての学習 • 災害の体験者の講話 • 校区内防災安全マップの作成 避難訓練（火災） • 救急法講習 （AED講習、心肺蘇生法）											
第2学年												
第3学年												

3. 赤塚中学校 防災教育指導例

中学1年生	(学習のねらい) ①日常生活における交通安全及び地震発生時の危険性の視点から、自地域の危険箇所を予測する視点を育む。 ②危険を予想した場所へ行く活動から、次時に実施するまちあるき活動のイメージをつかむ。
--------------	--

	学習内容（展開例）	資料や学習のポイント等
【導入】	1. 学習のねらいを伝える。 ①地震の被害写真や県内の交通事故による死亡事故を紹介し、安全への意識を高める。 ②学習のねらい「次時に実施するまちあるき活動のイメージをつかむこと」をおさえる	【資料】 ○過去に起こった中越地震の被害写真を示し具体的な被害の様子を知る。 ○県内の交通事故の資料を示す。
【展開】	2. 地震による被害や危険箇所を予測する。 ①予想される危険箇所を写真の資料に書き込む。 ②どのように行動して自分の安全を守るか考える。 ③グループごとに考えを集約する。 3. 危険について共有する。 ・他のグループ発表を聞き、同じ場所で防災・交通安全という異なる視点の気づきからイメージを持つ。 4. 実際に写真の場所に行き自分たちの考えと照らし合わせる。 ・防災・交通安全の視点から危険箇所を探し、位置情報と照らし合わせて地図に記入する。	学校周辺の交差点2か所の写真を示す。  「問いかけ」 ・強い揺れの地震が発生したらどのように行動して自分の命を守りますか。 ・写真の場所にはどのような危険が潜んでいるだろうか。 【ポイント】 ・防災士からの具体的なアドバイスを受ける。 ・写真の撮り方など確認する。
【まとめ】	5. 活動の振り返り。 ・地図の資料整理、ワークシートに活動して分かったことをまとめる。	・次回のまちあるき調査活動の視点を確認する。

【評価】

- ・写真資料から、学校周辺の地震の危険性とその対処について指摘することができたか。
- ・実際に写真資料の場所で確認することで、危険性を理解することができたか。
- ・次時に行うまちあるき調査活動のイメージを持つことができたか。

【授業実践の様子】



＜木山小学校＞

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード	- 校舎は砂丘地に立地し4階建て16mの高さである。平成21年度に耐震改修が終了している。校舎は標高12.7mにあり、地震・津波時には周辺地域の避難所に指定されている。 - 集落の多くは木造建築物である。木造が88.2%を占め、旧耐震の昭和55年以前の木造建築が49.9%と多い。学区の一部は海から1km以内にあり家屋倒壊被害とともに津波による被害も予想される。
保護者・地域・教職員等の願い	- 各種訓練や防災学習を通して、災害時における安全な行動についての知識を持ち、自分の命を自分で守れる人になってほしい。 - 災害時に危険を自ら察知し、率先して安全を確保するための行動ができる人になってほしい。
防災教育において、目指す児童生徒像	低学年…災害時には教職員や保護者など近くの大人の指示に従い、適切な行動ができる児童 中学年…災害時に起こる様々な危険について知り、自ら安全な行動ができる児童 高学年…日常生活の様々な場面で発生する災害の危険を理解し、安全な行動ができるようにするとともに、自分の安全だけでなく、他の人々の安全にも気配りができる児童
補助交付期間に実施した主な取組	「木山防災デー」の実施（6月） JRCの方を講師に招いての防災学習（授業参観）、 地域合同避難訓練、災害時引き渡し訓練 - 防災士を講師として招いての火災避難訓練（9月） - 不審者対応避難訓練（1月） 4年生の防災学習（5月・消防署見学、消防団の体験） 5、6年生の地域学習（7～11月・地域の砂丘、標高など地理条件の把握）
自校プランの内容	- 地域と連携した、上記「木山防災デー」の実施 - 年3回の避難訓練の実施 4年生の防災学習、5・6年生の地域学習
自校プランを継続するための方策	「木山防災デー」を含む避難訓練計画の見直し - 各教科、総合的な学習の時間と関連付けた防災学習の実施 - 災害時の安全な行動を身に付けるための家庭・地域への働きかけ - 地域教育コーディネーターとの連携による、地域の方を講師とした学習

119

3. 木山小学校 防災教育指導例

小学校全学年 (地震・津波)	(学習のねらい) ・災害に伴う危険を理解し、安全を確保するための行動ができるようにする(防災学習) ・小学校と地域住民が合同で避難訓練を行い、防災意識を高める(地区合同避難訓練) ・学校と保護者との間で児童の引き渡し方法について確認する。(災害時児童引き渡し訓練)
----------------------------------	---

	学習内容(展開例)	資料や学習のポイント等
【防災ワークショップ】	日本赤十字社の方による防災ワークショップ (上学年の実践・下学年は少し内容を変えて実施) 【導入】 ①青少年赤十字の活動の説明を聞く。 ②世界での災害を理解する。 【展開】 ①災害救護シミュレーション「クロスロード」について考え、話し合う。 ・緊急時に妹を探しに行くか。 ・避難所に飼い犬を連れていくか。 ・救援物資の食料をどう配分するか。 ②非常食体験をする。 ・発熱材の使い方を知る。 ・実際にアルファ化米と缶詰を調理して試食してみる。 【まとめ】 ①学習して分かったことを振り返る。	・保護者、地域の方にも参観してもらう。 ・縦割り6班でグループを作る。(5～6人) 【資料】プレゼンテーション「日本赤十字の活動について」 ・ワークシートを児童に配布し、班で話し合う。 【資料】プレゼンテーション「クロスロード～そのときあなたは～」 ・答えに正解はなく、普段からいろいろなことを考えて、練習しておくことで、災害時にはその時にあった選択ができる可能性が上がることをおさえる。 ・参観している保護者、地域の方も非常食体験をする。 ・災害を他人事と思わず、自分のことに置き換えて考えることの大切さを教える。
【防災学習】	学級担任による防災学習 (下学年の実践・上学年は少し内容を変えて実施) 【導入】 ①災害とは何かを考える。 ②津波について学習することを知る。 【展開】 ①津波から身を守るために必要なことを話し合う。 ・グループで話し合っ、大切なことを画用紙に書く。 ・画用紙を黒板に貼って、みんなで確認しながらカテゴリー分けをする。	・保護者、地域の方にも参観してもらう。 【資料】自然災害のDVD、津波のDVD 【問いかけの例】 ・自然災害にはどんなものがあるでしょう。 【想定される答え】 ・雷、竜巻、地震、津波、台風などがあります。 ・1～3年混合の2～3人のグループで活動する。 【問いかけの例】 ・どうすれば、津波から身を守れるでしょうか。 【想定される答え】 ・すぐ逃げるのが大切だ。 ・できるだけ高いところに逃げるのが大事だ。

	②東日本大震災の動画（アニメ）を見て、大切なことを確認する。 【まとめ】 ①津波から身を守るために、 ・すぐ逃げる ・高いところに逃げる ・戻らない という3点を共通理解する。 ②今日の授業で分かったことを振り返る。	【資料】東日本大震災のアニメ DVD ・「もし、木山小学校でも同じことが起きたらどうしたらいいのか」と考えながら動画を見させる。 ・振り返りシートを配り、書かせる。 【評価】 ・津波の特徴から実際に起きたときにとる行動が分かったか。
【地区合同避難訓練】	①想定 大地震が発生し、大津波警報が発表されたため、屋上に避難を行う。 ②児童は机の下に潜り、身の安全を確保する。 ③屋上に避難する。 ④指導・講評…自治会長、日本赤十字社の方より	【保護者・地域の方の動き】 ・保護者、地域の方は体育館に集合しておく。 ・体育館の窓から離れ、身の安全を確保する。 ・保護者、地域の方は地区ごとに体育館から東階段を通り、屋上に避難する。
【引き渡し訓練】	①帰りの身支度をして、1, 2, 3年は6年教室へ、4, 5, 6年は5年教室に移動する。 ②保護者が迎えに来た児童から下校する。 ③迎えが来ない児童は職員と共に集団下校をする。	【保護者の動き】 ・避難訓練後、保護者は一旦、音楽室に集合する。 ・兄弟がいる場合は、上の学年から引き取る。 ・引き渡しカードに署名をしてから引き取る。

【保護者・地域の方の感想】

- ・防災ワークショップを参観して、災害時、どういう状況になるか、どういったことが必要となるのかなど、子どもたちに分かってよかったです。
- ・防災学習はグループワーク方式で、子どもたちから活発な意見が出ていて有意義でした。
- ・地区合同避難訓練は何回目かになるので、慣れてきて、覚えていたことができてよかったです。
- ・実際に屋上に行って訓練するのは良いと思います。平日、夕方など保護者がいないときにどうするかなど、子どもと話しておきたいと思いました。

【防災ワークショップの様子】



【防災学習の様子】



【地区合同避難訓練の様子】



<赤塚小学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード	・全校児童 272 名。新興住宅地みずき野が造成され、2 km 以上も歩いて通学する児童が 7 割いる。荒天時には、バス利用及び保護者の送迎により通学する児童が多い。 ・学校は標高 12.3m に位置しており、津波の浸水は想定されていない。そのため、洪水時には 4 階の建物の全階が避難可能の扱いとなっている。小学校区の東部は軟らかい地盤が分布しており、大きい地震の時には、強い揺れの可能性がある。また、かつて水田として利用されていた地域では液状化の危険性は高い。一方、西部は砂丘が分布しており、液状化の可能性は低い。 ・地域の保護者も教育に高い関心を示すとともに、学校の教育活動に協力的であり、かつ理解がある。
保護者・地域・教職員等の願い	・自然災害は、場所や時間を問わず予期せずに発生するものである。いざという時に自分の命は自分で守るために自分で考え、行動できるような児童を育成したい。
防災教育において、目指す児童生徒像	【全学年のめあて】「自他の生命を尊重し、災害発生時に適切に判断し、主体的に行動できる児童の育成」 【学年部のめあて】 低学年：身の回りの災害について知り、近くの人々に従うなど、安全で適切な行動がとれるようにする。 中学年：地域の自然や災害について知り、自ら安全で適切な行動がとれるようにする。 高学年：我が国の自然や災害のメカニズムについて知り、様々な場面に応じて自ら安全で適切な行動がとれるようにする。また、他の人々の安全にも気配りできるようにする。
補助交付期間に実施した主な取組	○「大きな地震」が発生したという想定避難訓練 ○保護者への「児童引き渡し訓練」の実施 ○地域の防災士の方による『防災講演会』の開催
自校プランの内容	・今年度は、当校が「防災教育」学校・地域連携事業の指定校となっている。地域との連携という趣旨から保護者が集まりやすい学習参観日に引き渡し訓練を実施し、大きな地震の際、学校と保護者との間で児童の引き渡し方法について確認した。 ・防災について地域の専門家から話を聞くことによって防災意識を高めるため、防災講演会を開催し、災害に関する話を聞く機会を通して、安全に避難することの大切さや避難方法などについて学んだ。災害意識を高め、地震発生に対して自ら判断し、落ち着いて安全な避難が素早くできることの大切さを確認した。
自校プランを継続するための方策	・避難訓練後の『防災講演会』を来年度以降も継続して実施していくために年度当初の PTA 予算で計上する。 ・防災士等講師を依頼するために新潟市防災課等関係機関と情報交換を密にしている。 ・地震や津波を想定した避難訓練、引き渡し訓練が継続できるよう保護者と連携して防災意識を高める学習を取り入れていく。 ・教育活動に無理がないよう既存の事業（各教科、学活、総合、学校行事等）の中で可能な防災教育を取り入れていく。

2. 赤塚小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年	第一回避難訓練（火災）	防災教育プログラムを活用した授業（地震・洪水災害編）	第二回避難訓練（地震）			第三回避難訓練・津波・引き渡し訓練・防災講演会		緊急地震速報シェイクアウト訓練	第四回避難訓練（不審者対応）		第五回避難訓練（火災・休憩時・予告なし）	
第2学年												
第3学年												
第4学年												
第5学年												
第6学年												

3. 赤塚小学校 防災教育指導例

小学校全学年		(学習のねらい)「地震からの身の守り方(学校内)を学ぶ」 ○学校のイラストから地震の危険性について考える。 ○身の守り方(机の下に隠れる)を実践する。
	学習内容(展開例)	資料や学習のポイント等
【導入】	1. 地震について学習することを伝える。 ① 「地震」についてどんなことを知っているかを問かけ、発表させる。 ② 学習のねらい「洪水から身を守るために、私たちが日頃から備えておくべきことを知る」をおさえる。	【問かけの例】 ・地震についてどんなことを知っていますか? 【想定される答え】 ・家がゆれて、こわいよ。 ・机の下に隠れるよ。
【展開】	2. 地震の危険性について知る。 ① ワークシートを配付し、イラストを見て、地震が起きた時に危ないと思うところに○をつけさせる。 ② 何人かの児童を指名し、教室とグラウンドの場面ごとに、危険だと思った(○をつけた)箇所と理由を発表させる。 3. 地震が起きた時の身の守り方を学ぶ。 ① ワークシートを配付し、最初のイラストと違う点(地震で変化した点)を問かけ、発表させる。 ② イラストの中の児童がどのように行動をしているかに着目させ、なぜ机の下に入ったり、グラウンドの中央でしゃがんだりしているのかを問かけ、発表させる。 ③ 机の下に入る以外で、頭を守る方法はないかを問かけ、発表させる。	◇ワークシート 01-1 (地震発生前の教室とグラウンドのイラスト) ◇ワークシート 01-2 (地震発生後の教室とグラウンドのイラスト) 【想定される答え】 ・棚からランドセルや花びん、本が落ちている。 ・窓ガラスが割れている。(教室) ・サッカーゴールが倒れている。 ・校舎のガラスが割れている。(グラウンド) 【想定される答え】 ・赤白帽をかぶる。 ・ランドセルで頭をかばう。
【まとめ】	4. 学習してわかったことを確認する。 ① ワークシートに、「授業の感想」などを書かせて、発表させる。	【ポイント】 ○棚や窓など物が落ちてきそうな場所から離れること。 ○頭を守りながら机の下などに隠れること。 ○机から体のはみ出さないようにすること。 ○机の脚を持って、机が動かないようにすること。
【評価】	・学校のイラストから地震の危険性について考えることができたか。 ・机の下に隠れて自分の身を守ることができたか。	

【授業実践の様子】

◇6月12日（月）～16日（金）『防災教育強調週間に実施した防災教育の授業』

6月16日の避難訓練に向けて、それぞれの教室で防災教育の学習に取り組みました。
その際、『新潟県防災教育プログラム』を活用しました。



◇6月16日（金）『第2回 全市一斉避難訓練』

新潟地震や中越地震の教訓を忘れずに、安全に避難できるよう避難訓練を実施しました。



◇9月13日（水）『児童引き渡し訓練と防災講演会』

当校では、初めての児童の保護者への引き渡し訓練と防災講演会を実施しました。201名の家庭数のうち164名の保護者の方に参加していただきました。



10) 五十嵐中学校区（西区）

対象校：五十嵐中学校・真砂小学校・五十嵐小学校

① 中学校区ミーティングの実施日及び主な検討内容

	実施日・会場	検討内容
第1回	平成29年7月4日 16:00～17:00 会場：五十嵐中学校	1. 5/11（木）研修会の振り返り 2. 今、不安や課題として感じていること（意見交換） 3. 今後のミーティングのあり方やスケジュールについて（意見交換）
第2回	平成29年9月28日 16:00～16:50 会場：五十嵐中学校	1. 第1回ミーティングの振り返り 2. 防災教育の進捗及び今後の予定について（情報共有） 3. その他（予算活用状況等）
第3回	平成29年11月8日 16:00～16:45 会場：五十嵐中学校	1. 第2回ミーティングの振り返り 2. 各校における取組紹介及び予算活用状況について（情報共有） 3. 平成30年度以降、継続していくための課題抽出と意見交換

② 各学校へのサポート事例

対象校	実施日	サポート 種別	サポート内容
西区総務課	平成29年 6月12日	ヒアリング	区総務課として今年度可能な学校へのサポート内容についてヒアリングを行った。
五十嵐中学校 真砂小学校 五十嵐小学校	平成29年 7月4日	資料提供	学校で活用できる防災教育に関する参考資料（家族防災会議、にいがた災害食レシピ等）を提供した。
真砂小学校	平成29年 7月4日	打ち合わせ	文化祭プレイゾーンでの新聞紙スリッパ作り体験について相談。打ち合わせ日程を調整した。
真砂小学校	平成29年 7月26日	打ち合わせ 資料提供	文化祭プレイゾーンでの新聞紙スリッパ作り体験について打ち合わせ。作り方の資料を提供した。
真砂小学校	平成29年 7月27日	電話相談	防災講演会の講師の日程を調整した。
真砂小学校	平成29年 10月4日	電話相談	文化祭プレイゾーンでの新聞紙スリッパ作り体験の際、参加者に配付するパンフレットについて相談対応。
真砂小学校	平成29年 10月20日	資料提供	パンフレット（防災グッズチェックリスト・中越メモリアル回廊施設案内）を提供した。
真砂小学校	平成29年 10月21日	参観	文化祭プレイゾーンでの新聞紙スリッパ作り体験を参観した。
五十嵐中学校 真砂小学校 五十嵐小学校	平成29年 11月10日	資料提供	決算書の提出方法について確認。各書類の提出方法について記載されているデータを再提供した。

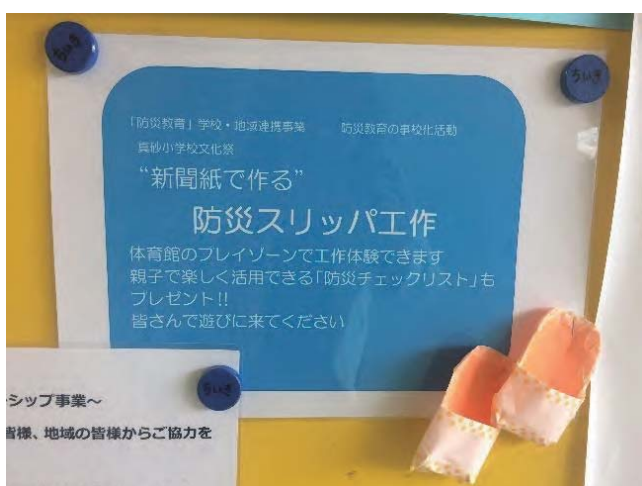
【7/4 第1回五十嵐中学校校区ミーティング】



【9/28 第2回五十嵐中学校校区ミーティング】



【10/21 真砂小学校文化祭 体験講座】



【10/21 真砂小学校文化祭 体験講座】



③ 新潟市防災教育コンソーシアム担当コーディネーターより

五十嵐中学校校区では、学校・地域が連携した実践的な取組として、既存行事である文化祭を活用した防災教育紹介ブース（防災グッズ作り体験，防災に関するパンフレット配付）を設置した学校や，学習参観日や避難訓練後の防災学習に，防災教育に関わる地域住民や大学講師を招き，講演会を実施した学校もあった。また，同日引き渡し訓練を実施することにより，保護者がより防災意識を高める機会とした。

地域教育コーディネーターより，小学校は工作体験等の楽しく学べる活動から防災教育を発展していくことが今後の継続につながるとの意見が出た。地域連携の実現には，地域の人材や資源を把握している地域教育コーディネーターの協力が不可欠であり，少しの工夫により既存行事を生かした継続性のある取組を広げることができると感じた。

<五十嵐中学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード	・学区は新潟市の西部に位置し、五十嵐中学校は海岸よりおよそ200m、海拔5m程の土地に位置している。地震による津波が心配される。 ・学区内に急傾斜地が多くあり、土砂災害の危険性がある。平成29年7月の豪雨により、避難準備・高齢者等避難開始が発令された地域もあり、学校は避難所の開設を行った。 ・コミュニティの自治的活動は盛んで、合同の防災訓練までは至らないが、防災に対する関心・意識は高い。
保護者・地域・教職員等の願い	・地域の構成員として、日常及び災害時に中学生として何ができるか、何をすべきかを学ばせ、実践できる生徒を育成したい。 ・津波や土砂災害の危険性が高い地域に生活しているので、実際に災害が発生したときに、自身の身の安全を図るとともに、地域の人々のために何ができるかを考え、実践しようとする態度を育てたい。
防災教育において、目指す児童生徒像	・自他の生命の安全を第一に考え、地域の一員としての自覚をもって正しい行動がとれる生徒
補助交付期間に実施した主な取組	・避難訓練①(6月地震による津波を想定) ・避難訓練②(9月ミサイル発射を想定) ・避難訓練③(11月火災を想定) ・防災講演会(11月「避難所で何ができるか、何をすべきか?」
自校プランの内容	・地震、洪水、火災等の災害を想定した「避難訓練」の前に、外部機関と連携した講演会やワークショップ等を行う。 ・学区内の小学校とも連携を図り、共通で実施できるものを協議して活動する。 ・各教科、領域で防災の視点を入れた授業を展開する。
自校プランを継続するための方策	・学校防災教育計画に実施事項、内容を明確に位置付ける。既存の教育活動に支障がないよう配慮する。 ・自治会や育成協等、地域や外部の専門機関とも連絡を取り合い、理解と協力を得ていく。 ・各教科、領域の年間指導計画に位置付ける。

2. 五十嵐中学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第 1 学 年												
第 2 学 年												
第 3 学 年												

防災教育プログラムを活用した授業

避難訓練（地震）・防災士派遣

避難訓練（Ｊアラート対応訓練）

避難訓練（火災）・防災士派遣

防災教育プログラムを活用した授業

3. 五十嵐中学校 防災教育指導例

中学校	(学習のねらい)「避難所と避難者について考える」 ・中越大震災、中越沖地震の時の避難所の様子を知る。 ・避難所における中学生の役割や行動について考える。
-----	---

	学習内容(展開例)	資料や学習のポイント等
【導入】	1. 避難所への関心を喚起する。 ① 学校や自分の家の近くの避難所を知っているか問いかける。 ② 学校区周辺の避難所リストを各班に配り、地震が起こった時の避難所を確認させる。 ③ 地震が起こった時の避難所について学習する。	注) グループ(班)別の学習を想定 ≪指導のポイント≫ ○自分たちの中学校でも避難所になること。 ○自分がそこで避難所生活を送る可能性もあること。
【展開】	2. 避難所について知る。 ① 避難所の様子の写真をプロジェクターやモニターで映し、中越大震災及び中越沖地震の際の様子であることを伝え、写真について説明する。 ② 感想や思ったことを発表させる。 3. 避難所において自分たちができることを考える。 ① ワークシートを配布し、「避難者が困ることや不便に感じることを各自で考え、グループ内で意見交換(共有)する。 ② 避難所で困ることや不便に感じることにに対する解決策をグループで話し合う。(共有) ③ 自分たちの解決策をワークシートに記入し、各班が発表することで全体への共有を図る。	≪指導のポイント≫ ○地震には被災地域が広い場合が多いため、他の災害に比べて避難所を利用する人が多いこと。 ○住宅や地盤が崩れた場合、地震がおさまっても帰宅できない人が多く存在すること。(避難所生活が長引く) ○プライバシー確保のため、自動車の中で暮らす人も多いこと。 【想定される答え】 ・プライバシーがない。 ・周りの音が気になる。 ・トイレが混雑する。 ≪指導のポイント≫ ○お年寄りや乳幼児、妊婦、外国人、障がい者など、災害時に逃げ遅れたり、避難所で孤立する人たちがいること。 ○避難所生活では、災害発生による不安でパニックになる人がいること。 ○自動車に避難した場合、「エコノミークラス症候群」という病気に注意する必要があること。 【想定される答え】 ・避難所内の案内表示(マップなど)の作成。 ・食事や物資の配付手伝い。 ・幼い子供の世話や遊び相手。 ・日本語が下得な外国人への通訳。 ・避難所の清掃。

【展開】		◎避難所での行動に正解はない。他者に対して何ができるかを考え、それを実行するという意識や姿勢が大事であることに触れる。
【まとめ】	4. 避難所についてわかったことを確認する。 ○授業を通して感じたこと、新たに分かったこと、自分で考えたことをワークシートに記入させる。	

【授業実践の様子】



＜真砂小学校＞

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード	・海岸が近く、校区には浸水の深さが3 m未満の標高の低い地域があるため、津波や洪水の危険がある。学校は避難所になっているが、地震や津波の際の第1避難場所は屋上という状況である。 ・全校児童394名で、交通安全に対する意識は高まってきているが、防災に対する意識は高くない。 ・各自治会のまとまりが強く、防災訓練等を積極的に行う防災に関心意欲の高い地域である。
保護者・地域・教職員等の願い	授業時間や休み時間を想定して避難訓練を行っているが、災害は子どもたちが登校している時や家にいる時など、学校外で起こる可能性もある。災害時、どこにいても、たとえ一人でも、自分の身を自分で守れるようになってほしい。
防災教育において、目指す児童生徒像	・自分たちの住む地域に起こり得る災害について知り、自分の命は自分で守ろうとする姿勢を身に付けている子ども ・災害時には、自ら危険を察知し、安全を確保するための行動がとれる子ども
補助交付期間に実施した主な取組	・火災（4月）、地震・津波（6月）、不審者対応（10月）、自然災害による保護者への児童引き渡し（11月）を想定した全校避難訓練を年4回行う。 ・地震や津波を想定した避難訓練に合わせて、新潟県防災教育プログラムを活用した授業を各学年で行う。 ・新潟大学災害・復興科学研究所准教授を講師に、津波の危険から身を守る術や避難の心得等について学ぶ講演会（3・4・5年生対象）を開き、その後、保護者への児童引き渡し訓練を行う。（11月） ・文化祭のアトラクションとして防災コーナーを設け、新聞紙によるスリッパ作りを児童や保護者に体験してもらうことで、防災への関心を高める。 ・年に3回（4・9・1月）のベル訓練を行い、緊急放送の聴き方や適切な行動を、日常的に身に付けさせる。
自校プランの内容	・児童引き渡し訓練に合わせて、津波からの避難の仕方の講演会を開くことで、児童や保護者、地域の防災意識を高める。 ・毎年、地震を想定した避難訓練の際に、発達段階に応じて、新潟県防災教育プログラムを活用した授業を行う。
自校プランを継続するための方策	・その都度活動を見直しながら避難訓練や児童引き渡し訓練を充実させ、保護者と連携しながら、児童の防災意識を高める学習への取組を強化する。 ・新潟県の防災教育プログラムを活用し、学年の発達段階に応じた防災学習実施のための資料整備に努める。

[illegible]

3. 真砂小学校 防災教育指導例

小学校第3学年 ※津一選一3対応	(学習のねらい) ○地域の防災の専門家から津波の話を聞き、関心をもつ。 ○津波から身を守るためのポイントに気付く。
-----------------------------------	---

	学習内容（展開例）	資料や学習のポイントなど
【導入】	1. 津波について特別授業を行うことを伝える。 ①東日本大震災の映像を見て、津波の怖さを知らせるとともに、海に面している真砂の地区にも起こり得ることを伝える。 ・津波の映像を見た感想を発表させる。 ・普通の波との違いを考えさせる。 ・津波は建物を壊したり海に流したりするなど大きな被害をもたらすことを気付かせる。 ②地域の防災の専門家から、津波について話をしてもらうことを伝える。	資 100：東日本大震災津波の脅威（映像） 【問いかけの例】 ・真砂の地区の近くで地震が起こりました。注意しなければいけないことは何でしょう。 【想定される答え】 ・津波 ・火災 ・余震 【ポイント】 ○津波は大きな被害をもたらすこと。 ○真砂地区も海に面していて、津波が発生する可能性があること。
【展開】	2. 防災講演会を開き、津波についての知識と地域の避難対策について教える。 ①津波は地震や海底火山の爆発、隕石が落ちたときなどに、発生する大きな波であること ②新潟県の津波浸水想定図を見ながら、自分たちの地域を襲う津波の発生確率や高さの予想 ③津波のスピードや浸水エリア ④津波からの逃げ方（できるだけ早く高い場所に逃げる） ⑤学校や住んでいる近くの避難場所（海拔の高い場所）の確認 ⑥地震に伴って起こる液状化現象についての実験 3. 自分たちで簡単にできる防災グッズ作りを体験させる。 ①いざというときに役立つ、新聞紙を使った簡単なスリッパ作り体験 ②防災グッズをそろえておく大切さを知らせる	講師：新潟大学 災害・復興科学研究所 ト部 厚志 准教授 資：講師作成プレゼン「逃げるのははじだが役に立つ」 ○防災講演会後は、学習参観時に実施し、保護者の参加も広く呼びかける。 ○防災講演会後、自然災害を想定した保護者への児童引き渡し訓練を実施。 ○文化祭のPTA 体験コーナーで実施。 講師：地域教育コーディネーター、PTA ボランティア 資：長岡震災アーカイブセンター きおくみらい「防災グッズチェックリスト」

【まとめ】	4. 特別授業を振り返る。 ①講師の話を聞いて、分かったことや感じたことなどを発表させる。 ②この地域でも津波が発生する恐れがあり、素早く逃げる大切なことを伝える。 ③講師に対して、学んだことや感想をまじえた児童全員のお礼状を出す。	ワークシート 04 【ポイント】 ○津波は、ものを押し流す力が大きく、スピードも速いこと。 ○津波が起こりそうな時は、すぐに高い場所へ逃げる。一刻を争うこと。 ○近くに大人がいない時や一人の時でも、高い場所に逃げる。
【評価】	・津波の危険性や被害について知り、自分の命を守るための方法を理解することができたか。 ・非常持ち出し品、避難方法を日頃から準備・確認しておく必要性を理解することができたか。	

【授業実践の様子】



〔防災講演会〕



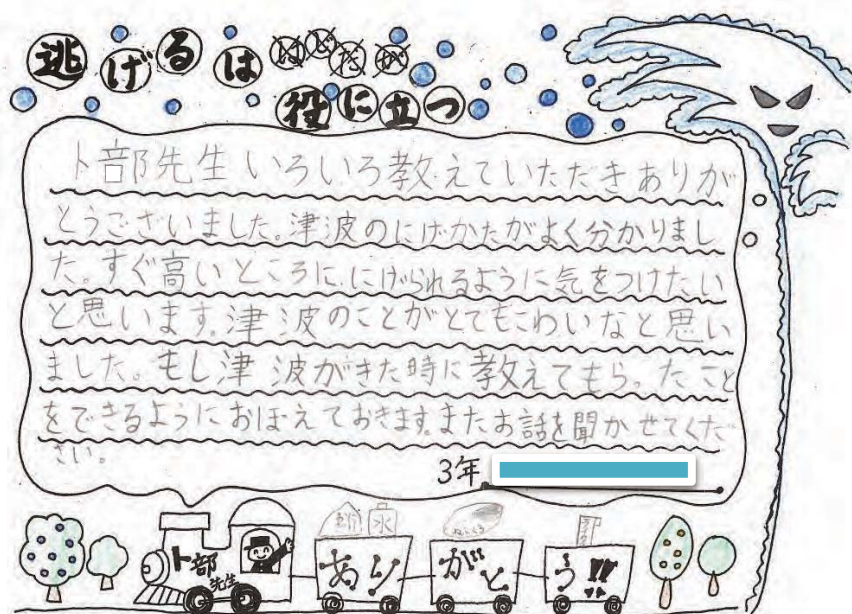
〔液状化実験〕



〔文化祭防災コーナー〕

新聞紙で
スリッパを
作ったよ。

【授業後の「ふりかえり」より】



〔ト部准教授への児童からのお礼状〕

<五十嵐小学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード	・学校は海拔16m，新潟大学が近くにある文教地区に立地している。 ・校区は，高台に位置する所から海拔0mに位置する所と標高差はかなりあり，新潟市ハザードマップでは，校区内の海岸部で津波被害が想定されている。 ・避難訓練は，①避難場所・避難経路の確認，②地震による津波発生時，③休憩時間等，④不審者対応，⑤積雪時の火災発生時の避難をねらいとして，年間5回実施し，児童の防災意識は着実に高まってきている。
保護者・地域・教職員等の願い	保護者…学校は子どもたちが安全に過ごせる場であり，安心して子どもを預けられる場であってほしいと願っている。 地域……学校は，子どもたちの安心・安全を確保している場であり，地域と地域を結び付ける場であることを願っている。 教職員…日常の防災授業や避難訓練を通して，災害が起こった際の行動様式を身に付け，適切な判断力や行動力・実践力を高めてほしいと願っている。
防災教育において、目指す児童生徒像	○普段から，「自分の命は自分で守る」という意識を確実に身に付け，災害時には自分で考え，適切に判断して，安全な行動ができる子ども
補助交付期間に実施した主な取組	・避難訓練年間5回の実施。(全校児童) ・避難訓練後，防災士さんを招いた防災に関する講話(1～4年) ・学習参観日に大学准教授による防災に関する講話(5・6年) ・心肺蘇生法講習会(6年) ・リトルファイヤースクールの実施(4年)
自校プランの内容	・集団下校訓練(4月…全校児童) ・①避難場所・避難経路の確認，②地震による津波発生時，③休憩時間等，④不審者対応，⑤積雪時の火災発生時の避難をねらいとした年間5回の避難訓練の実施(全校児童)※事前・事後指導に防災学習を含める。 ※事前・事後指導の中に防災学習を組み入れる。 ・心肺蘇生法講習会(9月…6年) ・リトルファイヤースクールの実施(7月…4年)
自校プランを継続するための方策	・避難訓練の内容の見直し(引き渡し訓練を含める方向で) ・各教科，総合的な学習と関連付けた防災学習の実施。 ・地域教育コーディネーターとの連携による地域の諸団体を講師とした防災教育の実施。 ・保護者，地域住民との協力及び連携。

2. 五十嵐小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年	町内子ども会・集団下校訓練・通学路の点検											
第2学年	避難訓練①(避難場所・避難経路の確認 火災)											
第3学年	学校探検 (生活)	避難訓練②(地震による津波対応訓練)										
第4学年	町探検 (生活)	リトルフ ァイヤール スクール (社会)										
第5学年	わたしの まち (社会)	避難訓練③(休憩時における火災)										
第6学年	安全な町 づくり (社会)	大学准教授による講話										
						心肺蘇 生法講 習会 (総合)		大地の つくり と変化 (理科)		流れる水 のはたら き (理科)		自然災害と ともに生き る (社会)
										避難訓練④(不審者対応)・ひまわり隊防災劇(二・四年)		人と環境 (理科)
										避難訓練⑤(積雪時の火災・第二避難場所)		

3. 五十嵐小学校 防災教育指導例

小学校全学年		(学習のねらい) 避難訓練をしたり防災講習を聴いたりすることを通して、災害が発生した時に、自分たちの安全を自分たちで守るという防災意識を高める。
	学習内容（展開例）	資料や学習のポイント等
【導入】	1. 避難訓練をする。（地震・津波想定） ① 佐渡沖を震源とする大きな地震が発生。数分後に津波が襲ってくるという想定のもと、全校児童が学校の屋上に避難する。 ② 「地震・津波から身を守るために、大切なことは何か」を考え、行動する。 ※防災講習と避難訓練を一緒に行うには、時間的に無理があるので、避難訓練は別の日に実施。	【ポイント】 ○ 非常ベルが鳴ったら静かに放送を聞く。 ○ 「お(押さない)・は(走らない)・し(しゃべらない)・も(もどらない)」の合言葉を守り、敏速に行動する。 ○ 自分の避難行動の振り返りを行う。 ※ 避難訓練は常に 100 点でなければならないことを指導する。
	2. 防災講習を聴く。 (1) 5・6年生(学者参観日に親子で実施) 講師 新潟大学災害・復興科学研究所 ト部厚志准教授 演題「自然災害に備えて」 ・新潟地震や東日本大震災の話を聞いたりビデオを見たりする。 ・津波の高さや液状化現象についての話を聞いたり実験したりする。 ・いのちを守る物語「約束の命」を視聴する。 (2) 1～4年生 講師 西消防署女性消防団「ひまわり隊」 ・防災着ぐるみ劇「そのときどうする。こんもり森の3匹の場合」を見る。 ・防災クイズをする。 ・「お・は・し・も」の歌を歌う。	 資料 ・新潟地震・東日本大震災災害の映像 ・西区のハザードマップ ・津波で生じる波の高さを表す棒 ・液状化現象を示す実験用具 ・いのちを守る物語「約束の命」DVD 資料 ・着ぐるみ劇「そのときどうする。こんもり森の3匹の場合」 ・女性消防団作成の資料「もし 地震が起きたら！？その時、あなたと家族を守る心得」 【ポイント】※想定にとらわれるな

【まとめ】	3. 家庭で防災について話し合い、防災意識を高める。 ・親子で聞いた准教授の講話や、女性消防団による劇や資料をもとに、防災について家族で話し合う。	【ポイント】 ○ 災害が起きた時の自分たちの安全を守る行動の仕方や備えておく物・避難所について親子で確認をする。 ○ 休日等、学校以外で災害が起きた時に、家族で待ち合わせる場所等について話し合う。
【評価】	○避難訓練を通して、避難の仕方を理解し、訓練を 100 点の行動で行うことができたか。 ○防災講習を通して、大きな地震が起きた時や津波の恐れがある時に、自分たちの身を守る安全な行動の仕方が理解できたか。 ○家族と一緒に防災について話し合い、防災意識を高めることができたか。	

【防災講習の様子】

○5・6年生の大学准教授による防災講習



○女性消防団「ひまわり隊」による1～4年生の防災講習・資料



○防災講習後の子どもの振り返りから（抜粋）

6年 I.N

映像を見て、津波がとても速いのに驚くとともに、津波の恐ろしさが分かりました。災害が起きた時にどういう行動をすればいいのか考えることができました。

6年 N.H

今日のお話を聞いて、立ってられないくらい大きな地震の時に津波が来るかもしれないということが分かり、そんな時にどうしたらよいか、家の人ともっと相談しようと思いました。

11) 中之口中学校区（西蒲区）

対象校：中之口中学校・中之口東小学校・中之口西小学校

① 中学校区ミーティングの実施日及び主な検討内容

	実施日・会場	検討内容
第1回	平成29年6月26日 16:00～16:55 会場:中之口西小学校	1. 5/11（木）研修会の振り返り 2. 今、不安や課題として感じていること（意見交換） 3. 今後のミーティングのあり方やスケジュールについて（意見交換）
第2回	平成29年9月29日 16:00～16:45 会場:中之口西小学校	1. 第1回ミーティングの振り返り 2. 防災教育の進捗及び今後の予定について（情報共有） 3. その他（予算活用状況等）
第3回	平成30年1月31日 16:00～16:40 会場:中之口西小学校	1. 第2回ミーティングの振り返り 2. 各校における取組紹介及び予算活用状況について（情報共有） 3. 平成30年度以降、継続していくための課題抽出と意見交換

② 各学校へのサポート事例

対象校	実施日	サポート 種別	サポート内容
中之口中学校	平成29年 5月25日	電話相談 資料提供	防災講座について相談対応。講座内容に関する資料を提供した。
中之口東小学校	平成29年 5月31日	打ち合わせ	防災講座について打ち合わせ。講座内容について助言と提案を行った。
中之口西小学校	平成29年 6月7日	電話相談	学校・地域合同防災フォーラムについて相談対応。打ち合わせ日程を調整した。
中之口中学校 中之口東小学校 中之口西小学校	平成29年 6月26日	資料提供	学校で活用できる防災教育に関する参考資料（家族防災会議、にいがた災害食レシピ等）を提供した。
中之口西小学校	平成29年 6月27日	打ち合わせ	学校・地域合同防災フォーラムについて打ち合わせ。講座内容について助言と提案を行った。
中之口中学校	平成29年 7月3日	打ち合わせ 資料提供	防災講座について打ち合わせ。1年生の講座内容について助言と提案、講座内容に関する資料を提供した。
中之口東小学校	平成29年 9月13日	講座実施	3～4年生を対象に、新聞紙スリッパ作りを保護者と一緒に体験した。講座後、全校・保護者を対象に、洪水災害の講座を実施した。登校班を中心とした地域グループごとに、防災グッズチェックリストから日頃の備えを考える活動を実施した。
中之口中学校	平成29年 10月3日	打ち合わせ 資料提供	防災講座について打ち合わせ。2～3年生の講座内容について助言と提案、講座内容に関する資料を提供した。
中之口中学校	平成29年 11月16日	講座実施	3年生を対象に、避難所運営ゲーム（HUG）の防災講座を実施した。
中之口中学校	平成29年 11月24日	講座実施	2年生を対象に、避難所運営ゲーム（HUG）の防災講座を実施した。
中之口西小学校	平成30年 1月24日	講座実施	全校・保護者・地域住民を対象に、防災フォーラム（語り部による講話・体験講座）を実施した。

【6/26 第1回中之口中学校区ミーティング】



【9/13 中之口東小学校 防災講座】



【9/13 中之口東小学校 防災講座】



③ 新潟市防災教育コンソーシアム担当コーディネーターより

中之口中学校区では、学校・地域が連携した実践的な取組として、自治会長や地域住民をアドバイザーに迎えた防災講座や防災用品（ダンボール製の避難所用更衣室兼授乳室）の展示を実施した学校や、防災を題材にしたPTA親子講演会を実施し、地域の防災を保護者と共に考える機会を作った学校もあった。また、ウェルカム参観日に防災フォーラムを開催し、語り部による講話や自治会ごとのミーティングで避難場所や避難方法を確認した。

災害時に備えて今できることとして、学校・地域が一体となって地域の防災と向き合い、災害から命を守る行動を真剣に考えている姿があり、まさにこれは地域連携の理想像といえる。児童や生徒においても、地域住民と共に地域の防災を考えることにより、地域の一員としての自覚を促すこともできた考える。

<中之口中学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード	・当校は、中ノロ川に近い。大雨や地震、大雪等に起因して「洪水災害」が起こる可能性のある立地である。年によっては降雪量もあり、「雪災害」が起こる可能性のある立地である。校舎は平成26年度に完成し、耐震構造設計は有効である。水道管は直結してあり、停電時でも使用可能である。生徒は地域への帰属意識は高いが、学校生活が優先され地域行事への参加率は上がらない。
保護者・地域・教職員等の願い	・地域の方は中学生が災害発生時の防災の担い手となることを期待している。そのため、各自治会長などは学校の防災学習に対して、協力的である。地域の防災訓練に是非とも参加してほしいと望んでいる。
防災教育において、目指す児童生徒像	・『災害から生き抜く力』を育み、内発的な自助意識（姿勢）を定着させる。 ・地域に対する関心を高め、自然環境や地域特性を理解させる。 ・被害時や他地域の災害時に、他者に寄り添い力になろうとする気持ちを育む。 ・新潟県中越大震災をはじめ、県の災害の歴史・教訓・知見を理解させる。
補助交付期間に実施した主な取組	・校内避難訓練（地震）後に全校一斉防災学習を実施した。「地震が起きた時、考えられる危険は？」というテーマで、各クラスで場所を分担し、グループでの話し合い活動を通して地震についての理解を深めた。（全校） ・ハザードマップを読み取り、地域を歩き、「危険箇所」や「役に立つ場所」を調査し、グループで共有した。（1年） ・避難所運営ゲーム（HUG）を通して、避難所の役割や機能について学び、避難所で自分たちができることを考えた。（2年） ・自治会長さんへのインタビュー（家の場所確認）を通して、自治会の防災組織や避難の仕方・災害への準備・避難所の確認等を学んだ。（3年）
自校プランの内容	・年2回の避難訓練の実施（地震・Jアラート対応訓練） ・ハザードマップの読み取り ・避難所と避難者について考える ・自治会長さんへのインタビュー ・地域への提言
自校プランを継続するための方策	・教職員自身、自然と正しく向き合う姿勢をもつ。 ・聴き合いや学び合いを取り入れた授業構成の工夫に取り組む。 ・災害を自分事として主体的にとらえる授業を実践する。 ・教育活動全体を通じて、防災教育の目的を達成する。 ・家庭や地域と連携した防災教育を取り入れる。

2. 中之口中学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年	避難訓練（火災）											
	避難訓練（地震）											
第2学年	○災害を知る。身を守る方法を知る。〔津波・地震・洪水・土砂・雪・原子力〕											
	避難訓練（Jアラート対応訓練）											
第3学年	中之口地域一斉防災訓練への参加											
	○災害を知る。身を守る方法を知る。〔同上〕											
	○災害を知る。身を守る方法を知る。〔同上〕											
	○避難所について考える。〔地震・洪水〕 ・避難所での生活について考える。 ・防災グッズや備蓄品を知る。 ・避難所で中学生ができることを考える。 ・避難所運営ゲーム（HUG）の体験。											
	○災害を知る。身を守る方法を知る。〔同上〕											
	○地域の防災について提言する。〔地震・火災〕 ・地域の防災体制や備蓄品について知る。 ・地域の防災訓練を知る。 ・地域の防災体制の問題点を考える。 ・災害発生時、中学生ができることを考える。											

3. 中之口中学校 防災教育指導例

中学校1学年

(学習のねらい)「**居住地域の避難場所と災害(地震・大雨・洪水)発生時における危険箇所の理解を深め、実際の避難行動で役立つ知識を身に付ける。**」

	学習内容(展開例)	資料や学習のポイント等
【事前準備】	1. 地域の災害に関する資料の読み取り(2時間) 地震・水害が起きたときの、中之口東西小学校区別の災害に関する資料を読み取り、その根拠や理由を考える。	○災害に関する資料を相互に関連させながら読み取り、実際に地震や水害が起こったときの地域の様子を考えさせる。 〈資料〉 ・新潟市地区別防災カルテ ・防災地図 ・各災害対策地図 ・震度分布図・標高分布図 ・航空写真 等 ○外部講師からの講話をもとに自分たちの活動評価や振り返りをさせる。
	2. 避難場所や避難経路を確認する(2時間) 避難場所がどこにあるのかを確認し、自分の家からの避難経路を災害ごとに考える。 避難場所や避難経路の長所と短所を考える。	○同地域のメンバーで集まり、自分の地域について理解を深めるようにする。 〈資料〉 ・地域ごとの地図
【現地活動】	3. 地域学習(3時間) 地域ボランティアと一緒に実際に避難場所とその周辺を歩いて調査する。 ①災害時の危険箇所や役に立つ場所の予測をサポートする資料をもち、災害発生時の視点で調査を行う。 ②必要な写真やメモをとり、気付きや疑問、考えなどをグループのメンバーと共有しながら調査活動をする。	○地域ボランティアを募集し、地域ボランティアの方々には、調査の視点やサポート時の声かけの仕方などを事前に送付しておく。 〈資料〉 ・地域調査の視点 ・チェックポイント ・地図 ・カメラ ○生徒が自ら気付くことを大切にする。引率者は、一方的に教えるのではなく、生徒自身が気付き、考えるような促し方や問いかけをする。

【まとめ】	4. 活動後学習（3時間） ・学んだことや大切なことを模造紙にまとめる。 ・地域ボランティアの方々に礼状を書く。	○模造紙の中央に地図を貼り、調べた危険箇所や役に立つ場所等をペンで色分けをするなど工夫して整理させる。 ○撮影した写真と位置情報を関連付けて、写真のそばに理由や気付いたことなどを記入させる。 ○グループ内で写真を一人一枚選び、その場所でのようにして命を守るのかを考え、全員で共有し、模造紙に書き加えさせていく。
【評価】	・自分の住む地域の災害発生時の危険性について具体的に考え、その根拠や理由を資料から読み取ることができたか。 ・地域を歩き調査することを通して、自分の住む地域の避難場所と周辺の道にある災害（地震・大雨・洪水）発生時における危険箇所の理解を深め、実際の避難行動で役立つ知識を身に付けることができたか。	

【授業実践の様子】



【まとめ】



＜中之口東小学校＞

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード	・学区は、新潟市の南西に位置し、中ノ口川沿いに細長く伸びている。 ・大河津分水の決壊による洪水、および新川、大通川流域の増水に起因する洪水の危険が予想される。 ・保護者・地域の愛校心、教育的関心が高く、セーフティスタッフやPTAによる安全の見守りやボランティアによる学習活動への積極的な協力が得られている。
保護者・地域・教職員等の願い	・居住地域の洪水等による危険の可能性や避難の方法について正しく知りたい。 ・災害発生時に備え、子どもたちに日頃からできる準備や心構えを学ばせたい。 ・災害から安全に身を守るための方法や避難の仕方について身に付けさせたい。 ・災害発生時に、地域で協力して対応できるような体制を作りたい。
防災教育において、目指す児童生徒像	・自分の住む地域の様子や災害の危険性について知り、自分の命は自分で守るという姿勢を身に付け、自ら考えて安全確保のための行動ができる子ども ・地域の人や教職員の指示をよく聞き、落ち着いて行動できる子ども
補助交付期間に実施した主な取組	・全校防災学習（５月）・・・防火扉、非常階段等、校内施設を巡り確認。 ・避難訓練、放送（ベル）聞き取り訓練（６月・11月・１月） ・非常時児童引き渡し訓練（６月参観日） ・４年生 リトルファイヤースクール（６月） ・「親子で考える地域の防災」（PTA親子講演会）3,4年生防災教室（９月参観日） ・新潟県防災教育プログラムを活用した全学級での学習（通年）
自校プランの内容	・年度当初の「全校防災学習」で、校舎の防災施設について知らせ、実際に非常階段を下りたり、防火扉の避難用ドアを開けて歩いたりする体験をさせる。 ・地震・津波、火災、不審者対応についての避難訓練、および地震等を想定した非常時児童引き渡し訓練を毎年実施する。 ・3,4年生防災教室「防災グッズ作り」の実施を継続する。（４年生が、新聞紙スリッパの作り方を３年生に教える。） ・年間計画に基づき、新潟県防災教育プログラムの学習を各学年で確実に実施する。
自校プランを継続するための方策	○新潟県防災教育プログラムの必須項目の実施に向け、避難訓練や児童引き渡し訓練に合わせて、想定した災害に関する学習を確実に実施する。 ○各教科と関連した防災教育を継続する。 ○学習参観日に合わせて、児童引き渡し訓練を実施する。 ○学校区の小中学校と定期的な情報交換を行う。

147

3. 中之口東小学校 防災教育指導例

小学校全学年	(学習のねらい)「洪水から身を守るために、私たちが日頃から備えておくことを知る」 ・洪水災害から自分の命を守る対処行動を考える。 ・日頃から家族と災害時のことを話し合っておく必要性に気付く。
---------------	---

	学習内容（展開例）	資料や学習のポイント等
【導入】	1. 洪水災害についての学習のねらいをおさえる。 ① 地震・津波・洪水・竜巻等の自然災害の中で、一番予想できるものはどれかを考えさせる。 ② 「洪水災害」は、雨の降り方や天気予報を確認することで予想できることから、学習のねらい「洪水から身を守るために、私たちが日頃から備えておくべきことを知る」をおさえる。	【問いかけの例】 ・地震・津波・洪水・竜巻等の自然災害の中で、一番予想のできるものはどれですか？ 【ポイント】 ○ いざというときに、ちゃんと行動できるようにするために、日頃からどんな準備をしておけばよいのか考えることが必要。
【展開】	2. 洪水災害の映像を見て、災害の恐ろしさを知る。 ① 平成 23 年の水害時の三条市の被害の様子について画像を見る。 ② なぜ、浸水した水の中を歩いて避難しなかったのかを考えさせ、「川から水があふれている中の避難は危険なこと」をおさえる。 ③ 平成 23 年 7 月水害時のまちの様子について知る保護者からの話を聞く。(インタビュー形式) 3. 洪水災害から身を守る方法を考える。 ① 洪水災害が発生した状況で、どのようにして身を守るか考え、避難行動として、次の点をおさえる。 1) まちが水に浸かる前に早めの避難をする。 2) 水に浸かってからの避難は危険。 3) 外にいるときは、近くの大人に声をかけ、一緒に避難する。 4. 自宅に留まる場合（自宅滞在避難）の準備を考える。 ① 洪水災害時には、電気・ガス・水道・トイレが使用できなくなって困ることをおさえる。 ② グループ活動 地域グループごとに話し合い、「災害時に必要な防災グッズ」を 5 つ、理由をつけて選ばせる。 ③ グループで選んだ 5 つのグッズをホワイトボードに記入し、選んだ理由とともに発表する。(代表) ・赤ちゃんやお年寄り、病人がいる場合など、家庭の状況により、持ち出し品が違うことを確認する。	【スライド資料】 新潟・福島豪雨(平成 23 年 7 月) ・大雨による川の決壊で、一気に道路が浸水した様子、避難や救助が大変だった様子が分かる。 【イラスト資料】 浸水時の危険 【ポイント】 ○ 「浸水時の危険」について、おさえる。 1) 歩道と道路の見分けがつかなくなる。 2) 川や側溝、田んぼに落ちる。 3) マンホールのふたが外れて吸い込まれる。 ○ 大雨が降り続くと、どこでも洪水災害が起こり得ることをおさえる。 【問いかけの例】 ・自宅で一人。今日の夕方から大雨が降り続き、家の前の道路が水に浸かってしまいました。あなたは、どのように行動して自分の身を守りますか？ 【想定される答え】 ・ 2 階へ上がって助けを待つ。 ・ 近くの大人に声をかけて助けてもらう。 【配付資料】 防災グッズチェックリスト ・ 登校班を中心とする地域グループで、保護者も一緒に「避難する際に持っていくもの」を話し合う。 【問いかけの例】 ・ 非常持ち出し品のリストから、自分の家で避難するときに必要なものを 5 つ選びます。あなたの家では、どれを、なぜ選びますか？ 【想定される答え】 ・ 水・非常食・・・ないと生きられないから。 ・ 懐中電灯・・・暗いと危険だから。 ・ 携帯ラジオ・・・災害の情報がほしいから。
【まとめ】	5. 自宅での家庭の備えの大切さを確認し、災害時の行動と備えについて、家族と話し合うことを伝える。 ・ 帰宅したら、家族と「わが家に必要な防災グッズ」について相談して記入することを確認する。	ワークシート 洪水災害から自分の命を守ろう (帰宅後、家族と話し合っておくことを記入してくる) 【ポイント】 ○ 個人や家族構成によっても、必要なものが違うことをおさえる。(赤ちゃん、お年寄りなど)

【評価】

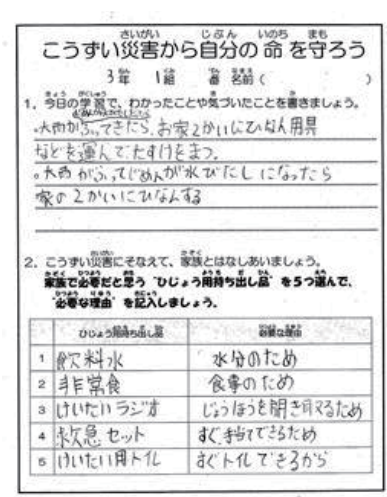
- ・洪水の危険性、大雨による道路の浸水の危険性について知り、洪水災害から自分の命を守るための対処行動について考えることができたか。
- ・非常持ち出し品、避難方法など、日頃から家族と災害時のことを話し合っておく必要性に気付くことができたか。

【授業実践の様子】

9/13 3, 4 年生 防災グッズ（新聞紙スリッパ）作り



9/13 PTA 親子講演会 「親子で考える 地域の防災」



【 PTA の声 】

- 家族にとって何が必要なのか話し合うよい機会になりました。他人事とは思わず、いっどこで同じような災害にあうか分からないので、日頃の意識が大切だと思いました。
- 中之口でも洪水災害はないとは限らないので、家族で避難場所を決めておくことも大事だと思いました。家に帰って防災グッズを話し合い、小分けしてみたいと思います。

<中之口西小学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード	・全校児童122名の小規模校である。校区には田畑が多く集落が点在しているため、集団で登下校している。児童は、明るく素直な子が多い。 ・地区の大部分が軟らかい地盤上に分布するため、大きい地震の時には、強い揺れの可能性がある。また、かつて水田として利用されていた地域では液状化の危険性がある。（津波の浸水は想定されていない。） ・信濃川下流の洪水、大河津分水路の洪水及び新川・大通川流域の洪水によって、浸水の可能性がある。特に、大河津分水路の洪水では地区の広い範囲で洪水の可能性がある。
保護者・地域・教職員等の願い	・児童は様々な災害に出遭うことが予想される。その際に必要な安全な行動について知識をもち、主体的に判断し自分の命を守る行動がとれるようになってほしい。また、災害が非日常の出来事ではなく、日常の延長線上にある身近なものであることを実感させていきたい。 ・各自治会では、防災訓練を行っているが、参加する児童生徒の人数が少ない。学校からも参加するよう声掛けを行ってきた。学校と地域が連携して防災教育に取り組むようにしていきたい。
防災教育において、目指す児童生徒像	・自分たちの住む地域の様子や災害及び被害について知り、自分の命は自分で守るという姿勢を身に付け、災害時には自ら危険を察知し、安全を確保するための行動ができる子ども ・地域の防災の取組や活動について知り、地域の防災に自分たちができることを考え、行動する子ども
補助交付期間に実施した主な取組	○「新潟県防災教育プログラム」による授業実践を行った。 ○地震を想定した避難訓練を行った。（児童引き渡し訓練を含む。） ○地域の防災士を招聘して6年生を対象に洪水災害に関わる授業実践を行った。 ○地域・保護者と共に、地震発生時の対応、地域の行動等について知り、各種体験活動を行った。（中之口西小防災フォーラム）
自校プランの内容	・学年の実態を踏まえ、「新潟県防災教育プログラム」による授業実践を行う。 ・地震等の災害を想定した避難訓練を行う。 ・地域の防災士の支援を受け、地域と連携した防災の活動を指導計画に位置付ける。（児童引き渡し訓練・体験活動等）
自校プランを継続するための方策	・「西蒲区役所総務課安心安全係」「NPO法人 ふるさと未来創造堂」「地域の防災士」と連携し、最新情報を交換しながら取り組んでいく。事前に取り組のイメージを伝え、児童の実態に合った自校化を目指していく。

2. 中之口西小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年	緊急放送を正確に聞き取るための静止訓練（21日）		避難訓練（地震）※引き渡し訓練を含む。（16日） 「新潟県防災教育プログラム」による授業実践（15～16日）									
第2学年												
第3学年												
第4学年												
第5学年												
第6学年												

中之口西小防災フォーラム（地域・保護者と共に、地震発生時の対応、地域の行動等について知り、体験活動を行う。）（ウェルカム参観日）（24日）

避難訓練（休憩時間に火災が発生した場合）（19日）

※中之口西小防災フォーラム説明会②（各自治会長）

防災講座（地域の防災士を招聘し、災害に対する備え方を考える。）（27日）

※中之口西小防災フォーラム説明会①（各自治会長）（30日）

3. 中之口西小学校 防災教育指導例

小学校高学年

(学習のねらい)「洪水災害のおそろしさについて知り、避難所の大切さやそ
こでの生活の様子について考える。」

	学習内容(展開例)	資料や学習のポイント等
【導入】	1. 洪水災害の映像を見て、災害のおそろしさや注意すべきことを考える。 ① 川の水があふれた平成27年9月の関東・東北豪雨の映像を見て感想や気付いたことを発表する。	【問いかけ】 ・今の映像を見て思ったことや気付いたことを発表しよう。 【児童の反応】 ・怖い。大きな家も流されていた。 ・道路が川のようにになっていた。 ・大雨で、堤防が壊れて、まちにどっと川の水が流れてきた。 ・家の屋根やベランダに避難している人がいた。 ・1日たっても、まちは水につかったままだった。 【映像資料】 ・鬼怒川決壊
	2. 大雨により、大河津分水路の水があふれて、学校が避難所になった時に、自分たちができることを考える。 ① 電気・ガス・水道が止まり、子どもたちは学校に残った。避難所で生活する上で、必要な物を話し合う。 ② 避難所で生活をするために、何をしたらよいか話し合う。	【問いかけ】 ・大雨により、大河津分水路の水があふれて、学校が避難所になった。体育館へは、地域の大勢の人が集まってきている。どんなものが必要だろうか？ 【児童の反応】 ・食べるもの ・水 ・服 ・毛布 ・懐中電灯 ・段ボール ・電池式のラジオ・テレビ ・トイレトペーパー ・スリッパ ・カセットコンロ ・無線機 【資料】 ・大河津分水路から学校までの地図 【問いかけ】 ・避難所で生活をするために、何をしたらよいだろうか？ 【児童の反応】 ・どんなものが必要か考える。 ・備蓄してあるものを確かめに行く。 ・自分の家に必要なものを取りに行く。 ・何人いるか調べる。 【留意点】 ・電気・ガス・水道が止まると、家で暮らすことは極めて困難であることを確認する。 ・学校にある備蓄品を写真で確認する。
【展開】	3. 中越地震や中越沖地震の避難所の生活について考える。 ① 中越地震や中越沖地震の時の避難所の様子を見て、気付いたことを話し合う。	【問いかけ】 ・中越地震や中越沖地震の時の避難所の様子を見て、気付いたことを発表しよう。 【児童の反応】 ・真ん中の通路以外は、びっしり人や物で埋めつくされている。 ・断水して、バケツに水をくんで流している。 ・お年寄りの方が、別の部屋にいた。 ・水や食べ物をもらいに行っている。 ・車の中で暮らす人も多い。 【写真資料】 ・避難所の様子
	4. 避難所の収容人数や避難者が多かった場合の対応の仕方について考える。	【問いかけ】 ・中之口西小学校は、避難所になった場合、何人生活できることになっているか予想しよう。

	① 中之口西小学校の体育館は、避難所になった場合、収容人数を予想する。 ② 中之口西小学校への避難者が多くなった場合の対応の仕方について考える。	【児童の反応】 ・130人くらい ・300人くらい ・500人くらい 【問いかけ】 ・中之口西小は洪水や地震の時には、2722人を受け入れることになる。たくさん避難してきたらどうしたらよいか？ 【児童の反応】 ・ホール・ランチルーム・会議室も使ってもらう。 ・廊下にもいろいろな物を置く。 ・駐車場にテントを立てて、炊き出しをしたり、食べ物を配ったりする。
【まとめ】	5. 学習の振り返りとまとめをする。 ① 今日の学習で分かったこと・感想などをワークシートに書かせて、発表させる。 ② 防災士から、今日の学習や災害時の対処についてアドバイスをもらう。	【問いかけ】 ・学習で分かったこと・気付いたことを書いて、発表しましょう。 【児童の反応】 ・どこでも大雨が降ったら洪水は起きる。 ・洪水が起きたら、避難所や高いところに逃げる。 ・避難所の中では、自分たちもできることを手伝うようにする。 【問いかけ】 ・防災士のお話を聞いて、分かったことや考えたことを書こう。 【資料】 ・振り返りのワークシート
【評価】	○大雨が降ったときに、起こる災害について知ることができたか。 ○洪水災害の恐ろしさと、中之口を含めいろいろな所で洪水の危険性があることを知ることができたか。 ○避難所での生活やあり方を考えることができたか。	

【授業実践の様子】



【板書】



12) 西特別支援学校（西蒲区）

① 中学校区ミーティングの実施日及び主な検討内容

	実施日・会場	検討内容
第1回	平成29年5月19日 15:50～17:10 会場:西特別支援学校	1. 5/11（木）研修会の振り返り 2. 今、不安や課題として感じていること（意見交換） 3. 参考資料の説明等（情報提供） 4. 今後のミーティングのあり方やスケジュールについて（意見交換）
第2回	平成29年8月2日 14:00～15:10 会場:西特別支援学校	1. 第1回ミーティングの振り返り 2. 防災教育の進捗及び今後の予定について（情報共有） 3. その他（予算活用状況等）
第3回	平成29年12月6日 15:30～16:30 会場:西特別支援学校	1. 第2回ミーティングの振り返り 2. 取組紹介及び予算活用状況について（情報共有） 3. 平成30年度以降、継続していくための課題抽出と意見交換

② 各学校へのサポート事例

対象校	実施日	サポート 種別	サポート内容
西特別支援学校	平成29年 5月19日	資料提供	学校で活用できる防災教育に関する参考資料（家族防災会議、にいがた災害食レシピ等）を提供した。
西特別支援学校	平成29年 5月25日	電話相談	予算活用方法、避難訓練後の体験講座の内容について相談対応。
西特別支援学校	平成29年 6月7日	電話相談	避難訓練後の体験講座の内容について確認。
西特別支援学校	平成29年 6月21日	電話相談	防災頭巾を紹介したいとのことで、布団やクッションを加工して作れる防災頭巾を紹介した。
西特別支援学校	平成29年 6月27日	参観	避難訓練後、避難用すべり台の滑り方を学習し、防災士の指導の下、全校で避難用すべり台の体験を実施した。布団やクッションを加工して作れる防災頭巾について紹介した。
西特別支援学校	平成29年 7月19日	電話相談	避難訓練後の防災講座の内容について相談対応。
西特別支援学校	平成29年 9月28日	電話相談	避難訓練後の防災講座にて、ゲストスピーカーとの講座について確認。
西特別支援学校	平成29年 11月8日	講座実施	中学部を対象に、洪水災害をテーマに防災講座を実施。浸水時の危険イラストより、避難方法について説明。講座後、ゲストスピーカーより、巻地域水害についての体験談を実施した。

【12/6 第3回西特別支援学校ミーティング】



③ 新潟市防災教育コンソーシアム担当コーディネーターより

西特別支援学校では、学校・地域が連携した実践的な取組として、地域の防災士を招いた体験活動（避難用滑り台体験、水消火器体験）や外部講師を招いた防災講座（地域の消防団による人形劇、コミ協の方から地域で起こった災害についての講話）を実施した。

子どもの居住地域が広範囲であるため、生活地域との連携は難しいが、地域教育コーディネーターを中心に学校所在地域の連携を深めている。学校支援ボランティアとの連携が進んでおり、今回の取組により、消防団やコミ協にも広がった。「本校をもっと地域に知ってほしい」という願いも地域コミュニティとの連携により、今後一層推進していくことを実感した。

避難訓練等の既存行事と関連を図ることで実施する無理のない取組により、平成30年度以降も地域と連携した防災教育が継続していけると考えられる。

<西特別支援学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード	○知的障がいや発達障がいがあり，肢体不自由やその他の障がいを合わせ持っている児童生徒もいる。ほとんどの児童生徒は，スクールバスで登下校しているが保護者送迎や移動支援，デイサービス等を利用している者も多くいる。 ○居住地域は広範囲（新潟市中央区・西区・南区・西蒲区・弥彦村・燕市）であり，地域との連携については，小中学校区の地域防災訓練などの取組は，実施していない。 ○隣接している西蒲高等特別支援学校が避難所となっている。また，校内には，放課後等デイサービスの「西ぽっぷこ〜んクラブ」がある。
保護者・地域・教職員等の願い	○災害等が発生した場合に，慌てたり動揺したりすることなく，家族や地域の教職員等と共に，落ち着いて行動することができるようになってほしい。 ○避難が必要になったときは，避難所のルールを理解して，他の避難者と協力したり仲良くしたりしながら避難所生活ができるようになってほしい。
防災教育において，目指す児童生徒像	○災害等が発生した場合でも，落ち着いて安全に配慮しながら行動することができる児童生徒
補助交付期間に実施した主な取組	○第1回避難訓練（地震想定） ・避難用滑り台の体験とおぶいひもの使い方の体験学習 ○第2回避難訓練（火災想定） ・消火器の使い方の体験と火災等の災害についての学習（人形劇） ○防災教室（自然災害を中心とした講話）
自校プランの内容	○消防署や警察署の他に消防団と連携した避難訓練や防災教育（6月，11月，1月） ○不審者対応職員研修会（7月） ○自家発電装置の機能確認と点検（8月） ○自然災害を中心とした防災教室の実施（11月：中学部対象）
自校プランを継続するための方策	○地域教育コーディネーターと連携して，地域の方々との協力・連携 ○児童生徒の引き渡しについての確認会議や避難訓練等を年間行事予定に位置付けて実施する。

2. 西特別支援学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
小学部		第1回避難訓練（地震想定） 防災士による避難用滑り台（直線・螺旋）の使用方法についての指導・体験 おぶいひもを使った避難についての体験学習	職員会議で、児童生徒の引き渡し方法等の確認と地域グループ別に、児童生徒の自宅・避難場所の確認	西蒲警察署の方から、不審者対応職員研修会（不審者への対峙方法、さすまたや盾、スプレー等の使用方法等について）	自家発電機器の点検と安全点検 東北電気保安協会			第2回避難訓練（火災想定） 防災士による消火器（水消火器）の使用方法についての指導・体験 地域女性消防団による火災対応の人形劇 自然災害（大雨、河川の氾濫）から身を守る行動についての講義		第3回避難訓練（不審者対応）		
中学部												
小中重複学級												

3. 西特別支援学校 防災教育指導例

全校児童生徒対象	(学習のねらい) 「屋外へ避難する方法として、避難用滑り台があることを知り、その体験をする」
-----------------	--

	学習内容（展開例）	資料や学習のポイント等
【導入】	第1回避難訓練後 1. 避難用滑り台があることを知る。 ① 病院や公共施設、学校等には、避難のために滑り台がある所もあることを理解する。 ② 直線滑り台や螺旋滑り台の使用方法を理解する。 DVDを見ながら、イメージしたり、大切なポイントを理解したりする。(地域防災士の方から説明や注意点を話していただく)	【問いかけの例】 ・外に避難する時に、廊下や階段以外に使える場所や物はありませんか。 【想定される答え】 ・スロープ、滑り台 DVD 資料 【ポイント】 ○ 滑り台の途中で、絶対に立ったりしない。 ○ 衣服によって、滑りにくいこともあるが、あわてずゆっくりと降りる。 ○ 手や足を滑り台のサイドカバーから外側に出さないように注意する。
【展開】	2. 避難用滑り台を体験する。 ① 各学部で、避難用滑り台を体験する。 体験を待っている間に、防災頭巾の使い方を体験する。 【小学部】 ○ 直線滑り台を6年生から体験する。待っている間に、おぶいひもを使った背負われる（背負う）体験講習会も実施する。 【中学部】 ○ 螺旋滑り台を3年生から体験する。待っている間に、防災頭巾の使い方の講習を実施する。	教材資料 ・防災頭巾、ヘルメット、おぶいひも（長短2種類） ・教室や廊下に設置してある2種類のおぶいひも（短い白いひも、長い黄色いひも）を準備する。 ○ 上級生から体験することで、下級生がその様子を見て、不安を解消できたり落ち着いて取り組もうとしたりすることができるようにする。
【まとめ】	3. 学習してわかったことを確認する。 ① 避難するための滑り台を体験することができた。 ② 頭を守るための頭巾の使い方が分かる。 ③ おぶいひもの使い方が分かる。	【ポイント】 ○ 普通の滑り台よりも滑りにくいですが、急がずに落ち着いて避難することが大切である。 ○ 避難する際に、頭部を保護するために、ヘルメットや頭巾を使用できるとよいが、帽子やタオルなども有効なので、使用する。 ○ おぶる人は、胸の前で交差させたひもを1回捻ってから脚の方へひもを持っていくとよい。

【評価】

- ・いろいろな避難用滑り台があることを知り、その使い方を理解して安全に使用する体験ができたか。
- ・おぶいひもの使い方がわかり、背負ったり背負われたりする体験ができたか。
- ・ヘルメットや頭巾の使い方を体験すると共に、帽子やタオル等で頭部を守ることが有効であることを理解することができたか。

【授業実践の様子】

第1回避難訓練後の学習（避難用滑り台・おぶいひもの体験）

頭巾やヘルメット使用について



滑り台の使い方の学習



直線滑り台の体験



第2回避難訓練後の学習（消火器の使い方、消防団員による火災対応人形劇、洪水災害についての講義）

ひまわり隊による人形劇（火災対応）



洪水災害についての学習



「防災教育」学校・地域連携事業 実施事例集

(平成 29 年度指定校)

平成 30 年 2 月

新潟市教育委員会

制作：新潟市防災教育コンソーシアム

- ・公益社団法人 中越防災安全推進機構
- ・特定非営利活動法人 ふるさと未来創造堂
- ・特定非営利活動法人 新潟NPO協会



新潟市防災マスコットキャラクター